

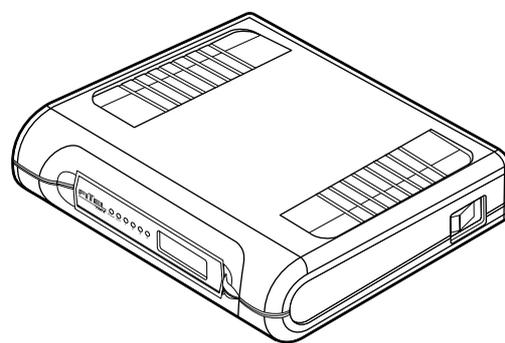
FITEL

net

アクセスルータ

FITELnet-E20/E30

取扱説明書



古河電工

1
前に
お使
い
に
な
る

2
す
る
設
定
の
準
備
を

3
機
器
を
使
う
ア
ナ
ロ
グ
通
信

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

5
機
能
を
使
う
T
A

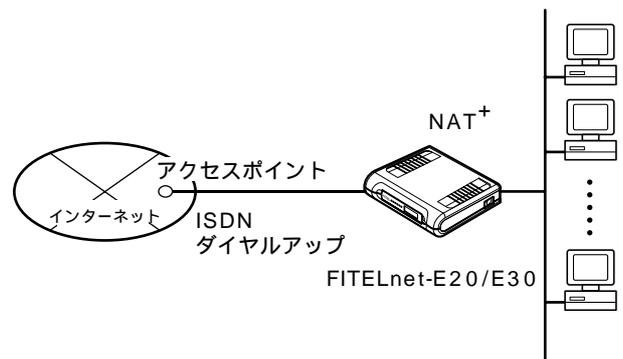
6
ご
参
考
に

メニューページ

ダイヤルアップ接続

複数のパソコンを使いLANを構築するときに、本装置独自の「NAT⁺(plus)機能」を使えば、1つのグローバルIPアドレスに複数のプライベートIPアドレスを集約できます。端末型ダイヤルアップサービスでも、複数の端末をインターネットに接続し、同時に利用することができます。また、PIAFSと組み合わせて、アクセスサーバとしての利用も可能です。

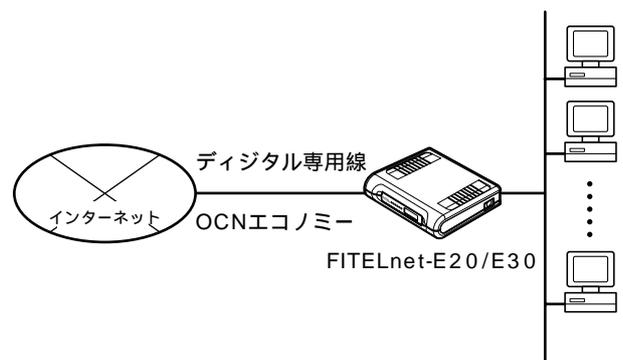
インターネットダイヤルアップ端末型接続 ←P148
ダイヤルアップ対向1対1接続 ←P151
ダイヤルアップ複数相手接続 ←P158
ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続 ←P166
インターネット・複数イントラネット同時接続 ←P175
PIAFS/TA接続 ←P185



専用線接続

デジタル専用線やOCNエコノミーと本装置のルータ機能を使って、LANとインターネットを接続することができます。はじめてLANを構築してインターネットに接続するとき、すでに構築済みのLANをインターネットに接続するときの双方に対応できます。

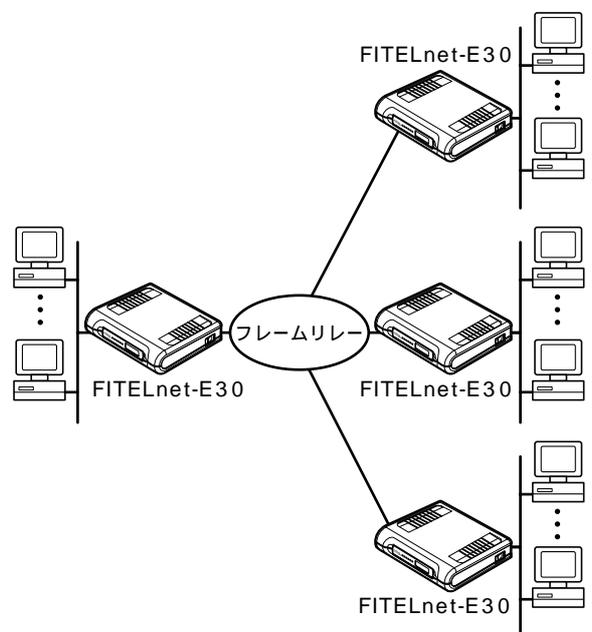
インターネット専用線接続 NAT on ←P194
インターネット専用線接続 NAT off ←P198



フレームリレー接続

FITELnet-E30は、多拠点を高い信頼性で接続することができるフレームリレーサービスに対応しています。企業内などでイントラネット/エクストラネットの構築に最適です。32箇所まで接続できます。

フレームリレー接続 (WAN Unnumbered) ←P212



TA機能

FITELnet-E20はTA機能をサポートしています。LANボードを持たないパソコンでも、パソコンのシリアルポートとFITELnet-E20を使いインターネットに接続することができます。

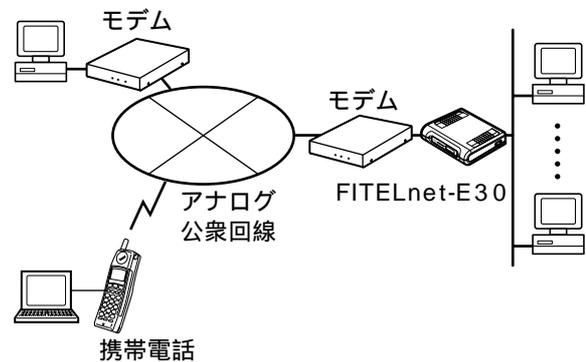
TA機能を使う ← P280



モデム接続

FITELnet-E30のシリアルポートには、外付モデムを接続することができます。モデムを接続することで、アナログ公衆回線を使用したルーティングが確保できます。これにより、携帯電話とも通信できるようになります。また、FITELnet-E30のアナログポートとシリアルポートの間にモデムを接続して、携帯電話などのアクセスサーバとしても使用できます。

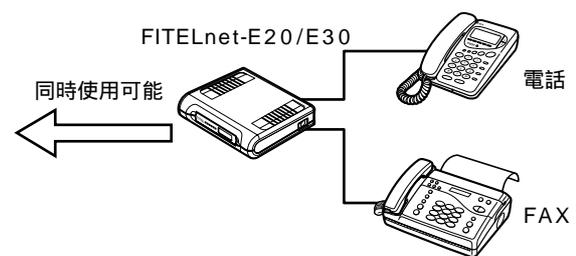
モデム接続 ← P218



電話機能

1台の本装置でインターネット、電話、FAX、モデムを同時に使用することができます。INSネット64が提供するほとんどのサービスに対応しているほか、フレックスホンとほぼ同様の機能を付加料金なしで実現する疑似機能、PHSへの転送、追っかけ転送など、高度な機能も独自にサポートしています。

アナログ通信機器を使う ← P62



安全にお使いいただくために必ずお読みください

はじめに

このたびは、アクセスルータFITELnet-E20/E30をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。本書は、アクセスルータFITELnet-E20/E30の基本的な取り扱いについて説明しています。

・ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

《本書中のマーク説明》

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご注意

- (1) 本装置の耐用年数は6年です。また、本装置の修理可能期間は製造終了後6年間です。
- (2) 本書は内容について万全を期しておりますが、万一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、弊社のサポートデスクにご連絡くださるようお願い致します。
- (3) 弊社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(2)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (4) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命にかかわる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これらの用途については、設備や機器、制御システム等に本装置を使用し、本装置の故障により、生命、身体、財産の被害や、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいては、偶発故障を想定した冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- (5) 本装置を設置するための配線工事および修理には、工事担当者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- (6) この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本装置の廃棄方法について

本装置は成分として半田（鉛）を含みますので、特別管理産業廃棄物に該当します。廃棄する場合は、国、都道府県並びに地方自治体の法規・条例に従って処理してください。

 **警告**

万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社のサポートデスクにご連絡ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

万一、本装置を落としたり、ケースを破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社のサポートデスクにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社のサポートデスクにご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・火傷の原因となることがあります。

本装置を分解・改造しないでください。火災・感電・火傷の原因となることがあります。また、改造は法律で禁じられています。

本装置のケースは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、弊社のサポートデスクにご連絡ください。

異常音がしたり、ケースが異常に熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社のサポートデスクにご連絡ください。

電源コードが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用すると、火災・感電・火傷の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、弊社のサポートデスクにご連絡ください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

警告

本装置のそばに花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。液体がこぼれたり、金属類が入った場合、火災・感電・火傷の原因となることがあります。

ふる場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電・火傷の原因となることがあります。

AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

電源コードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、電源プラグをコンセントから抜き、弊社のサポートデスクにご連絡ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。電源コードが傷つき、火災・感電・火傷の原因となることがあります。

万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。また、アース線をガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

《お使いになる前に（設置環境）》

 注意	直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
	調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
	振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落下してけがの原因となることがあります。
	装置を重ねて置かないでください。また、通風孔は塞がないでください。内部の温度が上がり、火災・故障の原因となることがあります。

《お使いのとき》

 注意	電源プラグをコンセント（AC100V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。
	電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用を控えてください。落雷によって、火災・感電の原因となることがあります。
	本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。ケースや電源コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

《お使いのとき》

 注意	<p>次のような使い方をすると本装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <p>次のような使い方はしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">• じゅうたんや布団の上に置く。• テーブルクロスなどをかける。• 本棚、タンスの中、押し入れの中など風通しの悪い場所に置く。• さかさまに置く。
	<p>長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず乾電池を抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
	<p>電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。</p>
	<p>お手入れをするときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>
	<p>乾電池は正しくお使いください。使い方を間違えると液もれや破裂することがあります。次の点にご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none">• 保証期間内の単3アルカリ乾電池をお使いください。 (アルカリ以外の乾電池は使用しないでください。)• 乾電池をショートさせたり、分解したりしないでください。• 乾電池のプラス(+)、マイナス(-)の方向を確認して入れてください。• 乾電池の液もれによる装置の故障については保証いたしかねます。• 新しい乾電池と古い乾電池は混用しないでください。• 使用済みの乾電池を火中に投げないでください。
	<p>乾電池を取りはずした場合は、小さなお子様が乾電池をなめたり、あやまって飲むことがないようにしてください。乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。</p>

《取り扱いについて》

お願い	ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
	落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

《置き場所について》

お願い	製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。
	電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。 <ul style="list-style-type: none">• 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。• テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。• 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本装置の設置場所を移動してみてください。
	硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本装置の寿命が短くなることがあります。

この取扱説明書のみかた

《この取扱説明書の構成》

- 1 お使いになる前に**
ご使用になる前に知っておいていただきたいことをまとめています。
- 2 設定の準備をする**
Webブラウザやコマンドを使って本装置を設定するまでの準備について説明しています。
- 3 アナログ通信機器を使う**
本装置に接続したアナログ通信機器に関する設定方法と機能の使い方を説明しています。
- 4 ルータ機能を使う**
本装置のルータ機能の設定方法と設定例を説明しています。
- 5 TA機能を使う (FITELnet-E20のみ)**
本装置のTA機能の設定方法と機能の使い方を説明しています。
- 6 ご参考に**
エラーメッセージ、回線ログの一覧や、故障かな?と思ったときの確認方法などをご参考として説明しています。

《操作説明書のページの構成》

章タイトル

章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル

目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント

知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明です。

お願い

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示します。

お知らせ

この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示します。

著作権及び商標について

Windows[®] は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

Windows[®] 98の正式名称はMicrosoft[®] Windows[®] 98 operating systemです。

Windows[®] Meは、Microsoft[®] Windows[®] Millennium Edition operating systemの略です。

Windows[®] 2000は、Microsoft[®] Windows[®] 2000 operating systemの略です。

Windows NT[®] 4.0は、Microsoft[®] Windows NT[®] operating system Version 4.0の略です。

Microsoft Internet Explorerは、米国Microsoft Corporationの製品です。

画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

その他、本文中での記載の製品名や品名は各社の商標または登録商標です。

本書に、他社製品の記載がある場合、これは参考を目的にしたものであり、記載製品の使用を強制するものではありません。



StackerはStac Electronics社の登録商標です。

LZSはStac Electronics社の商標です。

目次

メニューページ	2
安全にお使いいただくために必ずお読みください	4
この取扱説明書のみかた	10

1 お使いになる前に

機能概要	15
各種契約について	16
通信事業者との回線契約	16
インターネットサービスプロバイダとの契約	17
セットを確認してください	18
各部の名称	19
停電になったときのために	28
接続します	29
接続の手順	29
接続上の注意	31

2 設定の準備をする

機能概要	33
設定する前に	34
動作環境	34
設定するまでの手順	34
設定操作のしかた	35
Webブラウザを使った設定の流れ	35
コマンドを使った設定の流れ	
(10BASE-Tポート経由)	38
コマンドを使った設定の流れ	
(シリアルポート経由)	42
アナログ電話機を使った設定の流れ	46
設定を初期化するには	47
コマンドを使って初期化する	47

ログインIDを設定する	48
パスワードを登録、変更する	50
ログインパスワードを登録、変更する	50
コンフィグレーションパスワードを登録、 変更する	52
時刻の設定	54
ファームウェアのアップデート	55
設定ファイルの転送	57
ルータ機能設定ファイルのファイル転送	57
電話機能設定ファイルのファイル転送	59
設定画面の一般的な操作方法とみかた	61

3 アナログ通信機器を使う

機能概要	62
電話をかけるには(発信)	63
短縮ダイヤルで電話をかけるには(短縮ダイヤル)	65
同じ相手にかけ直すには(再ダイヤル)	66
内線でお話するには(内線通話)	67
電話を受けるには(着信)	68
外からの電話を取りつぐには(内線転送)	69
i・ナンバーを利用するには	70
追加番号の登録	70
契約者回線番号だけ鳴らすように設定する	71
追加回線番号だけ鳴らすように設定する	71
契約者番号と追加回線番号を鳴らすように 設定する	72
コールウェイティングを利用するには	73
通話中の電話を転送するには(通信中転送)	74
3人でお話するには(三者通話)	75
コールバック機能を利用するには	76
コールバック機能の設定	76

1
前に
お
使
い
に
な
る

2
す
る
設
定
の
準
備
を

3
機
器
を
使
う
ア
ナ
ロ
グ
通
信

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

5
T
A
機
能
を
使
う

6
ご
参
考
に

目次

コールバック機能の利用	77	契約者回線番号（グローバル着信番号）のみ着信する （グローバルセレクト機能）ように設定する	101
中継機能を利用するには（中継許可指定）	78	ダイヤルイン番号、グローバルセレクト機能を 利用しないように設定する	101
中継許可指定の設定	78	サブアドレス設定を行うには	102
中継許可指定の利用	78	指定サブアドレスのみ着信するよう設定する	102
INSボイスワープ機能を利用するには	79	指定サブアドレスとサブアドレスなしを着信 するよう設定する	102
INSなりわけサービスを利用するには	80	サブアドレスなしのみ着信するよう設定する	103
通信中に電話機を移動するには （通信中機器移動）	81	サブアドレスを利用しないよう設定する	103
通話を中断する	81	機器種別設定（TELポートのHLC設定）を 行うには	104
通話を再開する	81	TELポートの機器種別を設定する	104
アナログ機能を設定するには	82	1回ごとに機器種別を変更する	105
アナログ機能一覧	82	ダイヤル完了タイマ設定を行うには	106
電話機を利用した設定	84	通話時のボリュームを調整するには	107
短縮ダイヤル登録を行うには	85	追加呼出遅延（ベル回数）を設定するには	108
着信転送設定を行うには	86	時刻を設定するには	109
着信転送を設定する	86	フッキングを設定するには	110
呼出ベル回数を設定する	89	フッキングを設定する	110
転送トーキを設定する	90	フッキング代用を設定する	110
暗証番号を登録する	91	内線呼出ベルを設定するには	111
フリー転送を設定する	93	切断音制御を設定するには	112
追っかけ転送を設定する	94	識別着信を設定するには	113
着信転送とナンバー・ディスプレイについて	95	FAX無鳴動着信を設定するには	114
着信種別設定を行うには	96	INSナンバー・ディスプレイを設定するには	115
発信者番号通知設定を行うには	97	疑似なりわけを設定するには	117
発信者番号通知を設定する	97	ベル周波数を設定するには	118
通知する電話番号（自局アドレス）を登録する	98	発信者番号優先着信を設定するには	119
1回ごとに発信者番号通知設定を変更する	99	その他の機能を設定するには	120
グローバルセレクト、ダイヤルイン設定を行うには	100	ディスプレイのバックライトを設定する	120
指定ダイヤルイン番号のみ着信するよう に設定する	100	IPアドレス設定用暗証番号を設定する	121
指定ダイヤルイン番号と契約者回線番号 （グローバル着信番号）で着信する	100		

IPアドレス、サブネットマスクを設定する	122
設定を保存するには	124
Webブラウザを利用した設定	125
電話機能を設定する	125
基本設定	126
応用設定	127
着信転送設定	128
コールバック・中継設定	129
短縮ダイヤル登録	130
コマンドを利用した設定	131
アナログポートの設定をする	131
その他のアナログ機能を設定・表示するには	137
フレックスホン契約状況を表示する (lineisコマンド)	137
課金情報を表示/クリアする (chargeコマンド)	138
コールバック課金情報を表示/クリアする (charge callbackコマンド)	140
回線割り当てを設定する (rbodコマンド)	142
BACPを設定する (bacpコマンド)	143
TELポートごとにアナログ機能の設定を表示する (showコマンド、displayコマンド)	144

4 ルータ機能を使う

ルータ機能概要	145
設定情報	145
設定情報を設定するための接続	145
いろいろな利用ケース	146
利用ケースの切り分け	147
具体的な設定方法	148
インターネットダイヤルアップ端末型接続	148

ダイヤルアップ対向1対1接続	151
ダイヤルアップ複数相手接続	158
ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続	166
インターネット・複数イントラネット同時接続	175
PIAFS / TA接続 (アクセスサーバ)	185
インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT on>	194
インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT off>	198
専用線対向接続 (WAN Unnumbered)	202
専用線対向接続 (WAN Numbered)	207
フレームリレー接続 (WAN Unnumbered、 InverseARP使用、スタティックルート)	212
モデム接続	218
ルータの便利な設定	223
ISDN回線の接続について	223
ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録	225
ダイヤルアップ回線接続先の登録	226
DHCPサーバ機能	229
NAT ⁺ 機能	232
NATスタティック登録	233
NAT ⁺ スタティック登録	234
syslogの送信	235
ISDN回線の接続が可能なパケットの指定	236
IPパケットフィルタリング	237
中継するIPパケットの登録	238
中継しないIPパケットの登録	239
IP RIPスタティック	240
詳細設定	242
インタフェースの設定	242
ProxyARPの設定	243
RIPの制御	244

1
前に
お
使
い
に
な
る

2
す
る
設
定
の
準
備
を

3
機
器
を
使
う
ア
ナ
ロ
グ
通
信

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

5
T
A
機
能
を
使
う

6
ご
参
考
に

目次

受信RIPフィルタリングテーブル	245
送信RIPフィルタリングテーブル	246
ルート情報提供ルータの指定	247
ブリッジングの設定 (FITELnet-E30のみ)	248
データリンクの設定	249
ダイヤルアップ回線制御	251
ダイヤルアップ回線制御画面を表示する	251
ISDN回線を接続する (connectコマンド)	252
ISDN回線を切断する (disconnectコマンド)	254
ISDN回線のMP接続を行う (lsplitコマンド)	256
MP接続しているISDN回線を切断する (lsplitコマンド)	257
リミッタを解除する (unlockコマンド)	258
インフォメーション	259
インフォメーション画面を表示する	259
装置情報を表示する (hereisコマンド、 uptimeコマンド、dateコマンド)	260
ダイヤルアップ接続先情報を表示する (targetisコマンド)	261
通信状態を表示する (chargeコマンド、 lineisコマンド)	263
統計情報を表示する (stchannelコマンド、 stipコマンド)	265
ルーティングインタフェースを表示する (ipinterfaceコマンド)	269
ルーティング状態を表示する (iprouteコマンド)	271
DHCPの状態を表示する (dhcpcstatコマンド)	272
NAT*の状態を表示する (natinfoコマンド)	274

エラーログを表示する (elogコマンド)	275
回線ログを表示する (llogコマンド)	276
接続要因パケットログを表示する (alogコマンド)	278

5 TA機能を使う

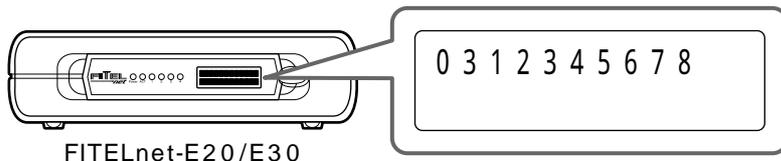
機能概要	280
接続ソフトをインストールするには	281
モデム定義ファイルをインストールするには	282
プロバイダの設定	283
プロバイダへの接続	284

6 ご参考に

故障かな?と思ったら	285
エラーメッセージ一覧	286
エラーメッセージ表示方法とみかた	286
データ通信時のエラーメッセージ	287
回線理由コード一覧	288
ISDN網から通知される回線理由コード	288
ISDN網以外(専用線を含む)から通知される 回線理由コード	290
コマンドによるping実行時のエラーメッセージ	291
その他のエラーメッセージ	291
回線ログ一覧	293
LANのログ	293
高速デジタル専用線ログ	293
ISDN回線ログ	293
索引	294
仕様一覧	297

液晶ディスプレイに状態表示が可能

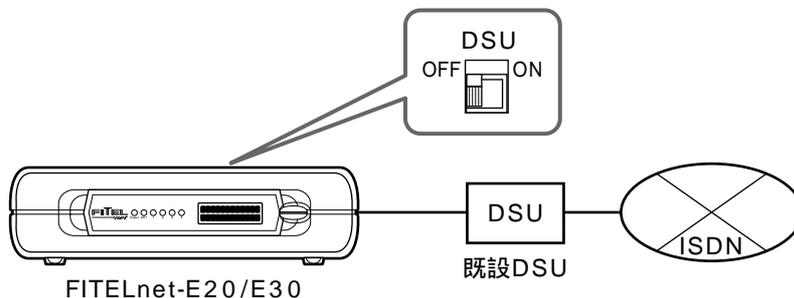
本装置には液晶ディスプレイがあり、その表示によって本装置の使用状況や発信 / 着信履歴などを簡単に確認することができます。



FITElnet-E20/E30

DSUスイッチで既設のDSUの利用も可能

本装置にはDSUが内蔵されており別途DSUを用意する必要はありませんが、現在DSUを設置している場合は、本装置のDSUスイッチでDSUを切り離し、既設のDSUに本装置を接続することも可能です。



FITElnet-E20/E30

通信事業者との回線契約

本装置は、ISDN、高速デジタル専用線をサービスする種々の通信事業者と接続することができます。ここでは、日本電信電話株式会社（以降NTT）を例にして、回線契約について説明します。NTT以外の通信事業者と回線契約する場合は、各通信事業者にご相談ください。

高速デジタル専用線（HSD）の契約条件

高速デジタル専用線を契約する場合は、高速デジタル伝送サービス（インタフェース）の基本インタフェース（回線速度64kbpsまたは128kbps以下）を指定してください。

HSDの場合、アナログポートは使用できません。

回線認定番号について

本装置はNTT回線の適合検査に合格した認定品です。INSネット64と契約する場合は、回線認定番号を連絡すれば、すぐに本装置を接続できますので、回線認定番号をあらかじめ控えておいてください。（回線認定番号は、INSネット64の申込票に記載する必要があります。）

回線認定番号は品名シールに記載されています。（P27）記載されている番号すべてを申込票に記載してください。

ISDNの契約条件

ISDNを契約する場合は、INSネット64を指定してください。本装置は、INSネット64の各種サービス（フレックスホンなど）に対応しています。また契約条件として、以下の事項に従ってください。

- (1) インタフェース形態およびレイヤ1起動種別
 インタフェース形態は、P-MP接続で契約してください。レイヤ1起動種別は、以下のように選択してください。
 - 本装置を単独でISDNに接続する場合...常時起動
 - 他のISDN装置（電話・FAX等）とパス接続する場合...常時起動または呼毎起動（他装置に合わせる）
- (2) 発信者番号通知サービス
 呼毎通知許可で契約してください。
- (3) ユーザ間情報通知サービス
 着信許可または着信拒否で契約してください。
- (4) 付加機能
 次のサービスを契約してください。
 - 通信中機器移動サービス（無料）
 - 通信中着信通知サービス（無料）

- フレックスホン（有料：コールウェイティング機能、三者通話機能、通信中転送機能、着信転送機能）
 ご利用になる機能を選択してください（本装置では4つの機能すべてに対応しています）。ただし、本装置をお使いの場合は、フレックスホンサービスをご契約でない場合でも、同様な機能をご利用になれます（疑似フレックスホン機能）。
- INSなりわけサービス（有料）
 本装置をお使いの場合は、なりわけサービスをご契約でない場合でも、同様な機能をご利用になれます（疑似なりわけ機能）。

フレームリレーの契約条件

FITELnet-E30は、フレームリレーを接続できます。フレームリレーを契約する場合は、国内のフレームリレーをサービスしている通信業者と契約してください。物理回線スピードは64kbpsもしくは128kbpsに対応しており、ITU-Tの規格に適合しているフレームリレー交換機と接続することができます。契約条件として、以下の事項にしたがってください。

(1) NTTフレームリレーサービス

FITELnet-E30に依存する契約内容（NTTフレームリレーサービス（第1種）契約申込書（2）に記載されている項目から）は次の通りです。

項目		設定内容
端末設備	DTE	FITELnet-E30
	製品名等 物理変換アダプタ	なし
CLLMサポート		サポート
PVC状態確認手順サポート	非同期	非サポート
	同期	片方向サポート / 端末（DTE）

第2種フレームリレーサービスをご利用の場合は、これらの設定内容が固定で設定されますので、記入の必要はありません。

(2) NTT以外のフレームリレーサービス

PVC状態確認手順（LMI）はITU-T：Q.933 Annex Aとしてください。

DLCI番号は16から47の範囲で指定してください。

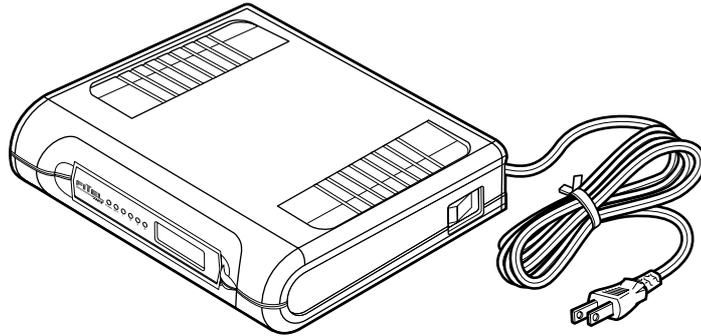
インターネットサービスプロバイダとの契約

インターネットにアクセスする場合は、サービスを提供するインターネットサービスプロバイダ（以下プロバイダ）に加入する必要があります。

- プロバイダへの加入は、料金やアクセスポイントなどを調べて行ってください。
- プロバイダに加入すると、ユーザID、パスワード、DNSサーバのIPアドレス、アクセスポイントの電話番号などが通知されます。
- これらの情報をもとに、必要な設定を行い、インターネットに接続してください。

セットを確認してください

本体



FITELnet-E20/E30

付属品

[FITELnet-E20/E30]

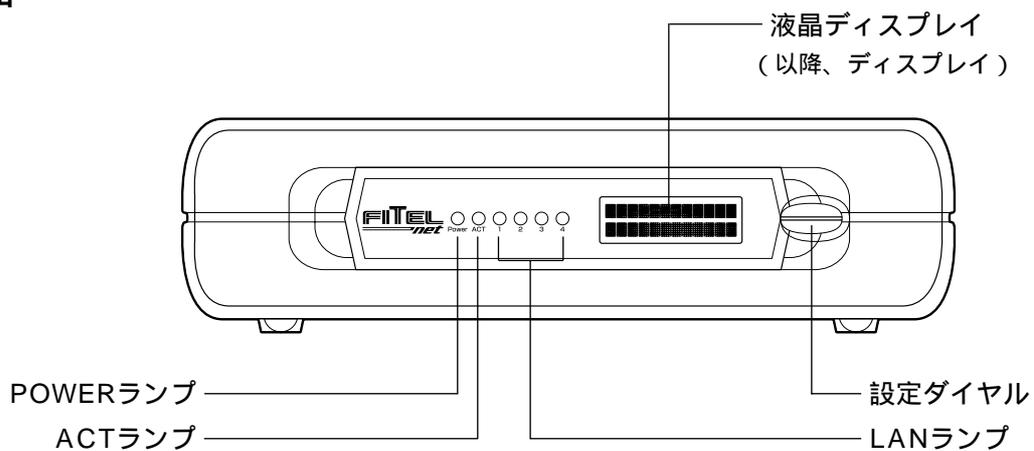
電話機コード (1本: 約3m)
10BASE-Tケーブル
シリアルケーブル (RS-232Cクロス)
FITELnet アナログ機能操作早見表
クイックスタートガイド

CD-ROM
• 取扱説明書 (本書)
• ATコマンドをお使いのときに
• クイックスタートガイド
• FITELnet アナログ機能操作早見表
• モデム定義ファイル

セットに不足があった場合、また取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、弊社窓口等またはお買い求めになった販売店へご連絡ください。

各部の名称

前面



各部の名称

ディスプレイに表示されるメッセージ一覧

データ通信中のディスプレイ表示



メッセージ	状況
PPP	PPP接続で通信中です。
MP	MP接続で通信中です。
	ISDNの常時接続中です。
P32	PIAFS 32kbps接続で通信中です。
P64	PIAFS 64kbps接続で通信中です。
D	Dチャンネルパケット通信中です。
A	モデム接続中です。
センヨウセン	OCN（その他専用線）接続で通信中です。
フレームリレー	フレームリレー接続で通信中です。
1	TEL1の電話が未使用です。
0	電話の受話器が外れています。
1	TEL2の電話が未使用です。
0	電話の受話器が外れています。

Bチャンネルを2回線使用して通信中のときは、通信の種類が2つ表示されます。

データ通信エラー時/データ通信切断時のディスプレイ表示

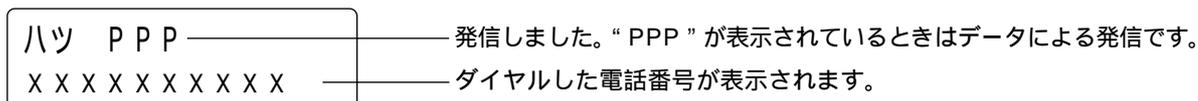
通信エラー時、通信切断時ともに同じメッセージが表示されます。



メッセージ	状況
ケツバン	欠番
モウヘノルートナシ	網へのルートがありません。
アイテヘノルートナシ	通信先に接続するためのルートがありません。
チャンネルリョウフカ	Bチャンネルが利用できません。
(任意)	任意のメッセージを表示できます。 正常切断したときは「ツウシンオワリ」と表示されます。
アイテビジー	通信先がビジーです。
レスポンスナシ	通信先から応答がありません。
アイテオウトウナシ	通信先から応答がありません。
カニューシャナシ	通信先の電話番号は現在使われていません。

メッセージ	状況
ツウシンキョヒ	通信先から接続拒否されました。
バンゴウヘンコウ	通信先の電話番号が変更されました。
アイテコショウ	通信先が故障しています。
バンゴウエラー	無効番号フォーマット（不完全番号）
ソノタセイジョウ	その他の正常クラス
リヨウカカイセンナシ	Bチャンネルが使用中です。
モウショウガイ	網障害が発生しています。
イチジテキショウガイ	一時的な障害です。
コウカンキフクソウ	網輻輳が発生しています。
タンマツゾクセイエラー	端末属性が一致していません。
リンクエラー	リンクエラーです。
ドウキエラー	同期エラーです。
ソノタエラー	その他のエラーです。

発信時のディスプレイ表示



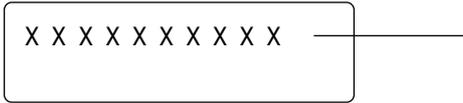
着信時のディスプレイ表示



メッセージ	状況
チャク PPP	データにより着信しました。
チャク	電話番号が通知されて電話がかかってきました。
XXXXXXXXXX (電話番号)	XXXXXXXXXXから電話がかかってきました。
ツウチキョヒ	発信者が番号通知を拒否して電話をかけてきました。(INSナンバー・ディスプレイを契約時)
ヒョウジ ケンガイ	INSナンバー・ディスプレイ未契約の電話、もしくは番号通知できない圏外などから電話がかかってきました。(INSナンバー・ディスプレイを契約時)
コウシュウデンワ	公衆電話から電話がかかってきました。(INSナンバー・ディスプレイを契約時)

各部の名称

電話切断時のディスプレイ表示



	メッセージ	状況
	XXXXXXXXXX (電話番号)	電話番号が通知されて電話がかかってきました。
	ヒツウチ	発信者が番号通知を拒否して電話をかけてきました。(着信の場合で、INSナンバー・ディスプレイを契約時)
	ヒョウジ ケンガイ	INSナンバー・ディスプレイ未契約の電話、もしくは番号通知できない圏外などから電話がかかってきました。(着信の場合で、INSナンバー・ディスプレイを契約時)
	コウシュウデンワ	公衆電話から電話がかかってきました。(着信の場合で、INSナンバー・ディスプレイを契約時)

リモートログイン表示

ftpデ
ログ インサレタイムス

ftpでログインされている場合
telnetでログインされている場合は「telnetデログインサレ
タイムス」となります。

E30FIRM

E30FIRMを受信中（パソコンから送信中）
上段はファイル名により異なります。

E30FIRM

E30FIRMを送信中（パソコンで受信中）
上段はファイル名により異なります。

E30FIRM
テンソウシュウリョウ

転送が終了しました。

E30FIRM
テンソウシッパ°イ

転送が失敗しています。
転送ファイルを確認して、再度転送し直してください。
電源OFF、再起動はしないでください。

E30FIRM
タイムアウト

転送がタイムアウトしました。
ネットワーク環境を確認して、再度転送し直してください。
電源OFF、再起動はしないでください。

各部の名称

ファームウェアが起動するまでのディスプレイ表示

```
Start up
error
```

メッセージ	状況
Start up error	ファームウェアの起動中、エラーが発生しました。もう一度本装置を起動し直してください。
Self test Executing..@	自己診断テスト中です。 「@」の部分は点滅します。
Self test error (xx)	自己診断テスト中にエラーが発生しました。(エラーコードxx) エラーコードよりエラー内容を確認し、対処してください。
Boot (v01.00) Executing..@	システムブート中です。(v01.00はファームウェアの版数) 「@」の部分は点滅します。
Boot (v01.00) error	システムブート中にエラーが発生しました。(v01.00はファームウェアの版数) 再立ち上げ後、再度表示される場合は弊社のサポートデスクへご連絡ください。
Broken Firm Need install	ファームウェアが壊れています。 再立ち上げ後、再度表示される場合は弊社のサポートデスクへご連絡ください。
Broken CONF Init by Push	構成定義エラーです。設定ダイヤルを2秒以上押してから離してください。 設定情報が初期化された状態で起動します。

その他のディスプレイ表示

```
1月 1日 12:00
メッセージ
```

メッセージ	状況
テイデン	停電中で、乾電池で動作中です。
バッテリー ロー	停電中で、乾電池により動作していますが、乾電池の残量が少なくなりました。

ランプ表示

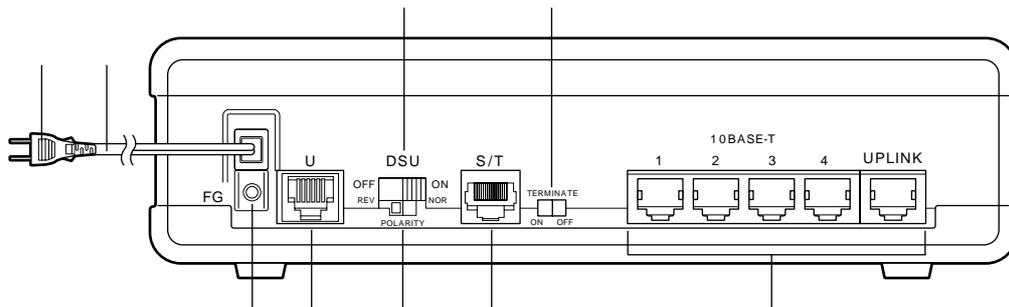
ランプ	動作
LAN1 ~ 4	10BASE-Tポートに接続されている機器と正常に接続している場合は、対応するポートのランプが点灯し、通信が行われると点滅します。
POWER	電源投入中を示し、通電中は点灯します。
ACT	WAN回線が正常に接続している場合は点灯します。

お知らせ

各ランプの点灯状態の組み合わせで、本装置および回線の状態を示します。組み合わせについては、「故障かな?と思ったら」を参照してください。(☛P285)

各部の名称

背面



電源プラグ

電源コード

FG端子

アースを接続します。(☞P31)

LINE Uポート

ISDN回線に接続します。(☞P29、30)

DSUスイッチ

本装置のDSUを使用する場合は「ON」、本装置のDSUを使用せずに、他のISDN機器のDSUを使用する場合は「OFF」を選択します。

極性設定スイッチ

DSUの極性を設定します。

デジタル通信機器ポート(S/T点)

デジタル通信機器(デジタル電話機、G4-FAX等)を接続します。(☞P29、30)

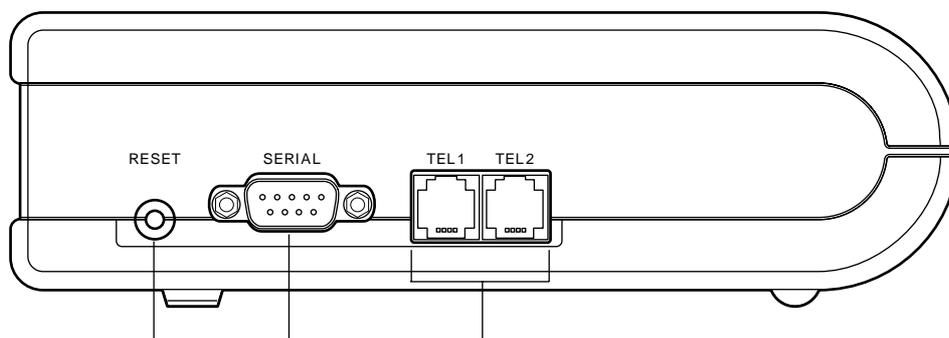
S/T点終端スイッチ

終端抵抗のあり/なしを設定します。

10BASE-Tポート

10BASE-Tケーブルで、HUBまたは端末と接続します。(☞P29、30) HUBと接続する場合は、「UPLINK」と書かれたポートに接続してください。この場合、4番ポートは使用できなくなります。

左側面



リセットスイッチ

本装置をリセットします。先端のとがったもので押してください。

シリアルポート

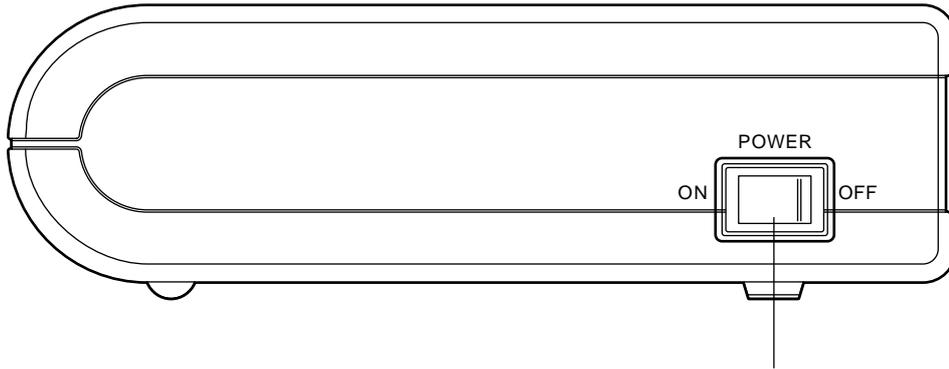
本装置の設定情報の設定を行う場合に、パソコンなどの端末を接続します。FITElnet-E20では簡易TA機能をご利用になれます。(☞P230)

FITElnet-E30ではモデムを接続し、アナログ回線を利用したルーティングもできます。(☞P218)

アナログ通信機器ジャック

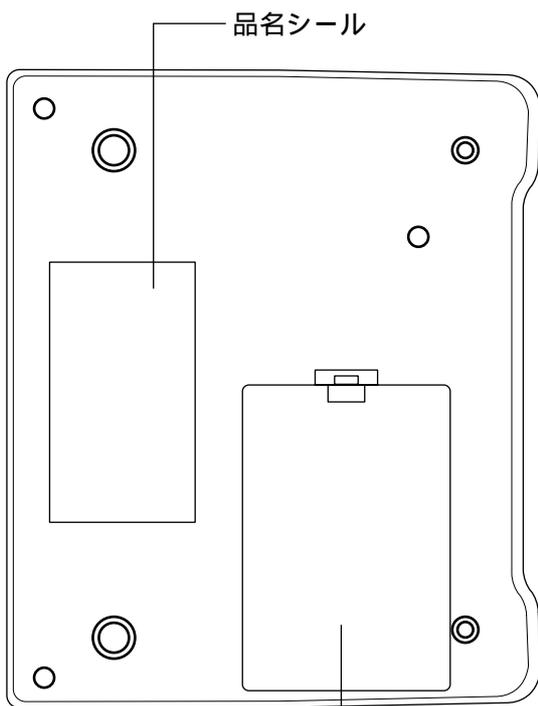
アナログ通信機器を接続します。(☞P29、30)

右側面

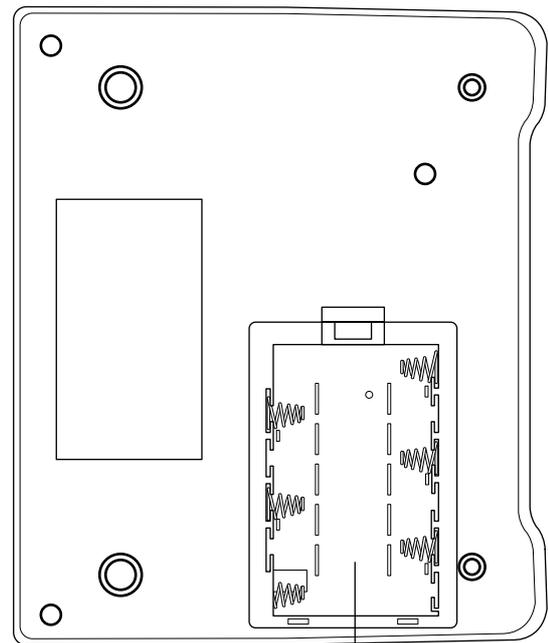


電源スイッチ
装置の電源をON / OFFにします。

裏面



乾電池カバー

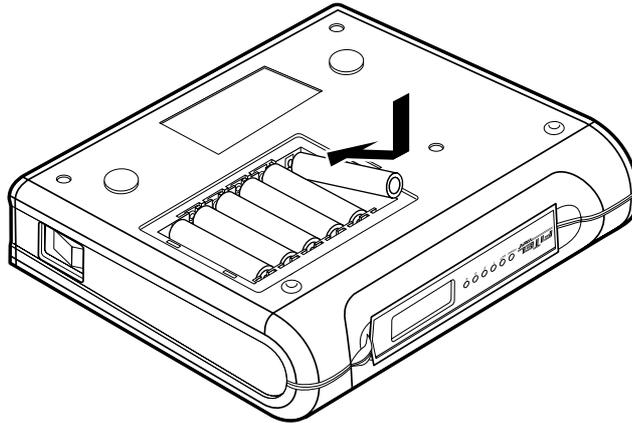


乾電池ホルダ

停電になったときのために

不意の停電の際でもTEL1ポートに接続した電話機での通話ができます。TEL2ポートおよびデータポートに接続した機器では通信できません。

- 1 乾電池カバーを開けて、乾電池ホルダに単3アルカリ乾電池を6本入れます。乾電池を入れるときは、プラス・マイナスの向きを確かめて入れてください。乾電池はお客様で、ご用意ください。



- 2 乾電池カバーを取り付けます。

お願い

本装置は、停電時にも電話による通話を確保する目的で、アルカリ乾電池によるバックアップ機能を持っています。しかし、バックアップ用にアルカリ乾電池を入れたままで、長時間ご使用になった場合、使用環境や電池自体の不良などにより液漏れを起こすことがあります。通常のご使用時は電池を外し、停電時のみ電池を装着されることをお勧めします。なお、アルカリ乾電池以外は絶対に使用しないでください。

お知らせ

停電になった場合、本装置は1度リセットし、乾電池により動作します。新品のアルカリ乾電池での待ち受け時間の目安を以下に示します。(電池メーカーにより多少のずれはあります。)

通話なし	通話
約6.0時間	約3.5時間

停電中は以下の機能は動作しません。

- 内線通話
- ルーティング機能
- 内線転送
- コマンド入力
- 追加呼出

パソコンの背面のコンセント等から本装置の電源をとっている場合に、パソコンの電源を切ると、停電時の動作と同じになる場合があります。電池が消耗します。電源はパソコンの背面以外のコンセントからとることをお勧めします。

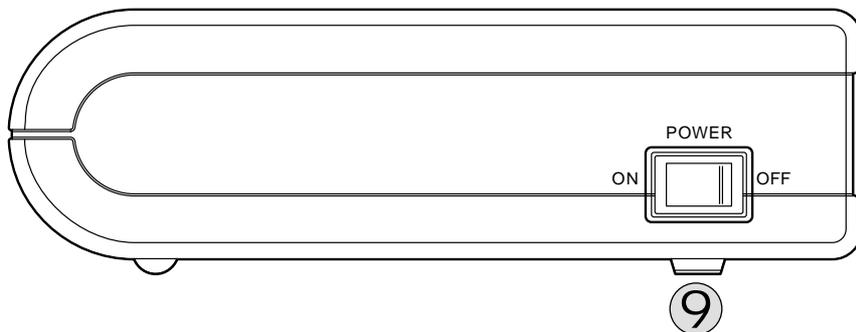
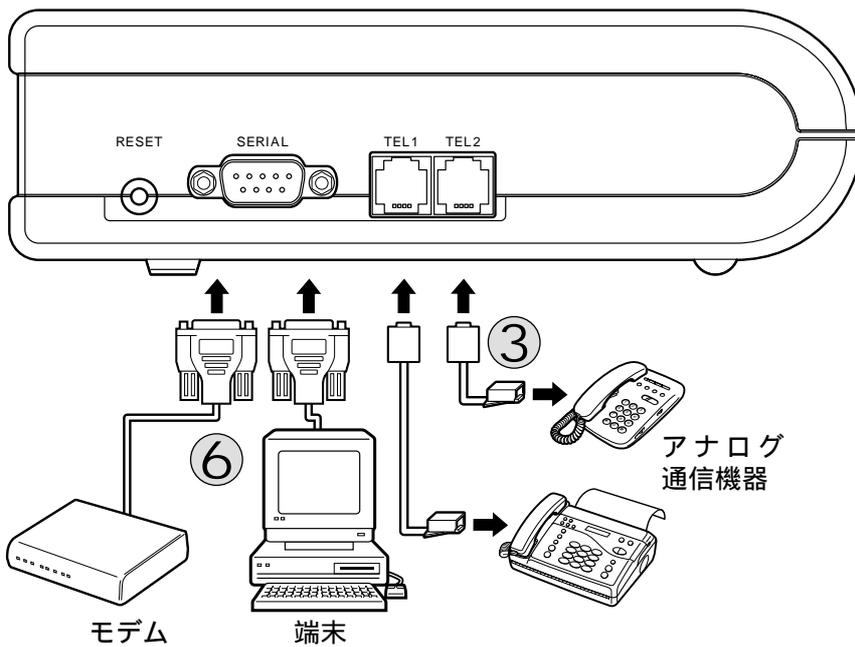
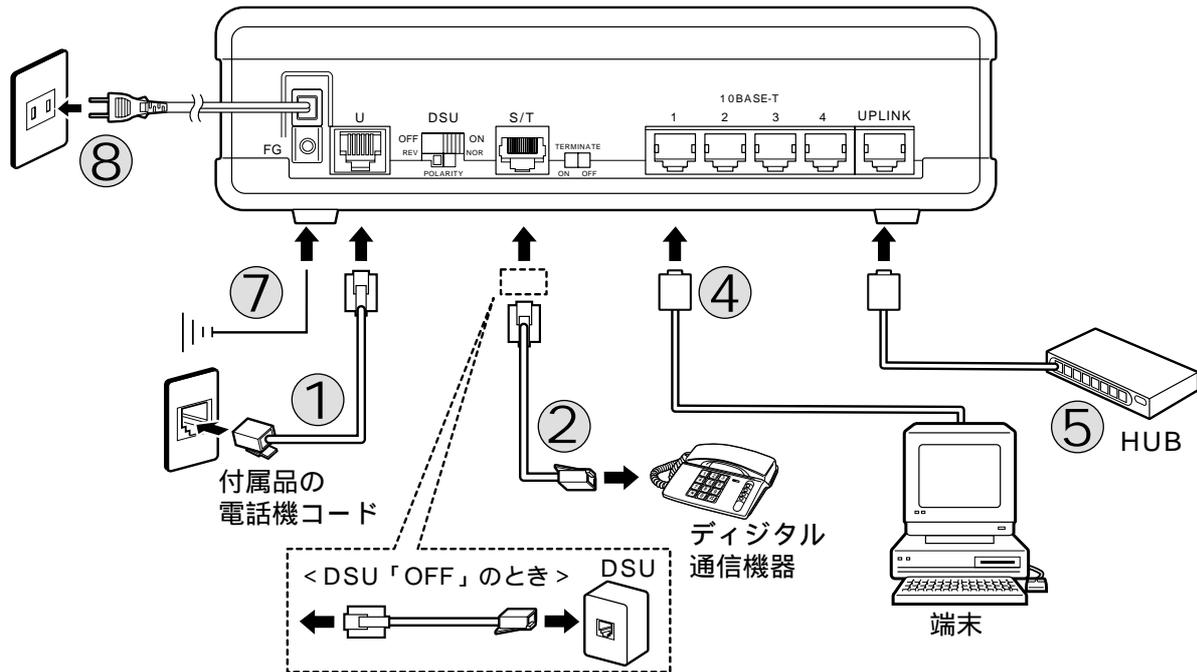
停電時に電池がなくなると、本装置のTEL1ポートも動作しなくなります。

停電中に電池が少なくなると、本装置のディスプレイに「バッテリー ロー」と表示されます。(←P24)

接続します

本装置には、LANに接続するための10BASE-Tポート、ISDNまたは高速デジタル専用線と接続するためのLINE Uポートがあります。

接続の手順



接続します

- ① INSネット64回線接続ジャック (LINE U) とINSネット64回線用モジュラジャックとのあいだを、付属の電話機コードでつなぎます。
- ② デジタル通信機器の電話機コードをデジタル通信機器接続ポートにつなぎます。本装置のDSUを使用しない場合は、DSUとデジタル通信機器ポートを接続します。
- ③ アナログ通信機器の電話機コードをアナログ通信機器接続ジャックTEL1ポート、TEL2ポートにつなぎます。
- ④ 本装置の10BASE-Tポートと端末を接続します。端末は1番～4番ポートに接続します。(“UPLINK”と書かれたポートには接続しないでください。)
- ⑤ 本装置の“UPLINK”と書かれたポートとHUBを接続します。HUBを接続している場合は4番ポートは使用できなくなります。
- ⑥ モデムを接続 (FITElnet-E30のみ) する場合は、モデムのシリアルポートと本装置のシリアルポートとのあいだをシリアルケーブル (ストレート) でつなぎます。端末と接続する場合は、端末のシリアルポートと本装置のシリアルポートとのあいだを付属のシリアルケーブルでつなぎます。
- ⑦ FG端子は第三種 (100 以下) の接地をしてください。アース線は、お客様でご用意ください。
- ⑧ 電源プラグを電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ⑨ 電源スイッチをONにします。

本図は、アナログ通信機器およびデジタル通信機器の接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況にあわせる必要があるため、本図と異なる場合があります。

接続上の注意

ISDN / HSDの接続 / フレームリレーの接続

INSネット64、高速デジタル専用線(インタフェース64/128)フレームリレー回線64/128(FITELnet-E30のみ)以外の回線には接続しないでください。接続には付属品の電話機コードを使用してください。

電源との接続

電源プラグはAC100V(50Hzまたは60Hz)の電源コンセントに接続してください。

アースの接続

落雷等の電撃事故による人身、装置への損傷を防止するためにFG端子には必ずアース線を接続してください。

電話機・FAXの接続

TEL1ポート、TEL2ポートには、一般のアナログ回線に接続するプッシュ式(PB式)のアナログ通信機器(電話機、FAX等)が接続できます。1ポートのみ使用する場合は、TEL1ポートを使用してください。

また、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は、必ずTEL1ポートに接続してください。

HUB / 端末の接続

10BASE-TポートにHUBを接続する場合は“UPLINK”と書かれたポートを、端末を接続する場合は10BASE-Tポート1~4を使用してください。ただし、HUBを接続している場合は4番ポートは使用できません。

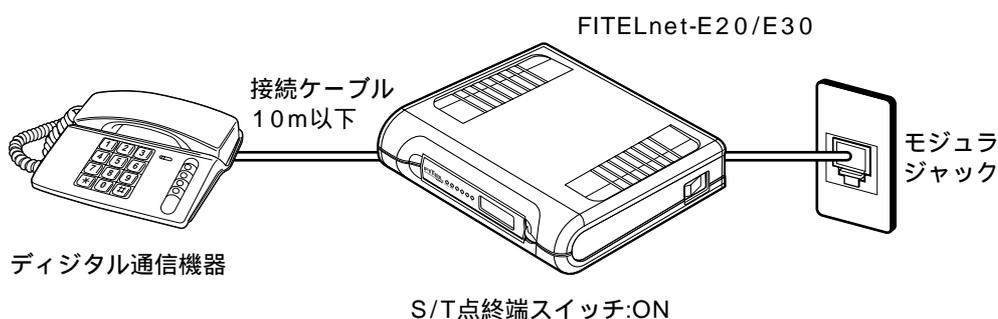
本装置の10BASE-TポートとHUB / 端末を接続する際は、HUB / 端末の電源をOFFにした状態で行ってください。

デジタル通信機器の接続

デジタル通信機器は、最大7台まで接続して使用できます。

接続する台数によって、S/T点終端スイッチの設定、配線方法が異なります。

デジタル通信機器を1台接続する場合、接続ケーブルが10m以下であれば、S/T点終端スイッチ(⇨P26)が「ON」の状態で使用できます。



デジタル通信機器の接続が1台で、接続ケーブルが10m以上の場合、および2~7台接続する場合は、S/T点終端スイッチを「OFF」に設定してください。また、本装置から見て、デジタル通信機器接続ジャックに接続した最遠端に位置するモジュラジャックには、必ず終端抵抗付きコネクタを使用してください。

シリアルポートへの接続

本装置のシリアルポートのコネクタの形状は9ピンオス形です。また、端末側のコネクタの形状は、ご使用の端末の機種により異なります。

また、本装置のシリアルポートと端末を接続する際は、電源をOFFにした状態で行い、ネジで固定してください。

DSUスイッチ

本装置のDSUを使用する場合は「ON」、本装置のDSUを使用せずに、他のISDN機器のDSUを使用する場合は「OFF」に設定してください。

「OFF」に設定した場合は、DSUをデジタル通信機器ポート(S/T点)に接続します。

お知らせ

ダイヤル式（DP式）のアナログ通信機器は使用できません。

（財）電気通信端末機器審査協会の適合認定を取得しているアナログ通信機器を接続してください。

一般のアナログ回線との仕様の違いにより、お使いいただけないアナログ通信機器もあります。

料金管理装置などを接続してご使用になると、NTTからの通話料金の請求額とは必ずしも一致しない場合がありますので、ご注意ください。

モジュラジャックの配線工事には資格が必要です。局番なしの116番（無料）またはNTT窓口等へお問い合わせください。

お願い

アナログ通信機器との接続に使用するケーブルの長さは、最長200m（0.5 ）を目安としてください。

屋外に渡る配線は行わないでください。故障の原因になります。

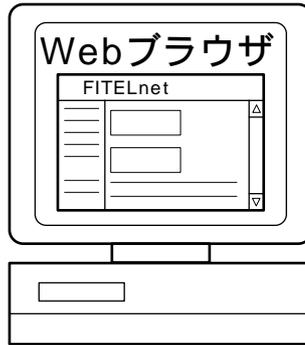
機器の接続に使用するコード類は、機器の付属のものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。

デジタル通信機器の接続は、配線が全長で150m以下となるようにしてください。

1つのアナログ通信機器ジャックには1台のアナログ通信機器を接続してください。複数の通信機器を1つのポートに接続すると、使用できないことがあります。

Webブラウザでの簡単設定

本装置はWebブラウザを使って設定を行うため、お使いのパソコンやOSの種類を問わず簡単な操作で設定できます。



設定する前に

本装置を設定するための動作環境や、設定する前に必要な手順を説明します。

動作環境

Windows® 98、Windows® 95、Windows® Me、Windows NT® 4.0、Windows® 2000、Macintoshが動作しているパソコン
3Mバイト以上の空きがあるハードディスク

設定するまでの手順

本装置はお買い求め時の設定値（工場出荷時の値）のままでも、アナログ通信機器を接続してご利用になれますが、より便利にお使いになるためには、本装置の設定が必要です。

以下の手順で、設定を行うための準備を行ってください。

1 パソコンに各ソフトウェアをインストールする

TCP/IPソフトウェア、Webブラウザなど設定に必要な各ソフトウェアの取扱説明書を参照し、端末にインストールしてください。お使いの端末によってはあらかじめインストールされている場合もあります。

詳しくは、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

パソコンのIPアドレスを自動取得できるように設定します。

2 パソコンのネットワークの設定を行う

3 パソコンの電源を切る

お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

4 本装置とパソコンを接続する
(← P 29、30)

5 本装置の電源を入れる
(← P 29、30)

6 パソコンの電源を入れる

お使いのパソコンの取扱説明書を参照してください。

お知らせ

本装置がISDN回線などの電話回線に接続されていなくても、設定することができます。

パソコンの詳細設定については『クイックスタートガイド』を参照してください。

お願い

本装置には、あらかじめIPアドレス（192.168.0.1）が設定されています。本装置の設定を行う前に、既存のLANへの接続は絶対にしないでください。

設定操作のしかた

本装置の機能を活用するためには、各種パラメータを本装置に設定する必要があります。パラメータの設定方法には以下の方法があります。

	ルータ機能	電話機能	その他の機能
Webブラウザを使った設定			
コマンドを使った設定	10BASE-Tポート経由		
	シリアルポート経由		
アナログ電話機を使った設定			x

○ : 設定できます ◐ : 一部設定できます x : 設定できません

2 設定の準備をする

Webブラウザを使った設定の流れ

本装置はWWWサーバ機能を持っています。Webブラウザ（Netscape Navigator、Internet Explorerなど）を使って本装置にアクセスし、設定を行います。

1 Webブラウザを起動します。

2 URLに「http://192.168.0.1（本装置のIPアドレス）」と入力します。



3 設定画面が表示されます。



次ページへ続く

お知らせ

フレーム表示ができないWebブラウザをお使いの場合は、項目が正しく表示されないことがあります。この場合、フレーム表示ができるWebブラウザをお使いになるか、それ以外の場合は[ノーフレーム形式]をクリックしてください。

Webブラウザは一度アクセスした画面の内容を一定の期間記憶しておくことができます。再度同じ画面を表示しようとすると記憶している画面を表示するため、最新の設定内容が表示されないことがあります。最新の設定内容を表示するには、Webブラウザの履歴(キャッシュ)をクリアするか、再読み込みをしてください。

モデムを使ってインターネットに接続していた場合は、Webブラウザの接続設定をLANを使った接続に変更してから、本装置にアクセスしてください。

本装置のお買い求め時(工場出荷時)のIPアドレスは「192.168.0.1」に設定されています。はじめて本装置にアクセスするときは、URLに「http://192.168.0.1」と入力してください。

コンフィグレーションパスワードが設定されていない状態でルータ機能の設定を行うことはできません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P52)

設定画面が表示されない場合は、次の内容を確認してください。

- ケーブルの接続(☞P29)
- 端末の設定(☞P31)

Webブラウザの操作に関しては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

ログインIDを設定するには(☞P48)

4 メニュー画面から設定したい項目をクリックし、設定を行います。

- パスワード登録変更(☞P50)
- 時刻の設定(☞P54)
- ルータ設定(☞P145)
- 電話設定(☞P125)
- ダイヤルアップ回線制御(☞P251)
- インフォメーション(☞P259)
- リセット(☞P41)

5 メニューから設定したい項目を選んでいくと、設定値などを入力する画面が表示される前に、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されます。

6 ログインID(ログインIDが設定されていない場合は“root”)とパスワード(ログインパスワードまたはコンフィグレーションパスワード)を入力し、[OK]をクリックします。

7 設定が終わったら[送信]をクリックします。

本装置では[送信]をクリックして有効になる項目と、リセットすると有効になる項目があります。リセットすると有効になる項目を変更した場合にはリセットしてください。(☞P37)

装置をリセットする

更新された設定項目によっては、本装置がリセットされない限り本装置に対して有効になりません。設定を有効にするには本装置をリセットしてください。

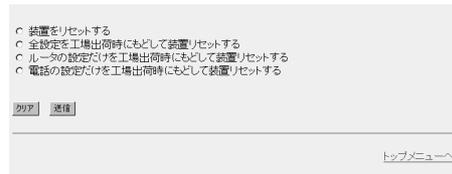
2
する
設定の準備を

- 1 設定画面を起動し、本装置にログインします。
(←P35)



- 2 [リセット] をクリックします。

[リセット] 画面が表示されます。



- 3 [装置をリセットする] をクリックします。

- 4 [送信] をクリックします。

本装置がリセットされ、設定が本装置に対して有効になります。

コマンドを使った設定の流れ(10BASE-Tポート経由)

本装置は、コマンドを入力しても機能設定を行うことができます。

10BASE-Tポート経由で設定する場合は、ログインパスワードを登録し(☞P50)、telnetでログインしてから設定を行います。

ここではMS-DOS画面からtelnetを起動して設定する方法を説明します。その他の方法で起動する場合はパソコンの取扱説明書などを参照してください。

1 MS-DOS画面を起動します。

2 「telnet LAN側IPアドレス」を入力します。

以下では、本装置のLAN側IPアドレスに「192.168.0.1」を例としています。お使いの本装置のLAN側IPアドレスを入力してください。

```
c:¥WINDOWS>telnet 192.168.0.1
```

↓ telnetが起動し、画面に次のように表示されます。

```
Login
```

3 ログインIDを入力します。

ログインIDの設定方法はP48を参照してください。

ログインIDが設定されていない場合は、ログインIDの問い合わせがありません。

```
Login: x x x x
```

4 ログインパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。はじめてお使いになるときは、パスワードは設定されていません。[Enter] キーを押してください。

本装置にログインします。

```
Login password:
```

5 プロンプトが表示され、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

6 ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行します。(☞P40)

お知らせ

ログインIDを設定するには(☞P48)

7 設定したい機能のコマンドを入力し、設定を行います。

- パスワード登録変更 (☞P50)
- 時刻の設定 (☞P54)
- ルータ設定 (☞P145)
- 電話設定 (☞P131)
- ダイヤルアップ回線制御 (☞P251)
- リセット (☞P41)

8 設定を保存します。(☞P41)

コンフィグレーションモードで設定を変更した場合は、本装置をリセットします。(☞P41)

モードの移行

ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行してから設定を行います。

コンフィグレーションモードに移行する

- 1 コマンド入力待ち状態で「conf」と入力します。

```
#conf
```

- 2 コンフィグレーションパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。

```
#conf  
Configuration password:
```

- 3 コンフィグレーションパスワードが正しいと、コンフィグレーションモードに移行し、confプロンプトが表示されます。

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

TELモードに移行する

- 1 コマンド入力待ち状態で設定するTELポートを入力します。

たとえばTEL1ポートを設定するときは「tel1」と入力します。

```
#tel1
```

- 2 TELモードへ移行し、tel1プロンプトが表示されます。

```
tel1#
```

ワンポイント

コンフィグレーションモードを終了するには(☞P41)

TELモードを終了するには(☞P41)

お知らせ

コンフィグレーションパスワードが設定されていない場合は、コンフィグレーションモードへ移行できません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P52)

電話機能の設定を保存する

電話機能は、設定した時点で本装置に有効となりますが、設定内容は本装置に保存されません。

保存する場合は次の操作を行ってください。

2
設定の準備を
する

- 1 TELモードのコマンド入力待ち状態で「9*#」と入力します。

設定が本装置に保存されます。

(例) TEL1ポートを設定中

```
tel1# 9*#
```

- 2 TELモードを終了するには、「exit」と入力します。

```
tel1# exit
```

- 3 TELモードが終了し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

装置をリセットする

更新された設定内容は、本装置がリセットされない限り有効になりません。設定を有効にするには必ず本装置をリセットしてください。

- 1 コンフィグレーションモードのコマンド入力待ち状態で「exit」と入力します。

```
conf#exit
```

- 2 次のように表示されたら「y」と入力します。

コンフィグレーションモードが終了し、設定が保存されます。

```
conf#exit  
configuration modified. save OK? (y/n) :y
```

次ページへ続く

設定操作のしかた

- 3 設定が更新されているときは、「please reset#」が表示されます。

```
conf#exit
configuration modified. save OK? (y/n) :y
please reset#
```

- 4 「reset」と入力します。

```
please reset#reset
```

- 5 次のように表示されたら「y」と入力します。

本装置がリセットされます。しばらくすると（約30秒程度）ロゲイン画面が表示され、設定が本装置に対して有効になります。

```
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)? :y
```

コマンドを使った設定の流れ(シリアルポート経由)

シリアルポート経由で設定する場合は、ターミナルソフトを使って設定を行います。ここではWindows® 98に付属されているハイパーターミナルを使って設定する方法を説明します。(☞P44) その他のターミナルソフトを使う場合は、パソコンの取扱説明書などを参照してください。

- 1 パソコンでハイパーターミナルを起動します。

- 2 本装置の電源を入れます。(☞P29、30)

- 3 FITELnet-E20の場合は「ATCIP」と入力します。

```
ATCIP
OK
Login password:
```

FITELnet-E30の場合は何も入力せずに手順4へ進みます。

- 4 ログインIDを入力します。

ログインIDの設定方法はP48を参照してください。
ログインIDが設定されていない場合は、ログインIDの問い合わせがありません。

```
Login: x x x x
```

5 ログインパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。はじめてお使いになるときは、パスワードは設定されていません。[Enter]キーを押してください。
本装置にログインします。

Login password:

6 プロンプトが表示され、コマンド入力待ち状態になります。

#

7 ルータ機能を設定する場合はコンフィグレーションモード、電話機能を設定する場合はTELモードに移行します。(☞P40)

8 設定したい機能のコマンドを入力し、設定を行います。

- パスワード登録変更 (☞P50)
- 時刻の設定 (☞P54)
- ルータ設定 (☞P145)
- 電話設定 (☞P131)
- ダイヤルアップ回線制御 (☞P251)
- リセット (☞P41)

9 設定を保存します。(☞P41)

コンフィグレーションモードで設定を変更した場合は、本装置をリセットします。(☞P41)

ワンポイント

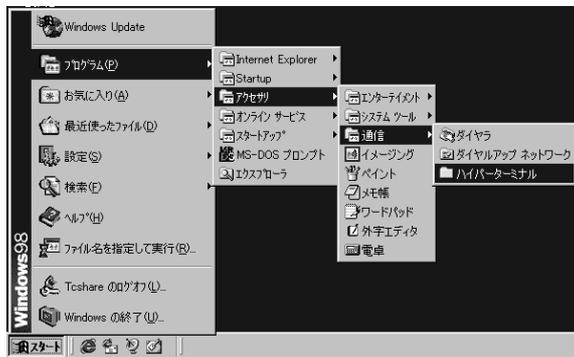
モードを移行するには(☞P40)

設定操作のしかた

パソコンのターミナルソフトを用意する

1 [スタート] から、[プログラム] [アクセサリ] [通信] を経て、[ハイパーターミナル] を選択します。

(Windows® 98メニュー画面)



2 ハイパーターミナルのアイコン([Hypertrm.exe])をダブルクリックします。



3 [名前] に任意の名前を入力し、[OK] をクリックします。



4 [接続方法] に [Com 1 へダイレクト] (コンソールケーブルをCom 1に接続した場合) を指定し、[OK] をクリックします。

(例) Com 1に接続したとき



5 COMポートのプロパティを入力し、[OK] をクリックします。

ビット/秒 : 9600

データビット : 8

パリティ : なし

ストップビット : 1

フロー制御

FITELnet-E20 : AT¥Qnで設定した制御方法

FITELnet-E30 : Xon / Xoff



お知らせ

FITELnet-E20では、フロー制御をAT ¥Qnコマンドで設定する必要があります。

AT¥Qn

n=0 : フロー制御なし

n=1 : Xonフロー制御

n=2 : RS/CS信号によるフロー制御

次ページへ続く

6 「新しい接続」ウィンドウが表示されます。



これでターミナルソフトが用意できました。

アナログ電話機を使った設定の流れ

電話機能（アナログ機能）については、本装置に接続されたアナログ電話機からも設定することができます。設定方法については、「電話機を利用した設定」を参照してください。（←P84）

設定を初期化するには

コマンド、操作ボタンを使って本装置を初期値（工場出荷時の値）に戻すことができます。初期化すると、ログインパスワード、コンフィグレーションパスワードもクリアされます。

コマンドを使って初期化する

- 1 本装置の電源を入れ、ログインします。
(☞P38、42)

```
#
```

- 2 「reset -d」と入力します。

```
#reset -d
```

- 3 コンフィグレーションパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。またカーソルも動きません。

```
#reset-d  
Configuration password:
```

- 4 確認の画面が表示されますので、リセットしてよければ「y」を入力します。

```
Do you want to continue (y/n)?: y
```

- 5 設定がリセットし、本装置が再起動します。

2 設定の準備をする

お知らせ

「コマンドを使って初期化する」の手順3で、コンフィグレーションパスワードが設定されていない場合は、「not yet password」と表示されますので、まずコンフィグレーションパスワードを設定してください。
(☞P52)

ログインIDを設定する

ログインIDを設定します。ログインIDは、下記の場合に必要です。

- Webから装置の設定 / 運用を行う場合
- ファームウェアのアップデート / 設定ファイルを転送する場合

ログインIDは忘れないようにしてください。

< Webブラウザ操作 >

1 [ログインID / パスワード登録変更] をクリックします。

2 「ログインID」をクリックします。



3 「ログインID」を入力します。

ログインIDは半角31文字以内で入力します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

<コマンド操作>

1 コマンド入力待ち状態で「login」と入力します。

ログインIDをFITELとする場合

```
#'login FITEL
```

2 ログインIDが設定され、入力待ち状態になります。

2
する
設定の準備を

パスワードを登録、変更する

パスワードにはログインパスワードとコンフィグレーションパスワードがあります。ログインパスワードは本装置へログインする場合に、コンフィグレーションパスワードはコンフィグレーションモードに移行してルータ機能を設定する場合に入力します。コンフィグレーションパスワードが設定されていないとルータ機能は設定できません。またコンフィグレーションパスワードが設定されていないと、ファームウェアのアップデート設定ファイルの転送ができません。(P55、56)

ログインパスワードを登録、変更する

< Webブラウザ操作 >

1 [ログインID / パスワード登録変更] をクリックします。

2 [ログインパスワード] をクリックします。

ログインパスワードの登録変更画面が表示されます。

コンフィグレーションパスワードの登録変更

旧パスワード:

新パスワード:

確認の為、新パスワードを再度入力して下さい:

3 旧パスワードを入力します。

はじめてログインパスワードを登録するときは、旧パスワードの入力は不要です。

4 新パスワードを入力します。

5 確認のため、新パスワードをもう一度入力します。

ログインパスワードの登録変更

旧パスワード:

新パスワード:

確認の為、新パスワードを再度入力して下さい:

6 設定が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

<コマンド操作>

- 1 コマンド入力待ち状態で「password」と入力します。

```
#password
```

- 2 現在設定されているパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。パスワードが設定されていない場合は「old password」は表示されませんので、手順3に進んでください。

```
#password  
old password:
```

- 3 新しいパスワードを入力します。確認のためもう一度新しいパスワードを入力します。

```
#password  
old password:  
new password:  
retype password:
```

- 4 パスワードが更新され、入力待ち状態になります。

```
#
```

2
する
設定の準備を

お知らせ

コマンドでパスワードを設定する場合、10BASE-Tポート経由、シリアルポート経由ともに操作手順は同じです。

パスワードを登録、変更する

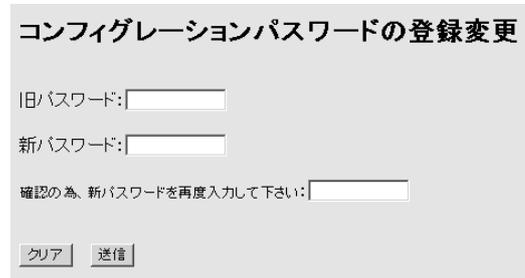
コンフィグレーションパスワードを登録、変更する

< Webブラウザ操作 >

1 [ログインID / パスワード登録変更] をクリックします。

2 [コンフィグレーションパスワード] をクリックします。

コンフィグレーションパスワードの登録変更画面が表示されます。

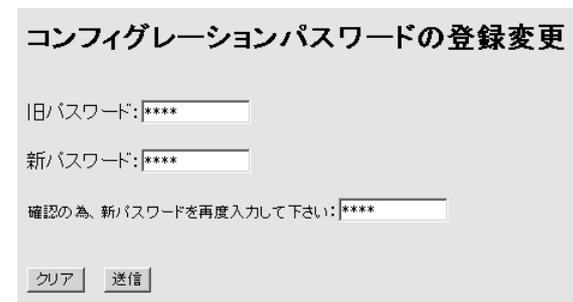


3 旧パスワードを入力します。

はじめてコンフィグレーションパスワードを登録するときは、旧パスワードの入力は不要です。

4 新パスワードを入力します。

5 確認のため、新パスワードをもう一度入力します。



6 設定が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

<コマンド操作>

- 1 コマンド入力待ち状態で「password -c」と入力します。

```
#password -c
```

- 2 現在設定されているパスワードを入力します。

入力するパスワードは表示されません。また、カーソルも動きません。パスワードが設定されていない場合は「old password」は表示されませんので、手順3に進んでください。

```
#password -c  
old password:
```

- 3 新しいパスワードを入力します。確認のためもう一度新しいパスワードを入力します。

```
#password -c  
old password:  
new password:  
retype password:
```

- 4 パスワードが更新され、入力待ち状態になります。

```
#
```

2
する
設定の準備を

お知らせ

コマンドでパスワードを設定する場合、10BASE-Tポート経由、シリアルポート経由ともに操作手順は同じです。

時刻の設定

本装置の現在時刻を設定します。

< Webブラウザ操作 >

1 [現在時刻の設定] をクリックします。

現在時刻の設定画面が表示されます。

2 年（西暦）、月、日、時刻を設定します。

をクリックすると一覧が表示されて、その中から設定する項目をクリックして選択することができます。

3 設定が終わったら、[送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

< コマンド操作 >

1 コマンド入力待ち状態で「date」と入力し、続けて年（西暦）、月、日、時刻を入力します。

年は西暦の下2桁を入力します。

(例) 2001年5月5日12時0分0秒を設定する場合

```
#date 010505.120000
```

2 時刻が設定され、入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

本装置に接続した電話からも現在時刻の設定を行うことができます。(←P109)

お願い

お買い求め直後や、1週間程度電源OFFにした場合は、必ず時刻の設定を行ってください。

本装置起動時はディスプレイに現在の時刻が表示されていることを確認してください。

ファームウェアのアップデート

ファームウェアファイルを端末から本装置へ書き込み、Webブラウザで設定した設定情報を保存することができます。
(ファームウェアと設定ファイルの2種類のファイルがあります。)

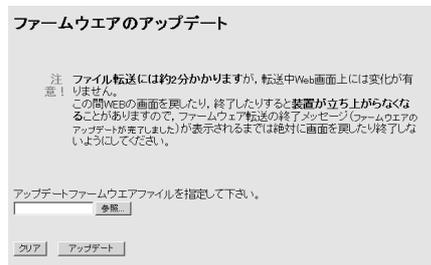
<Webブラウザ操作>

最新ファームウェアを本装置へ送信し、ファームウェアをアップデートします。まず、ホームページから最新のファームウェアを端末にダウンロードしてからアップデートしてください。
(例)「C:¥FITELnet¥update¥E20FIRM」にファームウェアファイルを保存している場合

1 [ファイル転送] をクリックします。

2 [ファームウェアをアップデートする] をクリックします。

ファームウェアのアップデート画面が表示されます。



3 [参照] をクリックし、端末に保存されているファームウェアファイルを選択します。



4 設定が終わったら、[アップデート] をクリックします。

最新ファームウェアが本装置に送信されます。

5 ファームウェアのアップデート後は、本装置をリセットしてください。

お知らせ

コンフィグレーションパスワードが設定されていない状態でファームウェアのアップデートを行おうとすると、「パスワードを設定してください」というメッセージが表示され、ファームウェアのアップデートはできません。先にコンフィグレーションパスワードを設定してください。(☞P52)

最新のファームウェアは、FITELnet ホームページからダウンロードして、入手してください。

ホームページのURLは、<http://www.furukawa.co.jp/fitelnet/e/dl.html>です。

ファームウェアのアップデート後は、本装置をリセットしてください。(☞P37)

ファームウェアのアップデート

<コマンド操作>

FTPを使ってファームウェアをアップデートすることができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。出荷時の状態ではパスワードが設定されていません。パスワードを設定してから操作してください。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)
ユーザID	ログインID (ログインIDが設定されていない場合は ' root ')
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.168.0.1
Connected to 192.168.0.1
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.168.0.1): XXXX ← ログインIDを入力
331 Password required for XXXX.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User XXXX logged in.
```

2 端末に保存されているファームウェアファイルを本装置にバイナリでPUTします。

FITELnet-E20とE30ではファームウェアのファイル名が異なります。下記のファイル名を使用してください。

機種	ファームウェアファイル名
FITELnet-E20	E20FIRM
FITELnet-E30	E30FIRM

```
ftp> binary
200 Type set to I.
ftp> put E20FIRM
```

3 バージョンを確認します。

本装置の中にある「FIRMINFO」ファイルを確認します。

```
ftp> get FIRMINFO -
200 PORT command ok.
150 Opening data connection for FIRMINFO (192.168.0.2,1829).
SIDE-A: VALID
ID: WAKATO
EXTID: PCEG
FIRM VER: V01.00
FILE VER: 041099
226 Transfer complete.
remote: FIRMINFO
87 bytes received in 0.0036 seconds (24 Kbytes/s)
ftp>
```

「SIDE-A」という項目が「VALID」になっていることを確認してください。「INVALID」になっていた場合、再度PUTし直す必要があります。

4 ログアウトします。

```
ftp> bye
```

お知らせ

新しいファームウェアで動作するには、本装置をリセットしてください。
ログインIDを設定するには (P48)

⚠ 注意

「INVALID」が表示されているとき、端末および本装置の電源をOFFにしたり、リセットしたりしないでください。本装置が動作しなくなる可能性があります。

設定ファイルの転送

本装置に設定されている設定情報を端末にダウンロードして保存することができます。また、保存した設定情報を本装置にアップロードすることもできます。
本装置では、ルータ機能に関する設定と電話機能に関する設定が別々のファイルで保存されています。

ルータ機能設定ファイルのファイル転送

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ファイル転送] をクリックします。
- 2 ルータ機能設定ファイルをアップデートする場合は [ルータ設定ファイルをアップデートする] ルータ機能設定ファイルのバックアップをとる場合は [ルータ設定ファイルをダウンロードする] をクリックします。

(例) [ルータ設定ファイルをアップデートする] を選択した場合

- 3 アップデートする場合は、 [参照] をクリックし、アップデートするファイルを選択します。

ダウンロードする場合は、 [ダウンロード] をクリックします。

- 4 アップロードする場合は、 [アップロード] をクリックします。ルータ機能設定ファイルをアップロードします。

ダウンロードする場合は、ファイルのダウンロード画面で [OK] をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

設定ファイルの転送

< コマンド操作 >

FTPを使いルータ機能設定ファイルを本装置と端末の間でファイル転送することができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。出荷時の状態ではパスワードが設定されていません。パスワードを設定してから操作してください。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)
ユーザID	ログインID (ログインIDが設定されていない場合は ' root ')
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.168.0.1
Connected to 192.168.0.1
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.168.0.1): XXXX ← ログインIDを入力
331 Password required for XXXX.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User XXXX logged in.
```

2 端末に保存されているルータ機能設定ファイルを本装置にバイナリでPUTします。

FITELnet-E20とE30ではルータ機能設定ファイル名が違います。ファイル転送には下記のファイル名を使用してください。

機種	ルータ機能設定ファイル名
FITELnet-E20	E20CONF
FITELnet-E30	E30CONF

(例) 装置から読む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>get E20CONF
```

(例) 装置へ書き込む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>put E20CONF
```

お知らせ

新しいルータ機能設定ファイルで動作するには、本装置をリセットしてください。ログインIDを設定するには(☞P48)

3 ログアウトします。

```
ftp> bye
```

電話機能設定ファイルのファイル転送

本装置のアナログ機能に関する電話設定ファイルをバックアップ/アップロードします。ファイルが保存されていれば、その設定ファイルを読み込むだけで設定し直す必要がなくなります。

< Webブラウザ操作 >

1 [ファイル転送] をクリックします。

2 電話機能設定ファイルをアップデートする場合は [電話設定ファイルをアップデートする]、電話機能設定ファイルのバックアップをとる場合は [電話設定ファイルをダウンロードする] をクリックします。

(例) [電話設定ファイルをアップデートする] を選択した場合

3 アップデートする場合は、[参照] をクリックし、アップデートするファイルを選択します。

ダウンロードする場合は、[ダウンロード] をクリックします。

4 アップロードする場合は、[アップロード] をクリックします。電話設定ファイルをアップロードします。

ダウンロードする場合は、ファイルのダウンロード画面で [OK] をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

お知らせ

本装置をデフォルトリセットした場合、電話設定ファイルは消去されます。(←P47)

2
する
設定
の
準備
を

設定ファイルの転送

<コマンド操作>

FTPを使い電話機能設定ファイルを本装置と端末の間でファイル転送することができます。ログインに必要なデータは下記の通りです。

項目	説明
HOST	本装置のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)
ユーザID	ログインID (ログインIDが設定されていない場合は ' root ')
コンフィグレーションパスワード	本装置のコンフィグレーションパスワード
Directory	指定なし

1 FTPでログインします。

IPアドレス、ユーザID、コンフィグレーションパスワードを入力します。

```
ftp 192.168.0.1
Connected to 192.168.0.1
220- Wait a moment. Now checking firmware.
220 FTP server ready.
Name (192.168.0.1): XXXX ← ログインIDを入力
331 Password required for XXXX.
Password: ← コンフィグレーションパスワードを入力
230 User XXXX logged in.
```

2 端末に保存されている電話機能設定ファイルを本装置にバイナリでPUTします。

FITELnet-E20とE30では電話機能設定ファイル名が違います。ファイル転送には下記のファイル名を使用してください。

機種	電話機能設定ファイル名
FITELnet-E20	E20CONF_tel
FITELnet-E30	E30CONF_tel

(例) 装置から読込む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>get E20CONF_tel
```

(例) 装置へ書き込む

```
ftp>binary
200 Type set to I.
ftp>put E20CONF_tel
```

お知らせ

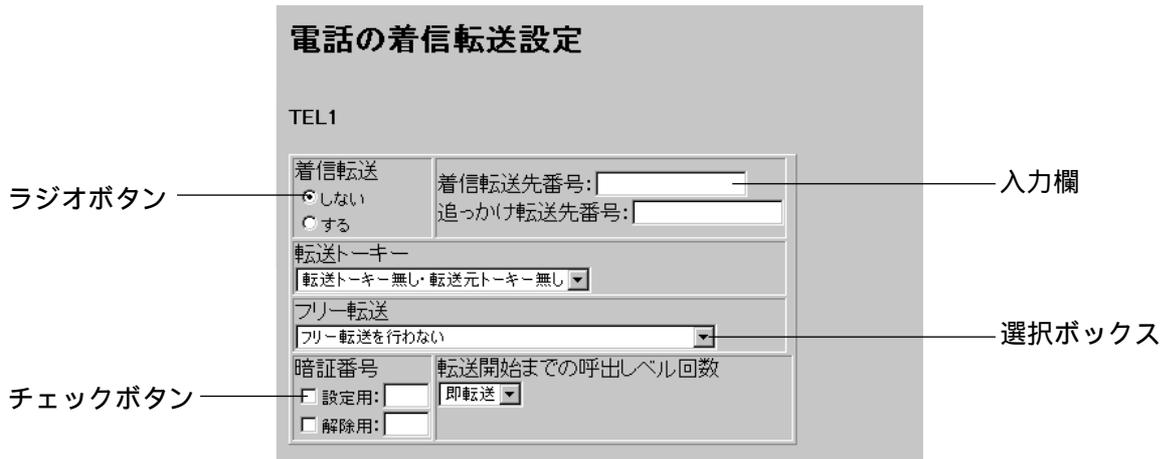
新しい電話機能設定ファイルで動作するには、本装置をリセットしてください。
ログインIDを設定するには(☞P48)

3 ログアウトします。

```
ftp> bye
```

(例)

電話の着信転送設定のTEL1ポート画面



ラジオボタン

画面の項目の左にある や ● のボタンです。ラジオボタンがついている設定項目は、どれか1つしか選択できません。例えば、[着信転送] の選択では、[しない] か [する] のどちらかしか選択できません。●が現在の設定値です。変更するときは をクリックして●にします。

チェックボタン

画面の項目の左にある のボタンです。チェックボタンがついている設定項目は、複数選択することができます。例えば、[暗証番号] の選択で、[設定用] と [解除用] のいずれも選択できます。また、どちらか一方を選択する、またはどちらも選択しない設定ができます。クリックするとチェックマーク✓になります。チェックマークがつくと選択されたことになります。

入力欄

画面の入力欄があり、数値やアドレスを入力するときは、入力欄をクリックします。カーソルが表示されて、数値が入力できるようになります。

選択ボックス

選択されている項目は、選択ボックスに表示されています。 をクリックすると、選択項目の一覧が表示されて、その中から設定する項目をクリックして選択することができます。

アナログ機能

本装置には2つのアナログポートがあり、電話機やFAX等を接続して使うことができます。

INSナンバー・ディスプレイに対応

電話をかけてきた方の電話番号（発信電話番号）や、電話番号を通知できない理由をアナログ通信機器に通知し、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器のディスプレイや、本装置のディスプレイに表示することができます。（☞P115）

疑似フレックスホン、疑似なりわけをサポート

フレックスホンサービス（有料）、INSなりわけサービス（有料）をご契約でない場合でも、疑似フレックスホン機能、疑似なりわけ機能によりこれらの機能をご利用になれます。

内線通話、内線転送

接続したアナログ通信機器間で内線通話や内線転送ができます。（☞P67、68）

コールバック機能 / 中継機能

電話をかけてきた方に自動的にかけ直したり、本装置を中継して電話をかけることができます。

一般のアナログ回線で使用しているプッシュ式（PB式）の電話機やFAX、モデムが使用できます。ダイヤル式（DP式）の電話機は使用できません。
外の相手の方に電話をかけるときは、受話器を取りあげ、電話番号をダイヤルします。電話機を複数台接続しているときは、それぞれの電話機から独立して外の相手の方に電話をかけることができます。また、使用TELポートや相手の方の電話番号が、本装置のディスプレイに表示されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 電話番号をダイヤルボタンで押します。
- 3 ダイヤルが終わったら **(#)** ボタンを押します。
TEL1ポートから0312345678へ発信したとき

ハツ1
0 3 1 2 3 4 5 6 7 8
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

次ページへ続く

お知らせ

ダイヤル中に約4秒の間隔をあげるとダイヤルの途中でも発信します。また、ダイヤル終了後、約4秒たつと、**(#)** ボタンを押さなくてもダイヤルは発信されます。この間隔は変更できます。(←P106)
「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。
いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **(#)** ボタンを押します。

ダイヤルを押し間違えたときは

1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、もう一度はじめからやり直してください。

サブアドレスを追加して発信するには

相手の方の電話番号(アドレス)を押したあとに **(*)** ボタンを押し、サブアドレスの番号を押します。

例 0312345678 * 12345

アドレス サブアドレス

電話番号(アドレス)、サブアドレスについて

アドレスは3桁～32桁、サブアドレスの最大桁数は19桁で、いずれも数字(0～9)のみがダイヤルできます。

FAX・モデムの発信

接続しているFAX・モデムの操作方法に従って操作してください。

発信者番号を通知するには

INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには

通話時のボリュームを調整できます。(←P107)

停電のときには

設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。(←P28)

特殊ダイヤル発信をするには

特殊ダイヤルには、先頭に「#」がつく場合と、途中に「*」や「#」がある場合があります。

先頭に「#」がつく場合には、チケット予約や伝言ダイヤルがありますが、これは通常にダイヤルしてください。

私設交換機などをご利用の場合は、途中に「*」や「#」がある番号を発信する必要がある場合があります。このような場合は以下のように操作してください。

フッキングする

ダイヤルトーンが聞こえたことを確認し、ダイヤルする

再度フッキングする

ダイヤルを間違えた場合は、受話器を置いてから、もう一度かけ直してください。なお、フッキング代用機能をお使いの場合は、特殊ダイヤルを発信することはできません。

短縮ダイヤルで電話をかけるには (短縮ダイヤル)

よくかける電話番号は、短縮ダイヤルに登録しておく便利です。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 (※) ボタンを押します。
- 3 短縮番号(00~39)をダイヤルボタンで押します。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

短縮番号を登録するには(☞P85)

発信者番号を通知するには
INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには
通話時のボリュームを調整できます。
(☞P107)

停電のときには
設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。
(☞P28)

お知らせ

「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

同じ相手には(再ダイヤル)

最後にかけた相手の方に、**(*)** ボタンで簡単にかけることができます。相手の方がお話し中などでかけ直すときに便利です。

再ダイヤルは、TEL1ポート、TEL2ポートごとにサブアドレスまで記憶されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 **(*)** ボタンを2回押します。
- 3 相手の方が出たら、お話しください。
- 4 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

発信者番号を通知するには
INSネット64には発信者番号通知サービスがあります。このサービスを利用すると、発信したとき自局アドレスと自局サブアドレスを相手の方へ通知することができます。

通話時のボリュームを調整するには
通話時のボリュームを調整できます。
(←P107)

停電のときには
設定によってTEL1ポートに接続したアナログ通信機器を使うことができます。
(←P28)

お知らせ

他の内線電話機でかけた電話番号を再ダイヤルすることはできません。
「切断音制御」が「使用しない」に設定されている場合は、相手の方がお話し中のときや相手の方が電話を切ったあとは、一定時間話中音が続き、そのあと無音になります。
いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

内線でお話するには (内線通話)

他のTELポートに接続された電話機を呼び出して、お話しすることができます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②を押します。
- 3 ㊦ボタンを押します。
呼び出し音が聞こえます。
- 4 呼び出された方が応答したら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは㊦ボタンを押します。

内線呼出ベルを変えるには

内線電話機からの呼出音を変えることができます。(P111)

㊦ボタンがない電話機をお使いの場合は

手順2で、②、②、②をダイヤルすると相手の方を呼び出します。

お知らせ

手順2のあと、フッキングするとダイヤルがキャンセルされます。ただし、フッキング代用機能をお使いの場合はキャンセルされません。

呼び出した電話機がお話し中のとき、またはフリー転送中のときは、話中音が聞こえます。受話器を置き、再度かけ直してください。

内線通話中の外線着信は拒否されます。

停電中は内線通話はできません。

Bチャンネルを使用中のときも、内線でお話することができます。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

内線どうしでお話するときは、通信クラスの設定には影響されません。

着信があると、TELポートに接続したアナログ通信機器に着信します。

1 着信音が鳴ります。

チャク
0 3 1 2 3 4 5 6 7 8

2 受話器を取りあげて、相手の方とお話ください。

3 お話しが終わったら、受話器を置きます。

0 3 1 2 3 4 5 6 7 8

ワンポイント

着信種別の設定と内線電話機の呼び出し方の関係は(☛P96)

着信種別	呼び出し方
着信禁止	着信を拒否し、発信専用にします。
着信許可	着信できます。TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて空いているときはTEL1ポートに優先的に着信音を鳴らします。
通話中着信許可 (コールウェイティング)	通話中に別の電話がかかってきたときに、割込音を鳴らします。TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて通話中のときは、TEL1ポートに優先的に割込音を鳴らします。
追加呼出許可	TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、着信時にすべての電話機の着信音を鳴らします。
通話中追加呼出許可	TEL1ポートとTEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、空いているTELポートに着信音を鳴らすと同時に、通話中のTELポートに割込音を鳴らします。

お話し中に相手の方から電話を受けるには(コールウェイティング・疑似コールウェイティング)
外の相手の方とお話し中に別の相手の方からの電話を受けることができます。

かかってきた電話を転送するには(着信転送)
かかってきた電話を外の相手の方に転送することができます。(☛P88)

外からの電話を特定の内線電話機で受けるには
ダイヤルインサービスを利用する方法(☛P100)と、サブアドレス通知サービスを利用する方法(☛P102)があります。

通話時のボリュームを調整するには
通話時のボリュームを調整できます。(☛P107)

お知らせ

ナンバー・ディスプレイをご契約の場合や、INSネット64をご契約の相手の方から着信した場合は、本装置のディスプレイに電話番号が表示されます。(☛P21)

外からの電話を取りつぐには (内線転送)

外の相手の方との電話を他の内線電話機に取りつぎます。TEL1ポート、TEL2ポートのどの電話機からも同じ操作で取りつぐことができます。

ワンポイント

フッキングとは電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタンを押します。

内線呼出ベルを変えるには内線電話機からの呼出音を変えることができます。(P111)

相手先の方が応答する前に転送するには手順2の呼出中に受話器を置くと、呼び出される方が応答する前に転送することができます。

お知らせ

呼び出した電話機がお話し中のときは、話中音が聞こえます。話中音が聞こえているときにフッキングをすると、外の相手の方との電話に戻ります。

手順2で **②** 以外をダイヤルしても無視されます。

内線呼出中、内線通話中に外線が切れても内線転送は継続できます。ただし、**②** をダイヤルする前に外線が切れた場合は、話中音になります。

停電中は内線転送はできません。

いったん電話を切ったあとすぐに電話をかける場合は、受話器を置き、1秒以上待ってから受話器を取りあげ、ダイヤルしてください。

相手の方が応答しなかった場合は、フッキングすると外の相手の方とのお話しに戻ることができます。

内線どうしてお話しするときは、通信クラスの設定には影響されません。

1 お話し中に、外の相手の方に待っていただくよう伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。外の相手の方は、保留になります。

2 **②** を押します。

呼出音が聞こえます。

3 呼び出された方が応答したら、転送することを伝えます。

4 受話器を置きます。

i・ナンバーを利用するには

i・ナンバーを利用すると、INSネット64 / INSネット64ライトの2本のチャンネルに別々の番号を割り当てることができます。つまり、FITELnet-E20/E30に接続した2台の電話が別々の番号をもてることになります。

- 家族用 / 子供用といった着信者別
- 電話用 / FAX用といったメディア別
- 仕事用 / 家庭用といった目的別

等の使い分けも簡単に行うことができます。

i・ナンバーをご利用になるときは、NTTとの契約（有料）が必要です。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

TEL1ポート、TEL2ポートごとに、「契約者回線番号だけ鳴らす」「追加回線番号だけ鳴らす」「契約者番号と追加回線番号を鳴らす」の中から電話の鳴らし方を設定することができます。なお、すでにダイヤルインを利用している場合で、i・ナンバーに移行した場合は、電話の鳴らし方の設定変更は必要ありません。

追加番号の登録

[初期値 : i・ナンバーなし]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

③ * ⑧ を押します。

3

追加番号をダイヤルボタンで押します。

追加番号は、市外局番を入れないで登録します。

<例>追加番号が、03-1234-5678の場合

3 * 812345678

03は、市外局番のため入力しません。

4

Ⓜ ボタンを押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)

正しく設定されなかったときは (☞P84)

コマンドで設定するには (☞P131)

i・ナンバー3番号を契約の場合は

③ * ⑨ で登録します。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

契約者回線番号だけ鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * * を押します。
- 3 ㊦ ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

追加回線番号だけ鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * * を押します。
- 3 追加番号をダイヤルボタンで押します。
追加番号は、市外局番を入れないで登録します。
- 4 ㊦ ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

i・ナンバーを利用するには

契約者番号と追加回線番号を鳴らすように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤ * を押します。
- 3 ④ # ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

コールウェイティングを利用するには

外の相手の方とお話し中に、別の相手の方から電話がかかってきたとき、お話し中の方を保留にして、かけてきた方とお話することができます。コールウェイティング、疑似コールウェイティングとも操作方法は同じです。

- 1 外の相手の方とお話し中に「ツウツウ・ツウツウ…」という着信音が聞こえます。
- 2 外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。
かけてきた相手の方に切り替わります。
- 3 かけてきた相手の方とお話してください。
- 4 もう一度フッキングを行い、①を押すと、前の方とお話できます。

ワンポイント

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すことで、1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタンなど）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタンを押します。

その発信に限りコールウェイティングを無効にするには

受話器を取りあげる

①、⑧、⑩を押す

電話番号をダイヤルする

相手の方とお話し中はコールウェイティングがはたらきません。ただし、保留や内線転送操作を行った場合は、その時点からコールウェイティングが有効になります。

コールウェイティングを設定するには
着信許可指定で設定します。(P96)

お知らせ

疑似フレックスホンを利用する場合は以下の項目にご注意ください

- コールウェイティングは同時に複数のポートでご利用できません。
- コールウェイティング中は新たな着信は受け付けられません。
- 2台以上の電話機やパソコン等を接続しているときに、2台(2Bチャンネル)同時に使用しているとコールウェイティングは利用できません。
- 疑似コールウェイティング中は、他の空いているポートを使用することはできません。
- 2番目にかけてきた相手の方とお話しが終わり、受話器を置くと、着信音が鳴ります。このとき、受話器を取りあげると保留にしていた方とお話しができます。
- 外の相手の方を保留にしておける時間は約3分です。約3分たつと保留されている外の相手の方は電話が切れますのでご注意ください。本装置では、電話が切れる約10秒前に警報音が鳴ります。

通話中の電話を転送するには (通信中転送)

外の相手の方を保留にして、別の相手の方に電話をかけて取りつぐことができます。

ワンポイント

フッキングとは
電話機のフックスイッチを押すこと
です。1秒以上押し続けると電話が切れる
ことがあります。コードレスホンや多機
能電話機などをお使いのときは、キャッ
チボタン(またはフックボタン、フラッ
シュボタンなど)を押します。フッキン
グ代用機能をお使いのときは **Ⓜ** ボタン
を押します。

転送先の方が応答する前に転送するには
手順3で転送先に電話をかけ、相手の方
が電話に出る前に受話器を置きます。

手順4で、呼び出された方がお話し中
のとき、または応答しないとき
いったん受話器を置くと、着信音が鳴り
ます。受話器を取りあげると、保留にし
ていた方とお話できます。また、お話
し中のときは受話器を置くかわりに1回
フッキングすると、保留にしていた方と
お話できます。

手順4で、お話し中に通信中転送をやめ
るときは

いったん受話器を置くと、着信音が鳴り
ます。受話器を取りあげると、保留にし
ていた方とお話できます。

手順4で、元の相手との通話に戻すには
1回フッキングしてから **①** を押し
ます。お話し中の相手との電話は保留にな
り、元の相手との通話に戻ります。また、
フッキングしてから **①** を押す前に3秒
以上経過した場合も、元の相手との通話
に戻ります。

お知らせ

疑似フレックスホンを利用する場合は以下の項目にご注意ください

- 手順2で、フッキングしてから **①** を押す前に3秒以上経過すると、「ツツツツ…」という音が聞こえます。この場合は、続けて手順3から行ってください。
- こちらから発信した場合、通話料金はすべて本装置にかかります。
- 2台以上電話機やパソコンなどを接続しているときに、2台(2Bチャンネル)同時に使用していると、通信中転送は利用できません。
- 通信中転送でお話し中の場合は、新たな電話は受け付けられません。

1 お話し中の相手の方に待っていただくよう伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

2 **①** を押します。

「ツツツツツツツツ…」という音を確認してください。外の相手の方は、保留になります。

3 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

4 呼び出された相手の方が応答したら、転送することを伝えます。

お話し中に「ツツツツ…」という音が聞こえます。

5 1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

6 **②** を押します。

7 受話器を置きます。

3人でお話するには (三者通話)

外の相手の方とお話中に、別の相手の方に電話をかけ、3人同時にお話することができます。

この機能を利用するためには、NTTとフレックスホンの利用契約が必要です。

ワンポイント

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタン）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは、**Ⓜ**ボタンを押します。

手順3で、別の相手の方がお話中のとき、または応答しないときはいったん受話器を置くと、着信音が鳴ります。受話器を取りあげると、保留にしていた方とお話できます。また、お話し中のときは、受話器を置くかわりに、1回フッキングすると、保留にしていた方とお話できます。

相手の方を保留にしておける時間は約3分です。約3分たつと保留されている相手の方は電話が切れますのでご注意ください。本装置では、電話が切れる約10秒前に警報音が鳴ります。

お知らせ

TEL2ポートおよび外の相手の方の3者による三者通話はできません。

2番目にかけた相手の方のお話しが終わり受話器を置くと、着信音が鳴ります。受話器を取りあげると、保留にしていた方と、またお話できます。

三者通話でお話し中の場合は、新たな電話は受け付けられません。

手順1で、フッキングをしたあと、手順2で、**①**を押す前に約3秒経過すると「ツツツツツツ…」という音が聞こえます。この場合は、続けて手順3から行ってください。

手順5で、1回フッキングをしてから**②**を押すと、自分以外の方の2人だけでお話することができます。

1 お話中に、外の相手の方に待っていただくように伝え、1回フッキングします。

「ツツツツ…」という音を確認してください。

2 **①**を押します。

「ツツツツツツ…」という音を確認してください。

3 別の相手の方の電話番号をダイヤルボタンで押します。

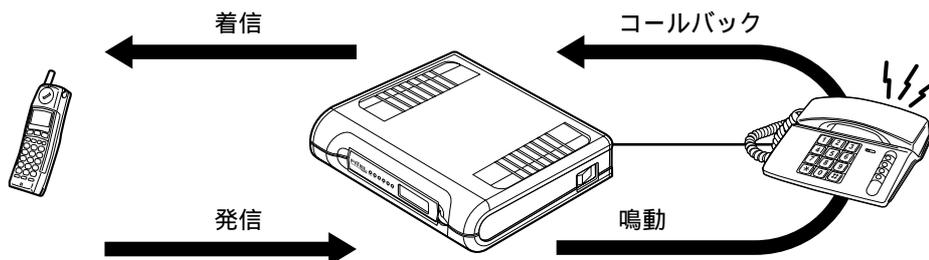
4 相手の方が出たら、お話しください。

5 待っていただくように伝え、1回フッキングし、**③**を押すと、3人でお話することができます。

6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

コールバック機能を利用するには

電話がかかってきたときに、かけてきた方に自動的に電話をかけ直す（コールバック）ことができます。例えば、携帯電話から会社に電話をかけるときに、通話料金を会社側の負担にしたい場合などにコールバック機能を使います。コールバック機能を利用するには、本設定のほか、コールバックの要求元の電話番号を短縮番号（20～39のいずれか）に登録しておく必要があります。（☞P85）



コールバック機能の設定

[初期値：コールバックしない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、* を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①～②のいずれかを押します。
0：コールバックしない
1：発信者番号が登録されている場合のみ、コールバックする
2：発信者番号が登録されている場合、または発信者番号通知がない場合もコールバックする
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）
正しく設定されなかったときは（☞P84）
Webブラウザで設定するには（☞P125）
コマンドで設定するには（☞P131）

お知らせ

発信者番号通知機能を持たない電話機でコールバック機能を利用したいときは、短縮番号20に登録し、手順3で②を選んでください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）
中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に設定しないでください。

コールバック機能の利用

ワンポイント

コールバックしたくないときは「コールバックを要求する方の操作」の手順2で、電話を切らずに呼び出しを続けてください。

「コールバックを要求する方の操作」の手順3で、呼出し音が約60秒間続くとコールバックの要求は無効になります。

コールバックの要求をしたのに呼出し音が鳴らないときはTEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機側が通話中、または不在です。

お知らせ

「TEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機での操作」の手順2で、呼出し音が鳴ってからすぐに受話器を取りあげると、コールバックしません。かけてきた相手の方とつながります。

コールバック機能の短縮番号（20～39）は、中継機能の短縮番号と共有になります。本機能は、発信者番号通知である内容を利用してコールバックするので、発信元は発信者番号通知機能を持つ電話機である必要があります。ただし、発信者番号通知機能を持たない電話機でも、短縮番号20に登録するとコールバック機能が利用できます。

コールバック機能、中継機能、着信転送機能は同時に利用しないでください。

コールバックを要求する方の操作（短縮番号20～39に登録されている電話機での操作）

- 1 短縮番号20～39に登録されている電話機から、TEL1ポート、TEL2ポートのいずれかに接続されている電話機に電話をかけます。
- 2 呼出し音が聞こえたら4回以内に、受話器を置きます。
- 3 しばらくすると呼出し音が鳴ります。
- 4 受話器を取りあげて、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されている電話機での操作

- 1 呼出し音が鳴ります。
- 2 2回以上呼出し音が鳴ってから、受話器を取りあげます。
呼出し音が聞こえます。
- 3 相手の方が応答したら、お話しください。
- 4 お話しが終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

中継機能を利用するには (中継許可指定)

中継機能は、発信者番号通知とサブアドレスを利用し、本装置を中継して他の相手の方に電話をかける機能です。例えば、中継機能を利用すると、本装置を中継してPHSから携帯電話にかけることができます。中継機能を利用するには、本設定のほかに、中継機能の要求元の電話番号を短縮番号(20~39のいずれか)に登録する必要があります。(☞P85)

中継許可指定の設定

お知らせ

中継機能の短縮番号(20~39)は、コールバック機能の短縮番号と共有になります。

本機能は、発信者番号通知の内容とサブアドレスを利用するので、発信元は発信者番号通知機能とサブアドレス通知機能を持つ電話機をお使いください。

中継点として利用するTELポートには、サブアドレスを指定しないでください。

中継機能は、フレックスホンサービスの着信転送機能またはフリー転送機能を利用します。フレックスホンサービスのご契約でない場合に中継機能を利用するときは、必ず「フリー転送許可」の設定にしてください。

[初期値：中継しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、②を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③ ④ または ③ ①を押します。
30：中継しない
31：中継する
正しく設定されると「ツウツウツウ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

中継許可指定の利用

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

中継機能、コールバック機能、着信転送機能は同時に設定しないでください。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 中継するTELポートに接続されている電話機の電話番号を押します。
- 3 ② ボタンを押します。
- 4 相手先の電話番号をダイヤルボタンで押しします。
- 5 相手の方が出たら、お話しください。
- 6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

INSボイスワープ機能を利用するには

INSネット64の付加サービスであるINSボイスワープを利用することができます。INSボイスワープは、フレックスホンの着信転送に比べて、高性能な着信転送サービスです。INSボイスワープ機能をご利用になるには、NTTとの利用契約が必要です。

ワンポイント

INSボイスワープの主なメリット

- 転送方法を「無条件に転送、応答しない場合に転送、お話し中のときに転送」の3種類から選択できます。なお、**④**については組み合わせてのご利用ができます。
- 転送先を5つまで登録でき、その中から転送先を選べます。転送先の登録を変更することもできます。
- 外出先から転送条件を変更することもできます。

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン（またはフックボタン、フラッシュボタン）を押します。フッキング代用機能をお使いのときは、**Ⓜ**ボタンを押します。

お知らせ

ボイスワープをご利用になるときは、発信者番号通知を「通知する」に設定してください。

ボイスワープの契約番号が契約者番号で契約されている場合は、まずダイヤルボタンで「**④**、**✳**、**⑨**、契約者番号、**Ⓜ**」の順に押し、契約者番号を登録してください。

INSボイスワープについて、詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

手順3の入力中にフッキングすると、それまで入力したダイヤルすべてがキャンセルされます。ただし、フッキング代用機能をお使いの場合はキャンセルされません。

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 INSボイスワープの電話番号（1422）をダイヤルボタンで押します。
- 3 ガイダンスに従って、電話機のダイヤルボタンで入力操作を行います。
- 4 受話器を置きます。

INSなりわけサービスを利用するには

INSネット64からのなりわけ通知に対して、呼出音を変えることができます。

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 なりわけサービスの電話番号（147）をダイヤルボタンで押します。
- 3 ガイダンスに従って、電話機のダイヤルボタンで入力操作を行います。
- 4 受話器を置きます。

お知らせ

なりわけサービスをご利用になるときは、発信者番号を「通知する」に設定してください。

なりわけサービスの契約番号が契約者番号で契約されている場合は、手順2のあとダイヤルボタンで「④、⑥、⑨、契約者番号、②」の順に押して、契約者番号を登録してください。

別のTELポートが着信中は、なりわけ着信できません。

通信中に電話機を移動するには (通信中機器移動)

通話を一時中断して電話機を移動したあと、通話を再開できます。

通話を中断する

- 1 お話し中に1回フッキングします。
「ツツツツ...」という音を確認してください。
- 2 ㊦ ボタンを押します。
「ツツツツ...」という音を確認してください。
- 3 中断する通話を識別するための番号(0~9)をダイヤルボタンで押します。
「ツーツー」という音を確認してください。
- 4 受話器を置きます。

通話を再開する

- 1 受話器を取りあげます。
- 2 ㊦ ボタンを押します。
- 3 中断している通話を識別するための番号(0~9のいずれか)をダイヤルボタンで押します。
- 4 ㊦ ボタンを押します。
- 5 相手の方とお話しします。
- 6 お話しが終わったら、受話器を置きます。

ワンポイント

同じ回線に接続された別の電話機から通話を再開するには
手順3で中断する通話を識別するための番号(0~9)を押します。中断している通話を識別するための番号と同じ番号を使用しないと、通話を再開できません。

お知らせ

お話しを中断してから、約3分たつと電話が切れます。再開操作はその間に行ってください。
相手がPHSの場合、通信中機器移動はできません。

アナログ機能を設定するには

TEL1ポート、TEL2ポートに接続したアナログ通信機器は、あらかじめ本装置設定済みのパラメータ(工場出荷時の初期値)に従って一般的な機能の範囲でご利用になれます。さらに、本装置の機能を有効にご利用になる場合は、パラメータの設定値を変更します。

パラメータの設定値の変更は、TELポートに接続した電話機からダイヤルボタンを押して設定する方法、Webブラウザを利用して設定する方法、およびコマンドを入力して設定する方法の3通りあります。

- 電話機を利用した設定 (☞P84)
- Webブラウザを利用した設定 (☞P35)
- コマンドを利用した設定 (☞P38、42)

アナログ機能一覧

TEL1ポート、TEL2ポートに接続したアナログ通信機器では、次の機能を利用できます。

機能名	NTTとの付加サービス契約	電話で設定するには	電話で利用するには
短縮ダイヤル	不要	(☞P85)	(☞P65)
着信転送	要(有料) / 不要 ¹	(☞P86)	-
フリー転送	不要	(☞P93)	-
追っかけ転送	不要	(☞P94)	-
発信者番号通知	不要	(☞P97)	-
グローバルセレクト	不要	(☞P101)	-
ダイヤルイン	要(有料)	(☞P100)	-
サブアドレス	不要	(☞P102)	-
機器種別	不要	(☞P104)	-
ダイヤル完了タイマ	不要	(☞P106)	-
追加呼出遅延(ベル回数)	不要	(☞P108)	-
フッキング/フッキング代用	不要	(☞P110)	-
内線呼出ベル	不要	(☞P111)	-
切断音制御	不要	(☞P112)	-
識別着信	不要 ²	(☞P113)	-
FAX無鳴動着信	不要	(☞P114)	-
INSナンバー・ディスプレイ	要(有料) / 不要 ³	(☞P115)	-
ベル周波数	不要	(☞P118)	-
発信者番号優先着信	不要	(☞P119)	-
コールバック	不要	(☞P76)	(☞P77)
中継機能	不要	(☞P78)	(☞P78)
発信	不要	-	(☞P63)
再ダイヤル	不要	-	(☞P66)
内線通話	不要	-	(☞P67)
着信	不要	-	(☞P68)
内線転送	不要	-	(☞P69)
i・ナンバー	要	-	(☞P70)
コールウェイティング	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P73)
通信中転送	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P74)
三者通話	要(有料)	-	(☞P75)
INSボイスワープ	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P79)
INSなりわけサービス	要(有料) / 不要 ¹	-	(☞P80)
通信中機器移動	不要	-	(☞P81)

1 NTTとの利用契約(有料)が必要です。ただし、本装置をお使いの場合は、フレックスホンサービス、なりわけサービスをご契約でない場合でも、同様の機能をご利用になれます。

2 相手の方が、自分の番号を通知する必要があります。

3 NTTとの利用契約が必要です。ただし、相手の方がINSネット64をお使いの場合は、ナンバー・ディスプレイ機能をご利用になれます。

フレックスホンサービス

フレックスホンサービスは、INSネット64の付加サービスです。フレックスホンサービスをご利用になるには、NTTとの利用契約（有料）が必要です。

ただし、本装置をお使いの場合は、フレックスホンサービスをご契約でない場合でも、同様な機能をご利用になれます（疑似フレックスホン機能）。

フレックスホンサービスをご契約でないとき

フレックスホンサービスをご契約の場合でなくても、同様な機能（コールウェイティング・通信中転送・着信転送・三者通話）をご利用になれます。ただし、2台以上の電話機やパソコンなどを接続しているときに2台（2Bチャンネル）同時に使用していると、その機能を利用することはできません。

三者通話機能は、切替モードのみご利用になれます。

ワンポイント

INSネット64サービスとは
INSネットサービスは、NTTが提供するISDNサービスです。

フレックスホンサービスの契約内容を確認するには
本装置のディスプレイに、フレックスホンサービスの契約内容を表示できます。

受話器を取りあげる

Ⓜ、Ⓜ、Ⓜと押す

本装置のディスプレイには、契約内容が約10秒間表示されます。

お知らせ

相手がPHSの場合、料金情報通知サービスは受けられない場合があります。

電話機を利用した設定

本装置に接続した電話機から、いろいろなアナログ機能を設定することができます。設定は、TEL1ポート、TEL2ポートの2つに分けて行うことができます。また、TEL1ポートに接続されているアナログ通信機器からTEL2ポートのアナログ機能を設定したり、1つのTELポートからすべてのポートに共通するアナログ機能を一括して設定することもできます。設定が終了したら、保存操作を行ってください。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは
設定操作を終えたあと、「ツツツツツ」という音が聞こえなかったときは、正しく設定されていません。この場合は、1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、はじめからやり直してください。

1つのTELポートから別のTELポートのアナログ機能を設定するには
TEL1ポートに接続されている電話機から、TEL2ポートのアナログ機能を設定することができます。(TEL2ポートからTEL1ポートを設定することもできます。)

受話器を取りあげる

⊗、⊃、⊃ <設定するTELポート番号(1または2)>を押す

以降、手順2から操作を行ってください。

1つのTELポートからすべてのTELポートのアナログ機能を一括して設定するには

受話器を取りあげる

⊗、⊃、⊗を押す

以降、手順2から操作を行ってください。ただし、そのTELポートのみ利用できるアナログ機能は、一括して設定できません。

お願い

通話・通信中のときは、設定や保存を行わないでください。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 機能番号を押します。

機能番号	設定内容	参照ページ
0	短縮ダイヤル登録	☞P85
1	コールバック、中継機能設定 INSナンバー・ディスプレイ、疑似なりわけ	☞P76、78、 115、117
2	着信転送設定	☞P86
3	着信種別設定	☞P96
4	発信者番号通知設定	☞P97
5	グローバルセレクト、ダイヤルイン設定	☞P100
6	サブアドレス設定	☞P102
7	機器種別設定(TELポートのHLC設定)	☞P104
8	ダイヤル完了タイマ設定	☞P106
9	その他	☞P107~114、 118~120

3 ⊗ ボタンを押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

4 パラメータをダイヤルボタンで押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5 受話器を置きます。

6 設定が終了したら、設定を保存してください。 (☞P124)

短縮ダイヤル登録を行うには

TEL1ポート、TEL2ポートごとに、またはTELポート共通の短縮ダイヤルを合わせて40か所まで登録できます。短縮番号00～09は発信者番号優先着信(☞P119)、20～39はコールバック、中継機能対象番号と共用になります。

[初期値：未登録]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

電話番号(アドレス)・サブアドレスについて

アドレスは3桁～32桁、サブアドレスは最大19桁で、いずれも数字(0～9)と*が登録できます。アドレスとサブアドレスの区切りには(*)ボタンを押します。

例 0312345678 * 12345

アドレス サブアドレス

コールバックを行う電話番号を登録するには

コールバックを行う電話番号(発信元の電話番号)を短縮番号20～39のいずれかに登録してください。発信者番号通知機能を持たない電話機の場合は、短縮番号20に登録してください。

中継を行う電話番号を登録するには

中継を行う電話番号(発信元の電話番号)を短縮番号20～39のいずれかに登録してください。(☞P78)

短縮ダイヤルの登録を取り消すには

受話器を取り上げる

①、(*)、短縮番号、(#+)を押す

受話器を置く

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

コールバックを行う電話番号にはサブアドレスを登録しないでください。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ①、(*)を押します。

「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 短縮番号(00～39)をダイヤルボタンで押します。

4 登録する電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。

5 (#+)ボタンを押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

6 受話器を置きます。

着信転送設定を行うには

NTTのフレックスホンサービスの着信転送機能をご利用になると、外の相手の方からの電話を、決められた別の相手の方に直接取りつぐことができます。着信転送機能をご利用になるときは、NTTとの利用契約が必要です。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。必要に応じて呼出ベル回数の設定（☞P89）、転送トーキの設定（☞P100）を行ってください。

着信転送を設定する

着信転送は、TELポートごとに設定できます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

リモート設定を行うには
ISDN公衆電話など、本装置に接続されていない電話機から着信転送機能の設定・解除を行うことができます（リモート設定）。

リモート設定を行うときは、あらかじめ暗証番号の登録が必要です。（☞P91）

呼出音を鳴らしてから転送するには
転送時、設定回数だけ呼出音を鳴らしてから、転送することができます。（☞P89）

着信転送の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⊛、②、⊛を押す

受話器を置く

お知らせ

着信転送先には、サブアドレスや特殊番号は登録できません。

着信転送先が登録されていないと、転送できません。

お願い

着信転送機能（フリー転送を含む）を設定したときは、同時に中継機能、コールバック機能は設定しないでください。

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

着信転送先の登録

[初期値：未登録]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

②、⊛を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

②を押します。

4

着信転送先の電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。

5

⊛ボタンを押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

6

受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
正しく設定されなかったときは(☞P84)
Webブラウザで設定するには(☞P125)
コマンドで設定するには(☞P131)
フレックスホンサービスをご契約でないときは
フリー転送をご利用になれます。
(☞P93)

お知らせ

本装置までの通話料金は電話をかけてきた方に、本装置から転送先間の通話料金は本装置にかかります。転送先がお話し中などで着信できない場合、お買い求め時の設定では、電話をかけてきた方にも本装置にも通話料金はかかりません。
着信転送中は、コールバック機能、中継機能を利用できません。
フレックスホンサービスをご利用の時、転送先に通知される発信者番号通知の内容は、発信元の電話番号になります。
フリー転送をご利用の時は、本装置の電話番号が通知されます。
フレックスホンサービス(着信転送)をご契約の場合でも、着信転送機能を使えないときは、「フリー転送許可」に設定しているときに限り、フリー転送機能を使って転送することができます。
着信転送中は、同じINSネット64上に接続されている電話機では着信転送できません。
遅延着信転送設定時、転送トーキ、転送元トーキをどちらも「なし」に設定している場合は、転送先がお話し中のときでも、話中音は鳴らず、呼出音が3分以上鳴ることがあります。

着信転送機能の設定

[初期値：着信転送しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、③を押します。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ④または⑤を押します。
0：着信転送しない
1：着信転送する
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

着信転送設定を行うには

ワンポイント

リモート先から着信転送を一括設定するには
着信転送機能を一括設定するには、TEL1ポート、TEL2ポートの着信転送設定用暗証番号を同じ番号に設定してください。

リモート先電話機の受話器を取り上げる

<本装置に接続されている電話機の電話番号>、**(*)**、<着信転送設定用暗証番号>を押す

受話器を置く

リモート先の電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

リモート先から着信転送を一括解除するには
着信転送機能を一括解除するには、TEL1ポート、TEL2ポートの着信転送解除用暗証番号を同じ番号に設定してください。

リモート先電話機の受話器を取り上げる

<本装置に接続されている電話機の電話番号>、**(*)**、<着信転送解除用暗証番号>を押す

受話器を置く

リモート先の電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

お知らせ

リモート先から設定する場合、ダイヤルイン番号はチェックされません。

着信転送機能の一括設定

着信転送機能については、簡単な手順ですべてのTELポートの機能を設定、解除することができます。

[初期値：すべてのTELポートの着信転送機能を停止する]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 **(#)**を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 **② ①**または**② ①**を押します。

20：すべてのTELポートの着信転送機能を停止する

21：すべてのTELポートの着信転送機能を開始する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

呼出ベル回数を設定する

着信転送（フレックスホンサービス）やフリー転送時に設定回数だけ呼出音を鳴らしてから転送するように、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定ができます。呼出音が鳴っているときに受話器を取りあげると転送はキャンセルされ、かけてきた相手の方とお話することができます。

[初期値 : 0]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⊗を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③を押します。
- 4 呼出ベル回数（0～9）をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

呼出ベル回数を0に設定すると
着信音を鳴らさずにすぐに転送します。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
でください。

設定が終了したら、保存操作を行って
ください。（☞P124）

転送トーンを設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約の場合は、転送トーン、転送元トーン（INSネット64より送られる音声によるメッセージ）をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。詳しくはNTT窓口等へお問い合わせください。

[初期値：転送トーンなし・転送元トーンなし]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、③を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ④を押します。

4 ①～④のいずれかを押します。

- 1：転送トーンなし・転送元トーンなし
- 2：転送トーンあり・転送元トーンなし
- 3：転送トーンなし・転送元トーンあり
- 4：転送トーンあり・転送元トーンあり

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

転送トーン、転送元トーンのメッセージ内容

- 転送トーン（電話をかけてきた相手の方に流れます）
「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」
- 転送元トーン（転送先の相手の方に流れます）
「電話が転送されますので、そのままお待ちください。」

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

暗証番号を登録する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約の場合は、ISDN公衆電話など本装置に接続されていない電話機から着信転送機能の設定・解除を行うことができます（リモート設定）。

リモート設定を行うときは、あらかじめ着信転送設定用暗証番号および着信転送解除用暗証番号の登録が必要です。これらの暗証番号は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

着信転送設定用暗証番号の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑥、⑤、⑧を押す

受話器を置く

リモート先から着信転送を設定するには

受話器を取りあげる

本装置に接続されている電話機の電話番号、⑥、着信転送設定用暗証

番号を押す

受話器を置く

リモート先電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りです。

お知らせ

着信転送設定用暗証番号には着信転送解除用暗証番号と同じ番号は登録しないでください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

暗証番号に⑥や⑧は登録できません。TELポートにサブアドレスが設定されている場合は、暗証番号とサブアドレスが同じ値にならないように登録してください。

着信転送設定用暗証番号の登録

[初期値：未登録]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

②、⑥を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3

⑤を押します。

4

4桁の着信転送設定用暗証番号（0000～9999）をダイヤルボタンで押します。

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

着信転送設定を行うには

着信転送解除用暗証番号の登録

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥を押します。
- 4 4桁の着信転送解除用暗証番号（0000～9999）をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（←P64）

正しく設定されなかったときは（←P84）

Webブラウザで設定するには（←P125）

コマンドで設定するには（←P131）

着信転送解除用暗証番号の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑨、⑥、④を押す

受話器を置く

リモート先から着信転送を解除するには

受話器を取りあげる

本装置に接続されている電話機の電話番号、⑨、着信転送解除用暗証

番号 を押す

受話器を置く

リモート先電話機は、サブアドレスを送信できるものに限りません。

お知らせ

着信転送解除用暗証番号には着信転送設定用暗証番号と同じ番号は登録できません。

フリー転送を設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約でなくても、外の相手の方からの電話を、決められた別の相手の方に直接取りつぐことができます。

フリー転送は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値：フリー転送許可1 転送失敗時、発信者に話中音を流す]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、⊗を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3 ⑦①① ~ ⑦③のいずれかを押します。

70：フリー転送を行わない

71：フリー転送許可1

転送失敗時、発信者に話中音を流す

72：フリー転送許可2

転送失敗時、発信者にアナウンス流す（発信者には通話料がかかります）

73：フリー転送代替着信

転送失敗時、本装置が最初に着信したTELポートに接続されている電話機を呼び出す

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

呼出音を鳴らしてから転送するには
転送時、設定回数だけ呼出音を鳴らしてから、転送することができます。（☞P89）

フリー転送した件数を確認するには
本装置のディスプレイにフリー転送した電話の件数を表示できます。

表示するTELポートの電話機の受話器
を取りあげる

⊕、⊕、⊕を押す

ディスプレイにはTELポート番号と転送
件数が約10秒間表示されます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
でください。

設定が終了したら、保存操作を行って
ください。（☞P124）

お知らせ

フリー転送は、空き状態の回線が2回線ある場合にご利用になれます。
フリー転送が許可されていても、フレックスホン契約が有効なときは
フレックスホン契約の方が優先されます。

「着信種別」が「着信禁止」に設定されている場合は、フリー転送は設
定できません。

「着信転送機能」が「転送しない」に設定されている場合、フリー転送
は利用できません。

フリー転送機能（着信転送を含む）を設定したときは、同時に中継機
能、コールバック機能は設定しないでください。

3
アナログ通信
機器を使う

追っかけ転送を設定する

NTTのフレックスホンサービスの着信転送をご契約でなくても、「追っかけ転送先」を登録しておく、転送先がお話し中のときに別の相手に取りつぐ（代替転送）ことができます。

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧を押します。
- 4 追っかけ転送先の電話番号を市外局番からダイヤルボタンで押します。
- 5 ⑨ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

追っかけ転送先の登録を取り消すには

受話器を取りあげる

②、⑥、⑧、⑨を押す

受話器を置く

お知らせ

NTTのフレックスホンサービスでは、追っかけ転送はできません。

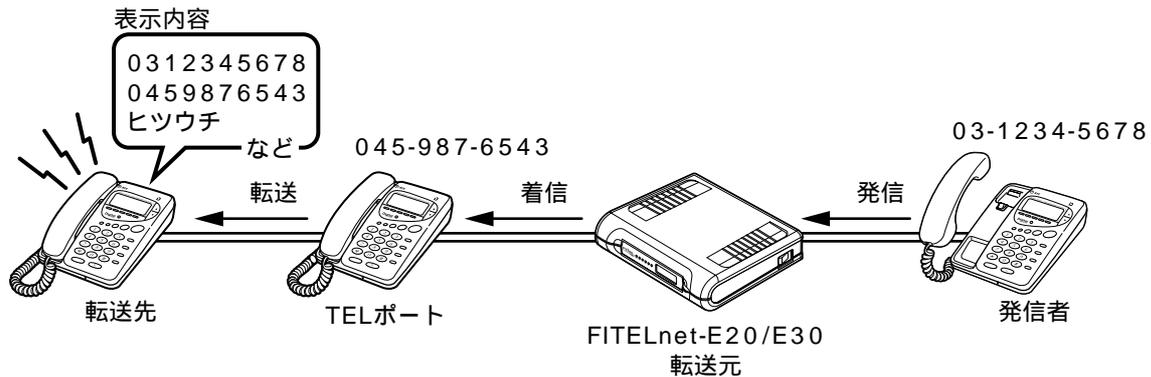
お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

着信転送とナンバー・ディスプレイについて

着信転送、またはフリー転送が設定されていて、転送先がナンバー・ディスプレイを契約している場合は、転送先に電話番号が表示されます。ただし、転送先に表示される電話番号は、設定により以下のように異なります。



フレックスホンの着信転送機能 (☞P86) をお使いの場合

発信者	転送先の表示内容
発信者番号を通知して発信	発信者の電話番号 (例: 0312345678)
発信者番号を通知せずに発信	発信者の非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)

フリー転送機能 (☞P93) をお使いの場合

フリー転送機能をお使いの場合は、発信者の発信者番号通知設定にかかわらず、本装置が着信したTELポートの設定によります。

着信したTELポートの 発信者番号通知設定 (☞P97)	転送先の表示内容	
通知しない	本装置に着信したTELポートの非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)	
通知する	本装置に着信したTELポートの電話番号 (例: 0459876543)	
契約による	通話ごと非通知	本装置に着信したTELポートの電話番号 (例: 0459876543)
	回線ごと非通知	本装置に着信したTELポートの非通知理由 (非通知、表示圏外など) (例: ヒツウチ)

着信種別設定を行うには

電話を受けたくないときは、着信種別を「着信禁止」に設定すると発信専用でご利用になります。「着信許可」に設定する場合は、着信許可の条件として「通信中着信許可」、「通話中追加呼出許可」、「追加呼出許可」が選択できます。着信種別はポートごとに設定できます。
[初期値：追加呼出許可]

着信種別		説明
着信禁止		着信を拒否し、発信専用にします。
着信許可	条件なし	着信できます。TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、すべて空いているときは、TEL1ポートに優先的に着信音を鳴らします。TEL1ポートが使用中の場合は、TEL2ポートの着信音を鳴らします。
	通信中着信許可 (コールウェイティング)	通話中に別の電話がかかってきたときに、割込音を鳴らします。TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定しており、どちらも通話中のときは、TEL1ポートに優先的に割込音を鳴らします。
	追加呼出許可	TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、着信時にすべての電話機の着信音を鳴らします。
	通話中追加呼出許可	TEL1ポート、TEL2ポートに同じ電話番号を設定している場合、空いているTELポートに着信音を鳴らすと同時に、通話中のTELポートに割込音を鳴らします。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ③、✳️を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ①～⑤のいずれかを押します。

- 0：着信禁止
- 1：着信許可
- 2：通信中着信許可
- 3：追加呼出許可
- 4：通信中着信許可、追加呼出許可
- 5：通信中着信許可、追加呼出許可、通話中追加呼出許可
(TEL2ポートのみ)

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

通信中着信許可または通話中追加呼出許可の設定を有効にする場合は、通信中着信通知サービスをNTTと契約(無料)する必要があります。

追加呼出や通話中追加呼出の着信音や割込音を遅らせて鳴らすことができます。
(☞P108)

お願い

通信中着信許可または通話中追加呼出許可に設定した場合、FAXやモデムが割込音のために接続障害を起こす場合があります。その場合は、設定を変更してください。

発信者番号通知設定を行うには

INSネットサービスでは、発信するとき、発信者番号(自局アドレスと自局サブアドレス)を相手の方に通知するかどうか(発信者番号通知サービス)をNTTとの契約(無料)により選ぶことができます。発信者番号を通知する契約をされた場合でも、通知しないように設定することができます。発信者番号通知設定は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

発信者番号通知を設定する

[初期値：NTTとの契約に従う]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ④、⊗を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①～②のいずれかを押します。
0：発信者番号を通知しない
1：発信者番号を通知する
2：NTTとの契約に従う
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
- 正しく設定されなかったときは(☞P84)
- Webブラウザで設定するには(☞P125)
- コマンドで設定するには(☞P131)

「発信者番号を通知する」に設定したときはTELポートに設定されている自局アドレスが通知されます。また、自局サブアドレスを設定している場合は、サブアドレスも通知されます。

お知らせ

通知した番号は、相手の方の電話機などに発信者番号を表示する機能や発信者番号を識別する機能がある場合に利用されます。

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
- 設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)
- 中継機能、コールバック機能を設定している場合は、必ず「発信者番号を通知する」に設定してください。
- INSネット64のご契約時に、発信者番号通知サービスを、「常時通知拒否」でご契約になると、発信者番号通知機能を利用することができません。ご契約は「呼毎通知許可」としてください。

通知する電話番号（自局アドレス）を登録する

相手の方に発信者番号を通知するときの電話番号（自局アドレス）を登録できます。電話番号を登録しない場合や、間違った電話番号を登録した場合は、契約者回線番号が通知されます。

[初期値：未登録]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ④、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨、<電話番号>、④を押します。
正しく設定されると「ツウツウツウ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

「発信者番号を通知する」に設定したときはTELポートに設定されている自局アドレスが通知されます。また、自局サブアドレスを設定している場合は、サブアドレスも通知されます。

通知する自局アドレスの登録を解除するには

受話器を取りあげる

④、⑨、④、④を押す

受話器を置く

1回ごとに発信者番号通知設定を変更する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 次のいずれかを押します。
184：発信者番号通知を行わない
186：発信者番号通知を行う
- 3 相手の電話番号をダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話しが終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通
信
機
器
を
使
う

ワンポイント

「184」「186」をダイヤルして発信し
たときの発信者番号通知内容は

	ダイヤル手順		
	相手番号 (通常ダイヤル)	184+ 相手番号	186+ 相手番号
通話ごと 非通知 (呼毎通知許 可)	通知する	通知しない	通知する
回線ごと 非通知 (呼毎通知拒 否)	通知しない	通知しない	通知する
常時通知拒 否	通知しない	電話をかけ られません	電話をかけ られません

お知らせ

1回ごとにTELポートの機器種別を変更す
る「181」「182」「183」や、フッキング
代用機能を無効にする「185」をダイヤ
ルしたときは、「184」「186」をダイヤ
ルすることはできません。

グローバルセレクト、ダイヤルイン 設定を行うには

NTTのダイヤルインサービス（有料）をご契約になると、契約者回線番号に加えて複数の追加番号を持つことができます。これらの番号をダイヤルイン番号といい、TEL1ポート、TEL2ポートごとにダイヤルイン番号を設定しておく、外からダイヤルイン番号を指定してTELポートを特定して着信させることができます。ダイヤルイン番号は、自局アドレスとして設定します。なお、ダイヤルインサービスは、相手の方が電話網の場合でも利用することができます。詳しくはNTT窓口等お問い合わせください。

また、本装置には契約者回線番号（グローバル着信番号）をダイヤルイン番号のように扱い、特定の通信機器に直接着信させる機能（グローバルセレクト機能）があります。グローバルセレクト・ダイヤルイン設定は、TEL1ポート、TEL2ポートごとに行ってください。

[初期値：ダイヤルイン番号、グローバルセレクト機能を利用しない]

指定ダイヤルイン番号のみ着信するように設定する

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お知らせ

グローバルセレクト、ダイヤルイン設定はTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⊛を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⊛ボタンを押します。
- 4 登録するダイヤルイン番号をダイヤルボタンで押します。
- 5 ⊛ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

指定ダイヤルイン番号と契約者回線番号（グローバル着信番号）で着信する

ワンポイント

グローバルセレクト機能を利用するにはダイヤルインサービスをご契約する際に「グローバル着信利用」を指定してください。また、「着信種別」は、「着信禁止」以外に設定してください。

お知らせ

ダイヤルイン番号は、市外局番をつけずに登録してください。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⊛を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 登録するダイヤルイン番号をダイヤルボタンで押します。
- 4 ⊛ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

契約者回線番号(グローバル着信番号)のみ着信する(グローバルセレクト機能)のように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥、⑦を押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

ダイヤルイン番号、グローバルセレクト機能を利用しないように設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑤、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑦ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

サブアドレス設定を行うには

サブアドレスを利用した着信番号の登録が行えます。
サブアドレスを利用した着信では、外から電話をかけるとき、電話番号に続いてサブアドレスをダイヤルすれば、その電話機だけに着信させることができます。電話網からの電話やFAXがある場合は、ダイヤルインサービス(☎P100)をご契約になったほうが、より便利にお使いいただけます。中継機能(☎P78)を利用するときはサブアドレスを利用した着信はできません。中継先の電話番号を登録する場合は、以下の設定は無効になります。

[初期値：サブアドレスを利用しない]

指定サブアドレスのみ着信するよう設定する

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☎P64)
正しく設定されなかったときは(☎P84)
Webブラウザで設定するには(☎P125)
コマンドで設定するには(☎P131)

お知らせ

サブアドレス着信を利用するときは、「着信種別」を「着信禁止」以外に設定してください。
自局サブアドレスは、19桁まで登録できます。
ISDN網から着サブアドレスが送られてくると、自局サブアドレスとのチェックが行われます。着サブアドレスと自局サブアドレスが完全に一致しないと、着信は受け付けられません。
自局サブアドレスはTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨ボタンを押します。
- 4 自局サブアドレスをダイヤルボタンで押し
ます。
- 5 ⑨ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 6 受話器を置きます。

指定サブアドレスとサブアドレスなしを着信するよう設定する

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
てください。
設定が終了したら、保存操作を行って
ください。(☎P124)

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 自局サブアドレスをダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 ⑨ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

サブアドレスなしのみ着信するよう設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨、④を押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

サブアドレスを利用しないよう設定する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑥、⑨を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ④ボタンを押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

機器種別設定(TELポートのHLC設定)を行うには

機器種別として、HLC（高位レイヤ整合性）を設定できます。
TELポートには、「任意」、「電話」、「FAX」の3種類をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。「任意」に設定すると、電話、FAX、モデムのいずれの着信にも対応します。
また、TELポートが「FAX」に設定されていても、その発信に限り「電話」として発信したいなど、TELポートの設定とは別に、1回ごとの発信の機器種別を変更して、相手に通知することもできます。

TELポートの機器種別を設定する

[初期値：任意]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

着信するTELポートを特定するには
ダイヤルイン番号または自局サブアドレスを設定して特定してください。
（☞P100、102）

発信時（フリー転送、フリー転送を利用した中継時、コールバックによる自動発信時を含む）は
機器種別（HLC）を相手に通知します。
ただし、「任意」に設定されている場合は、相手に通知しません。また、着信時は機器種別（HLC）が一致する相手だけと通信を行います。

機器種別と着信条件

受信した通信クラス ¹	指定なし ²	電話	FAX
設定した通信クラス			
任意			
電話			x
FAX		x	

¹ 送信する側で設定されている機器種別（HLC）

² 電話網からの電話やFAXがあった場合、または送信する側の機器種別（HLC）の指定がない場合

- 携帯電話からFAXした場合は、パソコン側のドライバによっては、機器種別（HLC）がFAXになるときもあります。

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ⑦、⑨を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3 ①～③のいずれかを押します。

- 1：任意
- 2：電話
- 3：FAX

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

お知らせ

機器種別を「電話」に設定した場合は、機器種別が「FAX」に設定されている相手の方からの着信は受けられません。また、機器種別が「FAX」に設定されている場合は、機器種別が「電話」に設定されている相手の方からの着信は受けられません。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

1回ごとに機器種別を変更する

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 次のいずれかを押します。
181：任意
182：電話
183：FAX
- 3 相手の電話番号をダイヤルボタンで押し
ます。
- 4 相手の方が出たら、お話しください。
- 5 お話が終わったら、受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

お知らせ

1回ごとの発信者番号通知を変更する「184」や「186」をダイヤルしたときは、「181」、「182」、「183」をダイヤルすることはできません。(☞P99)

ダイヤル完了タイマ設定を行うには

ダイヤル完了後に(Ⓜ)ボタンを押すとすぐに発信されますが、(Ⓜ)ボタンが押されないときは、ダイヤルが完了したかどうか(電話番号をダイヤルし終わったかどうか)は、タイマで認識されます。この時間を設定するのがダイヤル完了タイマです。ダイヤル完了タイマは0～9秒の間で設定できます。

[初期値：4秒]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 (Ⓚ)、(✳)を押します。
「ツウツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ダイヤル完了タイマ(0～9)をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

ダイヤル完了タイマを0秒に設定するとダイヤル終了後、(Ⓜ)ボタンを押さないと発信しません。

-LCR機能を持つ電話機をご利用の場合はダイヤル完了タイマを9秒に設定してください。

お知らせ

ダイヤル完了タイマは、ダイヤルボタンを押すごとにリセットされます。

ダイヤル中に設定時間を経過すると、ダイヤルの途中でも発信されてしまいます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

通話時のボリュームを調整するには

通話時のボリューム（受話音量）を2段階で調整できます。[初期値：大]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ①を押します。
- 4 ②または①を押します。
0：小
1：大
正しく設定されると「ツツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）
- 正しく設定されなかったときは（☞P84）
- Webブラウザで設定するには（☞P125）
- コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
- 設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

追加呼出遅延(ベル回数)を設定するには

着信種別設定で、追加呼出許可または通話中追加呼出許可の設定時、TEL2ポートに接続されている電話機をTEL1ポートに接続されている電話機よりも遅らせて着信音や割込音を鳴らすように設定できます。遅らせる時間はベルの回数で設定します。追加呼出遅延によって着信音が鳴っていない場合でも、TEL2ポートに接続されている電話機で電話に出ることができます。

[初期値：0回(なし)]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑥を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ①を押します。
- 4 遅らせるベル回数(0~9)をダイヤルボタンで押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

追加呼出許可とは

外から電話がかかってきたときに、TEL1ポート、TEL2ポートに接続されたすべての電話機から着信音を鳴らすことができる設定です。(☞P96)

お知らせ

追加呼出遅延はTELポートごとに設定できます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

時刻を設定するには

本装置の現在時刻を設定します。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧、③を押します。
- 4 年月日時分をダイヤルボタンで押します。
年：西暦年の下2桁
月：2桁 1桁の月は先頭に0を加える
日：2桁 1桁の日は先頭に0を加える
時：2桁 1桁の時は先頭に0を加える
分：2桁 1桁の分は先頭に0を加える
(例) 2001年8月1日18時00分は、②、①、②、⑧、
②、①、①、⑧、②、②と押します。
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」
という音が聞こえます。
- 5 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)
- 正しく設定されなかったときは (☞P84)
- Webブラウザで設定するには (☞P54)
- コマンドで設定するには (☞P54)

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わない
ください。
- 設定が終了したら、保存操作を行って
ください。(☞P124)

フッキングを設定するには

フッキングを有効にするかどうかをTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。フッキングを無効に設定すると、フッキングを使った操作ができなくなりますのでご注意ください。また、キャッチボタンがない電話機でも(Ⓜ)ボタンをキャッチボタンと同様に利用できるように、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することもできます(フッキング代用)。

フッキングを設定する

[初期値：有効]

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

フッキングとは

電話機のフックスイッチを押すことです。1秒以上押し続けると電話が切れることがあります。コードレスホンや多機能電話機などをお使いのときは、キャッチボタン(またはフックボタン、フラッシュボタン)を押します。フッキング代用機能をお使いのときは(Ⓜ)ボタンを押します。

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

⑨、⑩を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

②①～②②のいずれかを押します。

20：無効 21：有効 22：通信中発信のみ無効

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4

受話器を置きます。

フッキング代用を設定する

ワンポイント

その発信に限りフッキング代用機能を無効にするには

受話器を取りあげる

①、⑧、⑤を押す

電話番号をダイヤルする

相手の方が出たらお話しする

ただし、1回ごとの発信者番号通知を変更する「184」や「186」をダイヤルしたときは、「185」をダイヤルすることはできません。

フッキング代用機能をお使いの場合に、相手の方がお話し中のときは

話中音が聞こえているときに(Ⓜ)、①の順に押し、話中音を消すことができます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

「通信中発信のみ無効」に設定すると、通話中発信機能はご利用になれません。

フッキングにより、電話機自体の操作(例えば親機と子機間の操作など)を行う場合は、「無効」に設定してください。

[初期値：フッキング代用しない]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

⑨、⑩を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

⑩ボタンを押します。

4

①または①を押します。

0：フッキング代用しない

1：フッキング代用する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

5

受話器を置きます。

内線呼出ベルを設定するには

内線からの電話と外からの電話を区別できるように、内線電話機からの着信音を短いサイクルで鳴らすことができます。内線呼出ベルは、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値 : 外線呼出ベルと同じ]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ③ ①または③ ①を押します。
30 : 外線呼出ベルと同じ
31 : 短く鳴らす
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)
- 正しく設定されなかったときは (☞P84)
- Webブラウザで設定するには (☞P125)
- コマンドで設定するには (☞P131)

お願い

- 通話・通信中のときは、設定を行わないでください。
- 設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

切断音制御を設定するには

INSネット64から送られてくる話中音や切断後のダイヤルトーンは、30秒経過すると停止します。その後、本装置から切断音を流すか、無音のままにするかをTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することができます。

[初期値：利用する]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ④①または④②を押します。
40：利用しない（無音のまま）
41：利用する（切断音を流す）
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

識別着信を設定するには

識別着信を設定すると、設定した条件にあてはまる電話番号からの着信と特番（「110」「119」）からの着信だけを受けよう、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定することができます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく設定されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

短縮ダイヤルを登録するには（☞P85）

匿名の電話とは

電話番号を通知せずにかけてきた電話のことです。

INSナンバー・ディスプレイをご契約の場合は、通知できなかった理由を確認できます。

お知らせ

INSなりわけサービスの設定を有効にする場合は、INSなりわけサービスをNTTと契約（有料）する必要があります。

疑似なりわけは識別着信されません。

識別着信はTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。TEL1ポートとTEL2ポート両方のポートに着信させたいときは、ポートごとに登録してください。

着信許可指定で、「追加呼出」が設定されていても、識別着信の設定が優先されます。

発信者が相手先に番号を通知しない（発信者番号通知なし）で電話をかけてきた場合は、着信しません。

短縮ダイヤルに登録されている自局アドレスと、ISDN網から送られてくる相手アドレス（発アドレス）が一致した場合だけ着信します。

NTT以外の回線を利用して電話をかけてきた場合は、発信者番号が通知されないことがあります。詳しくは、NTT窓口等へお問い合わせください。

NTT以外の回線からの着信を受けたいときは、その回線を区別する番号を含む電話番号と、区別する番号を含まない電話番号の両方を登録してください。

公衆電話等のアナログ電話からの識別着信にはINSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

[初期値：識別着信しない]

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ⑨、⑩を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ⑤ ① ~ ⑤ ⑥のいずれかを押します。

50：識別着信しない

51：本装置に登録されている短縮ダイヤルの電話番号のみ着信する（識別着信）

52：識別着信と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

53：発信者番号が通知されている電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

54：識別着信、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信する

55：発信者番号が通知されている電話、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信する

56：匿名以外の電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信する

正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

FAX無鳴動着信を設定するには

TELポートに接続したFAXがFネットの無鳴動（1300Hz呼出）着信機能を持つとき、着信音を鳴らさずにFAXに着信することができます。

[初期値：FAX無鳴動着信を行わない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑥① ~ ⑥④のいずれかを押します。
 - 60：FAX無鳴動着信を行わない
 - 61：着信時の機器種別（HLC）がFAXのときのみ無鳴動着信許可
 - 62：無条件に行う
 - 63：契約者回線番号（グローバル着信番号）への着信のみ無鳴動着信許可
 - 64：ダイヤルイン番号への着信のみ無鳴動着信許可正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは（☞P64）

正しく保存されなかったときは（☞P84）

Webブラウザで設定するには（☞P125）

コマンドで設定するには（☞P131）

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。（☞P124）

INSナンバー・ディスプレイを設定 するには

本装置はナンバー・ディスプレイに対応しています。

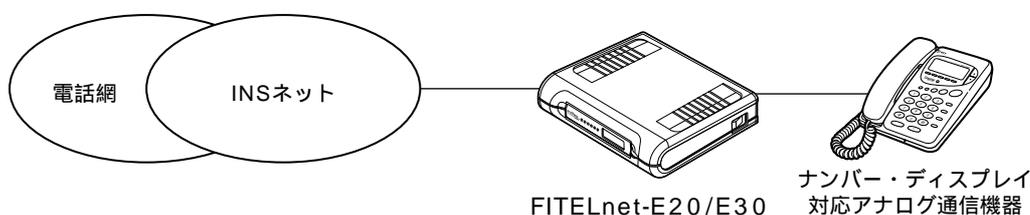
電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信電話番号）や電話番号を通知できない理由を、アナログ通信機器や、本装置のディスプレイに表示することができます。

この機能をご利用になるためには、INSナンバー・ディスプレイの契約（有料）が必要です。ただし、相手の方がINSネットから発信電話番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信電話番号をアナログ通信機器や、本装置のディスプレイに表示することができます。

INSナンバー・ディスプレイをご利用になるには、以下の条件を満たす必要があります。

- ・アナログ通信機器に表示させたい場合は、ナンバー・ディスプレイ対応のアナログ通信機器を接続する。ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は、必ずTEL1ポートに接続してください。
- ・ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定する。

TEL1ポートに接続したアナログ通信機器に発信電話番号通知を行うしくみは次のとおりです。



発信電話番号が付加された着信があります。

本装置は、受信した発信電話番号をモデム信号に変換します。

ナンバー・ディスプレイ発信電話番号通知を「する」に設定したTELポートにモデム信号を送出し、本装置のディスプレイに発信電話番号を表示します。（ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器は鳴動しません）

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器が、モデム信号で受信した発信電話番号を表示し、鳴動します。

お知らせ

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器をTEL2ポートに接続しても、ナンバー・ディスプレイをご利用になれません。

INSナンバー・ディスプレイを設定するには

ワンポイント

- ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)
- 正しく設定されなかったときは(☞P84)
- Webブラウザで設定するには(☞P125)
- コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

停電時はナンバー・ディスプレイをご利用になれません。
FAX無鳴動着信が設定されている場合も、ナンバー・ディスプレイの設定は有効です。

お願い

TEL1ポートにナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続した場合は、手順3で「使用する」に設定してください。接続状態と設定内容が正しくないと、ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器が誤動作します。
停電時、TEL1ポートが「ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する」に設定されているときに着信を受けたときは、着信音が鳴ってから約6秒後に受話器を取りあげてください。その前に受話器を取りあげても電話はつながりません。
着信転送、フリー転送での呼出ベル回数(☞P89)や、追加呼出遅延(ベル回数)(☞P108)と、「ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する」が同時に設定されていると、設定したベル回数より1~2回少なくなる場合があります。

[初期値：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用しない]

1

受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2

①、⑤を押します。

「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。

3

⑥ ① ~ ⑥ ②のいずれかを押します。

60：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用しない

61：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する(モード1)

62：ナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を使用する(モード2)

61(モード1)に設定してもうまく動作しない場合は、62(モード2)に設定を変更してください。

正しく設定されると、「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4

受話器を置きます。

お知らせ

INSナンバー・ディスプレイにおいて相手の方が電話番号を表示しない契約を結んでいる、または電話番号を表示しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ通信機器や本装置のディスプレイに発信電話番号は通知されません。

このとき、電話番号を通知できない理由を、本装置に接続したアナログ通信機器や本装置のディスプレイに通知します。

ただし、INSナンバー・ディスプレイの契約において、非通知理由「有/無」の契約を「有」にする必要があります。

電話番号を通知できない主な理由は以下のとおりです。

- ・公衆電話から電話がかかってきたとき
 - ・かけてきた相手の方が電話番号を表示しない操作をしたとき、または表示しない契約になっているとき
 - ・ナンバー・ディスプレイを提供しないエリアから電話がかかってきたとき、またはサービスが競合しているため電話番号を通知できないとき
- なお、アナログ通信機器のディスプレイなどにどのように表示されるかは、アナログ通信機器によって異なります。

リソースBODの設定を「発信/着信時に使用する」、「発信時に使用する」、または「着信時に使用する」とした場合は、128KマルチリンクPPPを使用して128kbit/sのデータ通信中に着信は受け付けられませんが、発信電話番号はTELポートに接続したアナログ通信機器に通知されません。

INSナンバー・ディスプレイはTEL1ポートのみ設定できます。

アナログ通信機器によっては、発信電話番号などが正しく表示されないことがあります。

相手の方からサブアドレスが通知されていても、サブアドレスは表示されません。

疑似なりわけを設定するには

NTTのINSなりわけサービスをご契約でなくても、短縮ダイヤルに登録されている電話番号からかかってきた電話を疑似的に鳴り分けることができます。疑似なりわけは、TEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。

[初期値：疑似なりわけしない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ①、✳️を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑤ ①または⑤ ①を押します。
50：疑似なりわけしない
51：疑似なりわけする
正しく設定されると、「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

疑似なりわけは、短縮ダイヤルに登録されているすべての電話番号を鳴り分けま
す。

疑似なりわけは、通常の着信音より短い
サイクルで4回ずつ鳴り、通常の着信音
と区別されます。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わない
でください。

設定が終了したら、保存操作を行って
ください。(☞P124)

ベル周波数を設定するには

電話機のベルの周波数をTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。着信音の鳴り方がおかしいとき以外は、設定を変える必要はありません。

[初期値 : 16.7Hz]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ⑦① ~ ⑦③のいずれかを押します。
70 : 16.7Hz
71 : 20.0Hz
72 : 25.0Hz
73 : 33.3Hz
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (☞P64)

正しく設定されなかったときは (☞P84)

Webブラウザで設定するには (☞P125)

コマンドで設定するには (☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

発信者番号優先着信を設定するには

特定の相手からの電話をTEL1ポート、TEL2ポートのいずれかに強制的に着信させることができます。したがって、発信者番号優先着信を設定すると、着番号とTELポートに登録したダイヤルイン番号やサブアドレス、また機器種別が不一致でも着信します。また、識別着信の設定によらず着信します。

短縮ダイヤル00～09に電話番号を登録し、発信者番号優先着信を設定します。

短縮ダイヤルはTEL1ポート、TEL2ポートごとに設定できます。TEL1ポートとTEL2ポートで同じ番号を登録した場合は、TEL1ポートでの設定が優先されます。

[初期値：発信者番号優先着信しない]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑨ ⑩または⑨ ①を押します。
90：発信者番号優先着信しない
91：発信者番号優先着信する
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく設定されなかったときは(☞P84)

Webブラウザで設定するには(☞P125)

コマンドで設定するには(☞P131)

お知らせ

発信者番号優先着信と着信転送/コールバック/中継機能の登録が重なった場合は、発信者番号優先着信で着信後、着信転送/コールバック/中継を行います。発信者番号優先着信は、相手からの発信者番号通知が必要です。

お願い

通話・通信中のときは、設定を行わないでください。

設定が終了したら、保存操作を行ってください。(☞P124)

その他の機能を設定するには

本装置に接続されている電話機から以下を設定することもできます。

- ・ディスプレイのバックライト設定
- ・IPアドレス設定用暗証番号
- ・サブネットマスク設定

ディスプレイのバックライトを設定する

本装置のディスプレイのバックライトを点灯させるかどうかを設定できます。

[初期値：自動点灯]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩を押します。
「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。
- 3 ⑧①① ~ ⑧②のいずれかを押します。
80：常時点灯
81：常時消灯
82：自動点灯
正しく設定されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは (←P64)

正しく設定されなかったときは (←P84)

IPアドレス設定用暗証番号を設定する

電話機からIPアドレス、サブネットマスクを設定する場合の暗証番号を設定できます。暗証番号には、0～9の数字と、**＊**、**＃**が設定できます。

[初期値 : 暗証番号0000]

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 **＊**、**＃**、**⑧**を押します。
- 3 4桁の旧暗証番号（例：**①** **②** **③** **④**）を押します。
登録されていない場合は「0000」と押します。
- 4 4桁の新暗証番号（例：**⑤** **⑥** **⑦** **⑧**）を押します。
本装置のディスプレイに、旧暗証番号に続けて新暗証番号が表示されます。
IPアドレス、サブネットマスク設定用暗証番号が登録されます。
正しく設定されると「ツツツツ...」という音が聞こえ、ディスプレイに暗証番号が表示されます。

アンショウ ハンゴウ
5 6 7 8
- 5 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

IPアドレス、サブネットマスクを設定する

電話機からIPアドレス、サブネットマスクを設定できます。これらの設定をする場合は、先に暗証番号を登録しておいてください。

[初期値：未設定]

1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。

2 *、#、9を押します。

3 IPアドレス、サブネットマスク設定用暗証番号を押します。

IPアドレス入力モードになり、現在のIPアドレスが本装置のディスプレイに表示されます。

「ツウツウツウツウツウツウ」という音を確認してください。

(例) 現在のIPアドレスが「192.168.1.100」の場合

1 9 2 1 6 8 0 0 1 1 0 0

4 設定するIPアドレスを入力します。

例えばIPアドレスが「192.168.10.1」の場合は次のようにダイヤルボタンで押します。

「192#168#010#001」

入力したIPアドレスが本装置のディスプレイに表示されます。

1 9 2 1 6 8 0 0 1 1 0 0
1 9 2 1 6 8 0 1 0 0 0 1

ワンポイント

IPアドレス、サブネットマスクを間違えた場合は

ⓧを押します。入力中の3桁の数字がクリアされ、再入力できます。

IPアドレスだけを設定、更新する場合は手順5のあと、手順7に進みます。

サブネットマスクだけを設定、更新する場合は

手順3のあと、手順5に進みます。

設定をやり直すには

受話器を置き、もう一度はじめからやり直します。

現在のIPアドレス、サブネットマスクを確認するには

受話器を取りあげる

Ⓜ、ⓧ、Ⓜ、⑨とダイヤルボタンで押す

ディスプレイに現在の設定が約10秒間表示されます。

受話器を置く

お知らせ

暗証番号を間違えたり、3桁の数字に000～255以外の数字を入力した場合は、設定は無効になります。

手順8で②を押した場合は、設定は無効になります。

5 Ⓜを押します。

「ツツツツツ」という音が鳴り、IPアドレスが設定されます。続いてサブネットマスク入力モードになります。

現在のサブネットマスクが本装置のディスプレイに表示されます。

「ツー」という音を確認してください。

(例)現在のサブネットマスクが「255.255.255.0」の場合

2 5 5 2 5 5 2 5 5 0 0 0

6 設定するサブネットマスクを入力します。

例えばサブネットマスクが「255.255.255.248」の場合は次のようにダイヤルボタンで押します。

「255#255#255#248」

入力したサブネットマスクが本装置のディスプレイに表示されます。

2 5 5 2 5 5 2 5 0 0 0 0
2 5 5 2 5 5 2 5 5 2 4 8

7 Ⓜを押します。

「ツツツツツ」という音が鳴り、サブネットマスクが設定されます。

1, オンフック-OK
2 - CANCEL

8 ①を押すか、受話器を置きます。

設定したIPアドレス、サブネットマスクが更新されます。装置がリセットされます。

設定を保存するには

設定が終了したら、設定の保存を行ってください。
どのTELポートから保存操作を行っても、すべてのTELポートの設定内容が保存されます。

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ⑨、⑩、⑪を押します。
正しく保存されると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 3 受話器を置きます。

ワンポイント

ダイヤルを押し間違えたときは(☞P64)

正しく保存されなかったときは
保存操作を終えたあと、「ツツツツツ」という音が聞こえなかったときは、正しく保存されていません。この場合は、1回フッキングをして、手順2からやり直してください。フッキング代用機能をお使いのときは、受話器を置き、はじめからやり直してください。

コマンドで保存するには(☞P131)

お願い

通話・通信中のときは、保存を行わないでください。

設定操作後、設定の保存に約3秒間かかります。この間、通話・通信は行わないでください。

Webブラウザを利用した設定

アナログポートに接続されているアナログ通信機器の機能をWebブラウザから設定することができます。

電話機能を設定する

- 1 設定画面を起動し、本装置にログインします。
(☞P35)
- 2 設定するアナログ機能をクリックします。
 - ・基本設定 (☞P126)
 - ・応用設定 (☞P127)
 - ・着信転送設定 (☞P128)
 - ・コールバック、中継設定 (☞P129)
 - ・短縮ダイヤル登録 (☞P130)
- 3 設定が終わったら、[送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。

お知らせ

Webブラウザを利用した設定方法について、詳しくは『クイックスタートガイド』を参照してください。

基本設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の基本的な機能を設定します。電話の [基本設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

i・ナンバー

i・ナンバー契約時に取得された追加番号を入力します。

着信種別 (☞P96)

アナログポートの着信種別を選択します。「着信禁止」を選択すると、そのTELポートは発信専用になります。また、「通話中着信許可、追加呼出し許可、通話中追加呼出し許可」はTEL2ポートのみ選択できます。

優先着信 (☞P119)

特定の相手からの電話を優先的に着信させるとき「する」を選択します。

内線呼出ベル (☞P111)

内線からの電話と外からの電話を区別できるように、内線からの着信音を短いサイクルで鳴らすとき「短く鳴らす」を選択します。

識別着信 (☞P113)

特定の相手からの電話のみを着信させるとき、着信条件を選択します。

グローバルセレクト/ダイヤルイン (☞P100)

グローバル着信番号、ダイヤルイン番号でかかってきた電話のみを着信させるとき、着信条件を選択します。

ナンバー・ディスプレイ (☞P115)

TEL1ポートにナンバー・ディスプレイ対応アナログ通信機器を接続するとき、「ナンバー・ディスプレイ対応電話」を選択します。

ダイヤル完了タイム (☞P106)

ダイヤル完了後に (Ⓜ) ボタンが押されないとき、ダイヤルが完了したかどうかを認識するタイムを設定します。「 」を選択したときは、(Ⓜ) ボタンを押さないと発信しません。

ボリューム調整 (☞P107)

通話時の受話音量を選択します。

追加呼出し遅延 (☞P108)

TEL2ポートに接続されている電話機の着信音をTEL1ポートより遅らせて鳴らすとき、遅らせるベル回数を選択します。TEL2ポートのみ設定できます。

TEL1ポートの画面には表示されません。

応用設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の応用機能を設定します。電話の [応用設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

TEL1			
発信者番号通知 <input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> 契約による	機器種別 <input checked="" type="radio"/> 任意 <input type="radio"/> 電話 <input type="radio"/> FAX	フッキング <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 通話中発信のみ無効	フッキング代用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
切断音制御 <input type="radio"/> 利用しない <input checked="" type="radio"/> 利用する	疑似なりわけ <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	サブアドレス サブアドレスのチェックは行わない サブアドレス:	ベル周波数 16.7 Hz
FAX無鳴動 行わない			

3 アナログ通信 機器を使う

発信者番号通知 (☞P97)

発信するとき、発信者番号を相手の方に通知するかどうかを選択します。

機器種別 (☞P104)

TELポートの機器種別 (HLC) を選択します。

フッキング (☞P110)

フッキングを有効にするときは「有効」を選択します。

フッキング代用 (☞P110)

キャッチボタンなどが無い電話機で、**(Ⓜ)** ボタンを使ってフッキング機能を利用するときは「する」を選択します。

切断音制御 (☞P112)

切断音を流すかどうかを選択します。

疑似なりわけ (☞P117)

NTTのINSなりわけサービスを契約していなくても、短縮ダイヤルに登録されている電話番号からかかってきた電話を疑似的に鳴り分けるときは「する」を選択します。

サブアドレス (☞P102)

かかってきた電話を着信するかどうか、サブアドレスを利用して選択します。

FAX無鳴動 (☞P114)

着信音を鳴らさずにFAXを着信するかどうかを選択します。

ベル周波数 (☞P118)

電話機のベルの周波数を選択します。

着信転送設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の着信転送機能を設定します。電話の [着信転送設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

着信転送 (☞P86)

NTTのフレックスホンサービスの着信転送機能を利用するときは「する」を選択します。

着信転送先番号 (☞P86)

着信転送機能を利用するとき、転送先の電話番号を入力します。

追っかけ転送番号 (☞P94)

疑似フレックスホン機能を利用して代替転送(追っかけ転送)するとき、追っかけ転送先の電話番号を入力します。

転送トーカー (☞P90)

着信転送機能を利用するとき、転送トーカー・転送先トーカーを利用するかどうかを選択します。

フリー転送 (☞P93)

NTTのフレックスホンサービスを契約していなくても、外からの電話を転送するように設定するかどうかを選択します。

暗証番号 (☞P91)

着信転送機能を利用しているとき、リモート設定を行うための暗証番号を設定します。

転送開始までの呼出しベル回数 (☞P89)

着信転送機能、フリー転送を利用しているとき、転送開始するまでの着信音ベル回数を設定します。「即転送」を選択すると、着信音は鳴らずに転送します。

コールバック・中継設定

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器のコールバック機能、中継機能を設定します。電話の [コールバック・中継設定] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

電話のコールバック設定

ご注意：各設定項目にて入力する文字は半角で入力してください。

TEL1

コールバックモード
コールバックしない

中継モード
 中継しない
 中継する

コールバック番号登録(短縮登録20から39を兼用)

20:	<input type="text"/>	30:	<input type="text"/>
<small>(発信者番号通知がない時のコールバック先)</small>			
21:	<input type="text"/>	31:	<input type="text"/>
22:	<input type="text"/>	32:	<input type="text"/>
23:	<input type="text"/>	33:	<input type="text"/>
24:	<input type="text"/>	34:	<input type="text"/>
25:	<input type="text"/>	35:	<input type="text"/>
26:	<input type="text"/>	36:	<input type="text"/>
27:	<input type="text"/>	37:	<input type="text"/>
28:	<input type="text"/>	38:	<input type="text"/>
29:	<input type="text"/>	39:	<input type="text"/>

コールバックモード (☛P76)
コールバックモードを選択します。
中継モード (☛P78)
中継モードを選択します。

コールバック番号登録 (☛P76)
コールバックする電話番号、中継機能を利用する電話番号を入力します。

3
アナログ通信
機器を使う

短縮ダイヤル登録

TEL1ポート、TEL2ポートに接続されているアナログ通信機器の短縮ダイヤル番号を設定します。
電話の [短縮登録] をクリックすると表示される画面です。例はTEL1ポートの画面です。

電話の短縮登録

ご注意：各設定項目にて入力する文字は半角で入力してください。

TEL1

短縮番号登録 (短縮登録20から39はコールバックと兼用)

00: <input style="width: 80%;" type="text"/>	20: <input style="width: 80%;" type="text"/>
01: <input style="width: 80%;" type="text"/>	21: <input style="width: 80%;" type="text"/>
02: <input style="width: 80%;" type="text"/>	22: <input style="width: 80%;" type="text"/>
03: <input style="width: 80%;" type="text"/>	23: <input style="width: 80%;" type="text"/>
04: <input style="width: 80%;" type="text"/>	24: <input style="width: 80%;" type="text"/>
05: <input style="width: 80%;" type="text"/>	25: <input style="width: 80%;" type="text"/>
06: <input style="width: 80%;" type="text"/>	26: <input style="width: 80%;" type="text"/>
07: <input style="width: 80%;" type="text"/>	27: <input style="width: 80%;" type="text"/>
08: <input style="width: 80%;" type="text"/>	28: <input style="width: 80%;" type="text"/>
09: <input style="width: 80%;" type="text"/>	29: <input style="width: 80%;" type="text"/>
10: <input style="width: 80%;" type="text"/>	30: <input style="width: 80%;" type="text"/>
(発信者番号通知がない時のコールバック先)	
11: <input style="width: 80%;" type="text"/>	31: <input style="width: 80%;" type="text"/>
12: <input style="width: 80%;" type="text"/>	32: <input style="width: 80%;" type="text"/>
13: <input style="width: 80%;" type="text"/>	33: <input style="width: 80%;" type="text"/>
14: <input style="width: 80%;" type="text"/>	34: <input style="width: 80%;" type="text"/>
15: <input style="width: 80%;" type="text"/>	35: <input style="width: 80%;" type="text"/>
16: <input style="width: 80%;" type="text"/>	36: <input style="width: 80%;" type="text"/>
17: <input style="width: 80%;" type="text"/>	37: <input style="width: 80%;" type="text"/>
18: <input style="width: 80%;" type="text"/>	38: <input style="width: 80%;" type="text"/>
19: <input style="width: 80%;" type="text"/>	39: <input style="width: 80%;" type="text"/>

短縮番号登録 (☞P85)

短縮ダイヤルに登録する電話番号を市外局番から入力します。以下に登録された短縮ダイヤルは、その他の機能と兼用して利用されます。

短縮番号	電話番号を兼用する機能
00 ~ 09	発信者番号優先着信 (☞P119)
20 ~ 39	コールバック機能 (☞P76) 中継機能 (☞P78)

コマンドを利用した設定

アナログポートに接続されているアナログ通信機器の機能を、シリアルポートに接続されている端末から設定することができます。

アナログポートの設定をする

アナログ機能に関する設定方法について説明します。アナログ機能で設定できるのは次の機能です。

- 短縮ダイヤル登録
- 発信者番号通知
- 機器種別 (HLC)
- 追加呼出遅延
- 内線呼出ベル
- 着信種別
- 疑似なりわけ
- i・ナンバー
- コールバック / 中継
- グローバルセレクト / ダイヤルイン
- ダイヤル完了タイマ
- フッキング
- 切断音制御
- FAX無鳴動着信
- ベル周波数
- 着信転送
- サブアドレス
- ボリューム調整
- フッキング代用
- 識別着信
- INSナンバー・ディスプレイ
- 発信者番号優先着信

アナログポートの設定には以下の特徴があります。

- TEL1ポート、TEL2ポート別に設定する
- 設定された項目は即時有効となる
- 保存コード (9 * #) を入力しないと本装置に保存されないため、保存しないまま本装置がリセットされた場合は無効になる

TELポートの選択と復帰

- 1 設定するTELポート名を入力します。たとえばTEL1ポートを設定するときは「tel1」と入力します。

- 2 TELモードになり、コマンド入力待ち状態になります。

- 3 コマンド、パラメータを入力し、アナログポートの設定を行います。

(例) 短縮ダイヤル登録

- 4 設定内容を保存する場合は、「9 * #」と入力します。

次ページへ続く

5 復帰するときには、「exit」と入力します。

```
tel1# exit
```

6 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

コマンドの使い方

短縮ダイヤルの設定方法を例にコマンドの使い方を説明します。
コマンドは次のような形式になっています。

短縮ダイヤル登録

機能名	設定方法	説明
短縮ダイヤル登録	0* 短縮番号 電話番号 #	短縮番号 は「00」～「39」の範囲とする。 工場出荷時設定は未登録。

内には、設定する数値を入れます。 自体は入力しません。設定例は次のようになります。

短縮番号00に電話番号11112222を設定するときは、「0*0011112222#」と入力します。

tel1# 0*0011112222#

コマンド入力待ち状態になります。

tel1#

設定が終わったら、設定内容を保存します。(☛P41)

コマンド一覧

内には、設定する数値を入れます。 自体は入力しません。

短縮ダイヤル登録

機能名	設定方法	説明
短縮ダイヤル登録	0* 短縮番号 電話番号 #	短縮番号 は「00」～「39」の範囲とする。 工場出荷時設定は未登録。

コールバック / 中継

機能名	設定方法	説明
コールバックしない	1*0	工場出荷時設定
相手番号が登録されている場合のみ、コールバックする	1*1	
相手番号が登録されている、または、発信者番号通知のない場合もコールバックする	1*2	
中継しない	1*30	工場出荷時設定
任意の電話番号を中継する	1*31	

INSナンバー・ディスプレイ

機能名	設定方法	説明
ナンバー・ディスプレイを使わない	1*60	工場出荷時設定
ナンバー・ディスプレイを使う (モード1)	1*61	
ナンバー・ディスプレイを使う (モード2)	1*62	

コマンドを利用した設定

疑似なりわけ

機能名	設定方法	説明
疑似なりわけしない	1 * 50	工場出荷時設定
疑似なりわけする	1 * 51	

着信転送

機能名	設定方法	説明
着信転送しない	2 * 0	工場出荷時設定
着信転送する	2 * 1	
着信転送先番号	2 * 2 転送先電話番号 #	工場出荷時は未登録
呼出ベル回数	2 * 3 呼出ベル回数	呼出ベル回数は「0」～「9」の範囲とする。 「0」が工場出荷時設定。
転送トーキなし・転送元トーキなし	2 * 41	工場出荷時設定
転送トーキあり・転送元トーキなし	2 * 42	
転送トーキなし・転送元トーキあり	2 * 43	
転送トーキあり・転送元トーキあり	2 * 44	
着信転送設定用暗証番号	2 * 5 設定用暗証番号	設定用暗証番号、解除用暗証番号はいずれも「0000」～「9999」の範囲とする。 工場出荷時は未登録
着信転送解除用暗証番号	2 * 6 解除用暗証番号	
フリー転送禁止	2 * 70	
フリー転送許可1 転送失敗時、 発信者に話中音を通知する	2 * 71	工場出荷時設定
フリー転送許可2 転送失敗時、 発信者にアナウンスを通知する (通話料がかかります)	2 * 72	
フリー転送代替着信 本装置が最初に着信したTELポートに接続されている電話機を呼び出す	2 * 73	
追っかけ転送先番号	2 * 8 追っかけ転送先電話番号 #	工場出荷時は未登録

着信種別

機能名	設定方法	説明
着信禁止	3 * 0	
着信許可	3 * 1	
通信中着信許可	3 * 2	
追加呼出許可	3 * 3	工場出荷時設定
通信中着信許可、追加呼出許可	3 * 4	
通信中着信許可、追加呼出許可、 通話中追加呼出許可	3 * 5	
i・ナンバーの追加番号登録	3 * 8 追加番号 #	追加番号は市外局番なしとする。
i・ナンバーの追加番号登録	3 * 9 追加番号 #	i・ナンバー3番号を契約の場合に設定する。 追加番号は市外局番なしとする。

発信者番号通知

機能名	設定方法	説明
しない	4 * 0	
する	4 * 1	
NTTとの契約内容に従う	4 * 2	工場出荷時設定

発信者番号自局アドレス登録

機能名	設定方法	説明
自局アドレスを登録する	4 * 9 < 自局アドレス > #	
自局アドレスを解除する	4 * 9 #	工場出荷時設定

グローバルセレクト / ダイヤルイン / i・ナンバー

機能名	設定方法	説明
ダイヤルイン番号または追加番号のみ着信する	5 * * ダイヤルイン番号 (ダイヤルインの場合) # 5 * * 追加番号 (i・ナンバーの場合) #	
ダイヤルイン番号または追加番号、契約者回線番号で着信する	5 * ダイヤルイン番号 (ダイヤルインの場合) # 5 * 追加番号 (i・ナンバーの場合) #	
契約者回線番号のみ着信する	5 * * #	
番号のチェックをしない	5 * #	工場出荷時設定

サブアドレス

機能名	設定方法	説明
サブアドレスのみ着信する	6 * * サブアドレス #	
サブアドレスありとサブアドレスなしを着信する	6 * サブアドレス #	
サブアドレスなしのみ着信する	6 * * #	
サブアドレスのチェックをしない	6 * #	工場出荷時設定

機器種別 (HLC)

機能名	設定方法	説明
任意	7 * 1	工場出荷時設定
電話	7 * 2	
FAX	7 * 3	

ダイヤル完了タイマ

機能名	設定方法	説明
ダイヤル完了タイマ	8 * ダイヤル完了タイマ	ダイヤル完了タイマ は「0」～「9」の範囲とする。「4」が工場出荷時設定。

その他

機能名	設定方法	説明
ボリューム調整	小	9 * 00
	大	9 * 01
追加呼出遅延 (ベル回数)	9 * 1 ベル回数	ベル回数 は「0」～「9」の範囲とする。「0」が工場出荷時設定。
時刻の登録	9 * 83	yymmddhhmm (年月日時分)
フッキング	無効	9 * 20
	有効	9 * 21
	通信中発信のみ無効	9 * 22

次ページへ続く

コマンドを利用した設定

その他（つづき）

機能名		設定方法	説明
フッキング 代用	代用しない	9 * * 0	工場出荷時設定
	代用する	9 * * 1	
オフフック 発信	しない	9 * * 2	
	する	9 * * 3	
内線呼出 ベル	外線呼出ベルと同じ	9 * 30	工場出荷時設定
	短いサイクル	9 * 31	
切断音制御	無音	9 * 40	
	切断音	9 * 41	工場出荷時設定
識別着信	しない	9 * 50	工場出荷時設定
	短縮ダイヤルに登録されている電話番号のみ着信(識別着信)	9 * 51	
	識別着信とINSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 52	
	発信者番号が通知されている電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 53	
	識別着信、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信	9 * 54	
	発信者番号が通知されている電話、INSなりわけサービスに登録されている電話番号、公衆電話からの電話のみ着信	9 * 55	
	匿名以外の電話と、INSなりわけサービスに登録されている電話番号のみ着信	9 * 56	
FAX無鳴動 着信	禁止	9 * 60	工場出荷時設定
	着信時のHLCがFAXのときのみ許可	9 * 61	
	許可	9 * 62	
	契約者回線番号から着信したときのみ許可	9 * 63	
	ダイヤルイン番号から着信したときのみ許可	9 * 64	
ベル周波数	16.7Hz	9 * 70	工場出荷時設定
	20.0Hz	9 * 71	
	25.0Hz	9 * 72	
	33.3Hz	9 * 73	
発信者番号 優先着信	しない	9 * 90	工場出荷時設定
	する	9 * 91	
アナログ機能設定の保存		9 * #	モードにかかわらず両ポートの内容を保存する。
前回の通話料金		# * * 0	
電話料金の累計		# * * 1	
フレックスホンの契約内容表示		# # *	
フリー転送履歴件数		# # #	

その他のアナログ機能を設定・表示するには

アナログポートに接続されているアナログ通信機器や、シリアルポートに接続されている端末から、その他のアナログ機器を設定したり、設定内容を確認することができます。

フレックスホン契約状況を表示する (lineis コマンド)

フレックスホンの契約状況を表示する方法を説明します。フレックスホンの契約状況には次の項目があります。

契約状況	表示
無契約	no contract
着信転送	call deflection
三者通話	three-party service
コールウェイティング	call waiting
通信中転送	call transfer

1 「lineis」と入力します。

```
#lineis
```

2 結果が表示されます。

フレックスホン契約状況のほか、LANやWAN回線の状態も表示されます。

```
<LAN>
interface: ISO8802 - 3
<HSD>
speed: 0 (Kbps)
operationStatus: clear          layer 1  Status: other
.
.
.
<Flexphone>
call deflection, three-party service, call waiting, call transfer
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

最新のフレックスホン契約状況を表示するには、本装置を再起動するか、ISDN回線 (LINE Uポート) からいったん電話機コードを外し、差し込み直してから、コマンドを実行してください。

課金情報を表示 / クリアする (charge コマンド)

アナログポートの最新課金情報と累積課金情報の表示またはクリアについて説明します。表示はTEL1ポート、TEL2ポートごとに表示できます。ISDN1、ISDN2チャンネルの課金情報もともに表示されます。

課金情報を表示する

< コマンド操作 >

1 「charge」と入力します。

```
#charge
```

2 結果が表示されます。

```
ISDN 1 routing total charge(yen): 1560
ISDN 2 routing total charge(yen): 500
TEL1 charge(yen): 30 total charge(yen): 1500
TEL2 charge(yen): 0 total charge(yen): 0
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

課金情報をクリアする

< コマンド操作 >

1 「charge -c」と入力します。

課金情報がクリアされます。

```
#charge -c
```

2 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

最新課金とは直前に使った通話にかかった課金です。

料金は目安ですので、請求書の額と一致しないことがあります。表示される料金の1円未満は切り捨てられます。

< 電話機での操作 >

- 1 受話器を取りあげます。
「ツー」という発信音が聞こえます。
- 2 ②、③を押します。
「ツツツツツツツツツツ」という音が聞こえます。
- 3 ④、④、④と押します。
クリアされると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。
- 4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

コールバック課金情報を表示 / クリアする (charge callback コマンド)

コールバックして接続したときの課金金額を、短縮番号ごとに累計しています。課金情報を表示またはクリアする方法を説明します。

コールバック課金情報を表示する

1 「charge callback」と入力します。

```
# charge callback
```

2 結果が表示されます。

```
TEL1 callback charge (yen)
(20):  2000      (30):    0
(21):  1840      (31):    0
(22):    10      (32):    0
(23):   390      (33):    0
(24):    0       (34):    0
(25):   680      (35):    0
(26):   800      (36):    0
(27):    0       (37):    0
(28):    0       (38):    0
(29):    0       (39):    0
TEL2 callback charge (yen)
(20):  2000      (30):    0
(21):  1840      (31):    0
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

コールバック課金情報をクリアする

< コマンド操作 >

1 「charge -c callback」と入力します。

課金情報がクリアされます。

charge -c callback

2 コマンド入力待ち状態になります。

#

< 電話機での操作 >

1 受話器を取りあげます。

「ツー」という発信音が聞こえます。

2 ②、③を押します。

「ツウツウツウツウツウ」という音が聞こえます。

3 ④、< 情報をクリアする短縮番号 > と押します。

クリアされると「ツツツツツ」という音のあとに、「ツー」という音が聞こえます。

4 受話器を置きます。

3
アナログ通信
機器を使う

回線割り当てを設定する (rbodコマンド)

R-BOD (Resource Bandwidth On Demand) を設定する方法について説明します。
ISDN回線に2本あるBチャンネルを、ルーティング機能とアナログ機能でどのように使い分けるのかを設定します。
お買い求め時の設定は、空いているISDN回線はアナログとルーティングの両方の要求に応じるようになって
います。ここでは、2チャンネルのうち、1チャンネルをルーティング専用に確保する方法について説明します。
このコマンドはコンフィグレーションモードで使います。

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(☞P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

- 2 1Bチャンネルをルーティング専用に確保する
ときは、「rbod routing=fix」と入力します。

```
conf# rbod routing=fix
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
conf#
```

- 4 本装置をリセットします。(☞P41)

ワンポイント

R-BODとは
2本のBチャンネルを使用して(MP)データの中継を行っているときに、電話の発信/着信があった場合、1本のBチャンネルを電話用に割り当てる機能です。

お知らせ

rbodコマンドには下記の機能があります。詳しくはコマンドリファレンスを参照してください。

指定方法

```
rbod [[routing={fix | normal}] [called={on | off}] [calling={on | off}]]
```

機能

オプション	機能
routing=fix	2Bチャンネルある回線のうち、1Bチャンネルを確実にルーティング用に確保し、アナログには割り当てない。
routing=normal	空いているISDN回線はアナログ/ルーティング要求に応じて使用できる。 (工場出荷時の値)
called=on	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ着信に対して1Bチャンネルを譲る。(工場出荷時設定)
called=off	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ着信に対して1Bチャンネルを譲らない。
calling=on	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ発信に対して1Bチャンネルを譲る。(工場出荷時設定)
calling=off	MPで2Bチャンネル使用中にアナログ発信に対して1Bチャンネルを譲らない。

BACPを設定する (bacpコマンド)

このコマンドはコンフィグレーションモードで使います。

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 BACPの実施を止めるときは、「bacp off」と入力します。

```
conf# bacp off
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
conf#
```

- 4 本装置をリセットします。(←P41)

ワンポイント

BACPとは
R-BOD機能を利用するための手順です。

お知らせ

BACPには下記の機能があります。詳しくはコマンドリファレンスを参照してください。

指定方法

```
bacp [[off|on][protocol={new|old}]  
[learning={on|off}]]
```

機能

オプション	機能
off	BACPを実施しません。
on	BACPを実施します。 (工場出荷時設定) newまたはoldを指定できます。
new	新版のプロトコルID (BACP:C02B、BAP:C02D) を使用する。 (工場出荷時設定)
old	旧版のプロトコルID (BACP:8071、BAP:0071) を使用する。

3
アナログ通信
機器を使う

TELポートごとにアナログ機能の設定を表示する (showコマンド、displayコマンド)

TEL1ポート、TEL2ポートごとにアナログ機能の設定内容を表示する方法について説明します。アナログ機能の設定内容を表示する方法には、showコマンドを使う方法とdisplayコマンドを使う方法の2つがあります。

show	現在有効なアナログ機能の設定項目
display	本装置に保存されているアナログ機能の設定項目

表示するポートは、プロンプトの切り替えにより変更します。

表示する内容	プロンプト
TEL1ポートの内容を表示する	tel1 #
TEL2ポートの内容を表示する	tel2 #

プロンプトの切り替えは、「モードの移行」(P40)を参照してください。

どちらのコマンドも使い方は同じです。ここではshowコマンドを例に説明します。

- 1 TEL1ポートの設定内容を表示するときは、tel1プロンプトで「show」と入力します。

```
tel1#show
```

- 2 現在有効なTEL1ポートの短縮ダイヤルとアナログ設定項目が表示されます。

```
tel1 # show
1 *      0
1 * 3    0
2 *      0
2 * 2    #
2 * 3    0
2 * 4    1
2 * 5
2 * 6

(17):12345678901234567890
(18):12345678901234567890
(19):12345678901234567890
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
tel1#
```

設定情報

本装置をインターネットサービスプロバイダ等のコンピュータネットワーク接続サービス業者経由でインターネットに接続したり、本装置またはその他のルータ装置と接続してイントラネットを構築するためには、最初に設定情報と呼ばれる各種パラメータを本装置に設定します。

設定情報の設定には次の2つの方法があります。

- Webブラウザを使用した設定
- コマンドを使用した設定

いずれの場合も、本装置の使用目的に沿った設定項目を整理してから実際の設定作業を行ってください。Netscape Navigator、Internet ExplorerなどのWebブラウザが動作すれば、設定に使用する端末のOSは問いません。



設定情報を設定するための接続

設定情報を本装置に設定するための端末と本装置の接続には、2つの接続方法があります。

設定方法	接続方法
Webブラウザ	10BASE-Tポート経由の接続
コマンド	10BASE-Tポート経由の接続 (telnet)
	シリアルポート経由の接続

いろいろな利用ケース

この節では、お客様が運用する多くのシステム形態のうち、基本的な例にしたがって設定項目をまとめています。まとめた内容を具体的に設定する方法は、「具体的な設定方法(☛P148)」を参照してください。

次の12ケースについて説明しています。

- 設定A インターネットダイヤルアップ端末型接続
- 設定B ダイヤルアップ対向1対1接続 (WAN Unnumbered)
- 設定C ダイヤルアップ複数相手接続 (WAN Numbered)
- 設定D ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続 (WAN Numbered)
- 設定E インターネット・複数イントラネット同時接続
- 設定F PIAFS/TA接続 (アクセスサーバ)
- 設定G インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT on>
- 設定H インターネット専用線接続 (OCNエコノミーなど) <NAT off>
- 設定I 専用線対向接続 (WAN Unnumbered)
- 設定J 専用線対向接続 (WAN Numbered)
- 設定K フレームリレー接続 (WAN Unnumbered、InverseARP使用、スタティックルート)
- 設定L モデム接続

お知らせ

本装置は、初期導入の場合でもWAN回線から設定を行えるように、接続相手を制限しない(全ての相手からの着信を許可する)設定になっています。

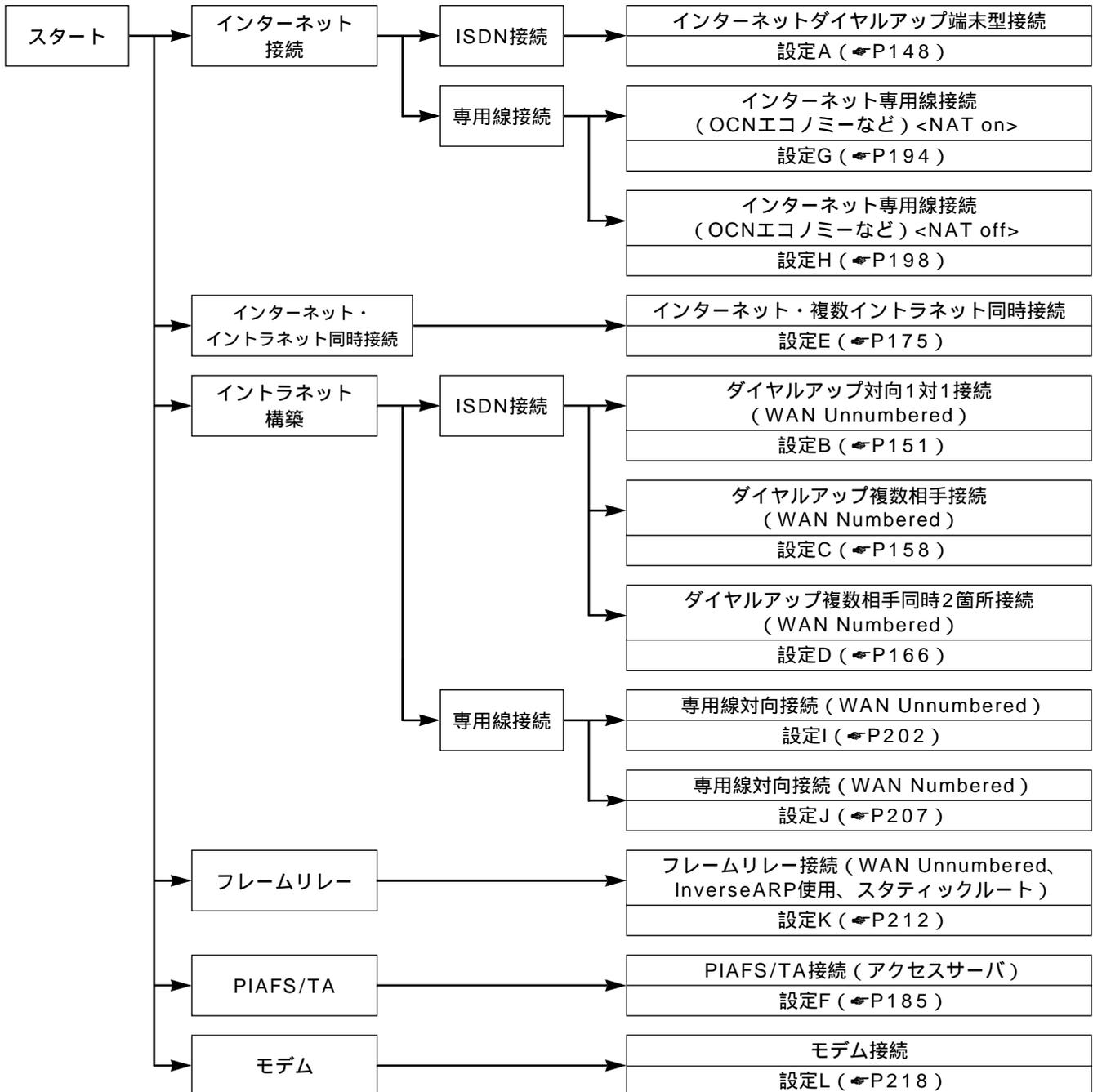
接続相手を制限するには、コマンドより「`isdn dialcheck=on`」(コンフィグレーションモード)と設定します。コマンドの使い方については、P40を参照してください。

Webブラウザを使用して設定する場合は、自動で接続相手を制限する設定になります。

各設定で使用している設定値は一例です。実際に設定する場合は、お客様のネットワーク環境に合わせた値を設定してください。

利用ケースの切り分け

お客様のご使用目的ごとに利用ケースを切り分けています。次のチャートに従ってご確認ください。具体的な設定項目は、P148～222を参照してください。



4
使
ル
タ
機
能
を

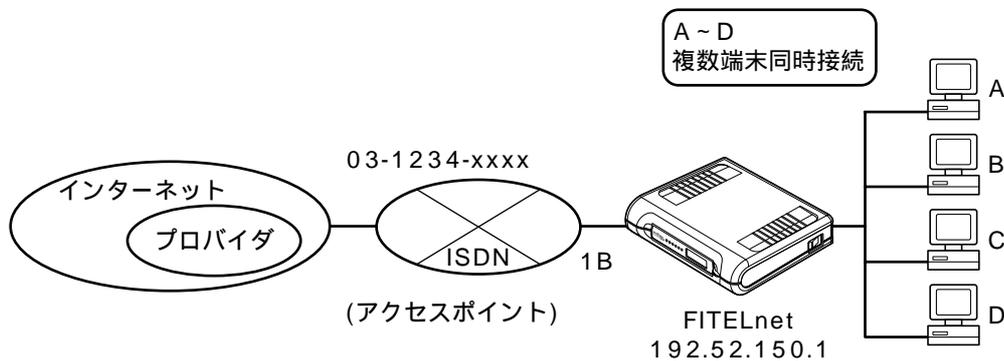
設定A

インターネットダイヤルアップ端末型接続

プロバイダとISDNダイヤルアップ端末型の契約をしているときやOCNダイヤルアクセスサービスを利用するときの設定について説明します。

ここでは、NAT⁺機能を使い、ダイヤルアップ端末型で複数台の端末を同時にインターネット接続する方法を例にしています。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	ISDNダイヤルアップ接続の登録変更	アクセスポイント	03-1234-xxxx
		認証(接続)ID	marry
		認証(接続)パスワード	xyz-123
		プライマリDNSアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx
		セカンダリDNSアドレス	yyy.yyy.yyy.yyy

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [ISDNダイヤルアップ接続] をクリックします。
- 3 ISDN回線の設定をします。

プロバイダにISDN接続するとき使用するアクセスポイント、認証（接続）ID、認証（接続）パスワード、DNSのアドレスを下記のように入力します。

ISDNダイヤルアップ接続の登録変更

アクセスポイント:

認証(接続)ID: (最大127文字まで)

認証(接続)パスワード: (最大32文字まで)

プライマリDNSアドレス:

セカンダリDNSアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

トラフィックを分散（MP）するときは、「ISDN回線の接続について」を参照してください。（☞P223）

- 4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

[リセット] 画面が表示されます。

- 5 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。

ユーザIDとパスワードを入力してください。（☞P36）

ISDNインターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT+機能がON、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

4
使
ル
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(☞P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

- 2 認証アカウント、認証パスワードの設定
(hostnameコマンド)

「認証アカウント (marry)」、「認証パスワード (xyz-123)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1] は、設定項目を1エンタリー目へ登録することを意味します。この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=marry password=xyz - 123 nameserver
= xxx.xxx.xxx.xxx,yyy.yyy.yyy.yyy
```

- 3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定(targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」、「接続相手のISDN番号 (031234xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

[host=default] は、先に登録した「認証アカウント (marry)」を「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」と結び付けます。

```
conf#target add name=dialup-easysetting dial=031234xxxx host=default
```

トラフィック分散する場合は、「接続相手のターゲット名称 (dialup-easysetting)」に [ls] を付加した内容のエンタリーの入力も必要です。

```
conf#target add name=dialup-easysettingls dial=031234xxxx host=default
```

- 4 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=isdn1
```

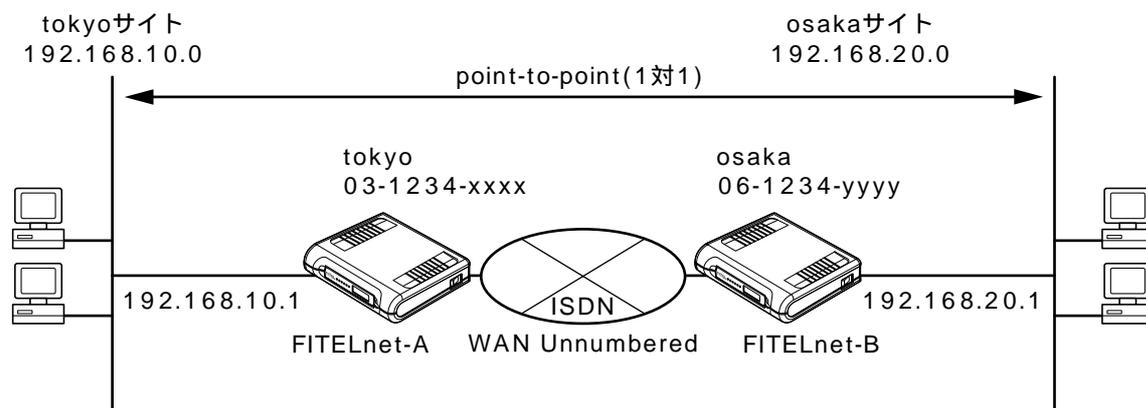
- 5 設定を保存します。(☞P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

設定B

ダイヤルアップ対向1対1接続

2台の本装置をISDN回線を使って1対1 (point-to-point) に接続するときの設定について説明します。2台の本装置の設定が必要になります。ここではFITELnet-Aの設定を例にします。相手認証には、ISDN発信者番号通知を使用しています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時1箇所接続	
		接続方法	自動接続	
		自局電話番号	03-1234-xxxx	
		自局サブアドレス	なし	
		着信時の発信者番号チェック	する	
		着信時のPPP認証	しない	
	ISDN回線接続先の登録	相手の電話番号	06-1234-yyyy	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
マスク長			24 (255.255.255.0)	
中継先の指定		IPアドレス	192.168.20.1	
		メトリック	2	
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	インタフェースタイプ	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.20.1
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0

4
使
ル
タ
機
能
を

具体的な設定方法

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 ISDN回線の設定をします。

[現在の形態：同時1箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。トラフィック分散する場合は、[自動MP接続] をクリックします。接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時1箇所接続

他の形態: 自動MP接続・強制MP接続・同時2箇所接続

接続方法: 手動接続 自動接続

自局電話番号: 031234xxxx

自局サブアドレス:

契約番号での着信: する しない

発呼接続時の無通信時間: 00 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

着呼接続時の無通信時間: 00 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

データ受信は無通信とするか: する しない

着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない

着信時、相手をPPP認証: する しない

発呼時、相手をPPP認証: する しない

装置連続接続リミッターは、 利用しない 12 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] ボタンをクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [ダイアルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

5 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. ISDN1xxxx	
2.	
3.	

next_extensionsとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]
ダイヤルアップ接続時の接続ゾーンは [] 番目の内容を使用する
相手認証用のID: osaka
パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手側に設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手側でその内容を設定してください。

新規

登録電話番号を [] 前飛ばして番号チェックする
接続接続状態の監視: しない する(連続500 分まで接続可能)
PAPFS接続: しない する(32k) する(64k:ギガビット方式) する(64k:ハネエポート方式)

注: 1. ISDN1はISDN1-2000番台はISDN1-2000番台のISDN1-2000番台です。
2. ISDN1-2000番台はISDN1-2000番台のISDN1-2000番台です。
3. next_extensionsとして接続する時の接続インタフェースにIDを入力した時は、PAPFS接続の監視はしなくなります。

コールバック
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

6 ルータの便利な設定から [NAT機能] をクリックします。

7 NAT機能をOFFにします。

NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT+ON

以降はNAT又はNAT+機能がONの时有効となります。

NAT又はNAT+機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT+スタティック登録](#)

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

8 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

次ページへ続く

4
使う
ルータ
機能
を

具体的な設定方法

9 ルート情報を設定します。

宛先アドレス・宛先サブネットマスクなどを下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

優先度	通信先指定	中継先指定	ホップ	プライオリティ
1	IPアドレスとマスク 192.168.20.0 / 24	<input type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.20.1 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1 <input type="radio"/> インタフェース指定 ISDN1	2	60

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

10 ルータの [詳細設定] をクリックします。

11 [インタフェースの設定] をクリックします。

12 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス: 192.168.10.1
 インタフェースサブネットマスク: 255.255.255.0

13 WAN#1を設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

WAN#1 インタフェース:

ISDN1 回線(含むMF接続)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。
 フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行って下さい。

ダウン

ブロードキャスト
 インタフェースアドレス: [][][][]
 インタフェースサブネットマスク: [][][][]

ポイントツーポイント
 インタフェースアドレス: [][][][]
 相手インタフェースアドレス: 192.168.20.1
 相手インタフェースサブネットマスク: 255.255.255.0

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

14 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

15 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bにも同様の設定を行ってください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。
(P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan isdn」を入力します。

この入力により「トラフィック分散 (しない)」も設定されます。
トラフィック分散する場合は、「wan lse」と入力します。

```
conf#wan isdn
```

3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号、着信認証方法、パスワードの設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka)」、 「接続相手のISDN番号 (061234yyyy)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy
```

4
ルータ機能
を使う

次ページへ続く

4 自局のISDN番号、サブアドレスの設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、「自局のサブアドレス (なし)」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

[target=osaka] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (osaka)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn multimode=on dialcheck=on - 1 dial=031234xxxx target=osaka
```

トラフィック分散する場合は、B2回線の設定も行います。

```
conf#isdn - 2 dial=031234xxxx
```

5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線の接続先IPアドレス、ネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN回線インタフェースの「接続先IPアドレス (192.168.20.1)」、「接続先ネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 remote=192.168.20.1, 255.255.255.0
```

7 ルート情報の設定 (ipripstatic コマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf# ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.20.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、NextHop : 192.168.20.1))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.20.0, 255.255.255.0  
nextHop=192.168.20.1
```

8 アドレス変換の設定 (nat コマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)} 機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

9 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

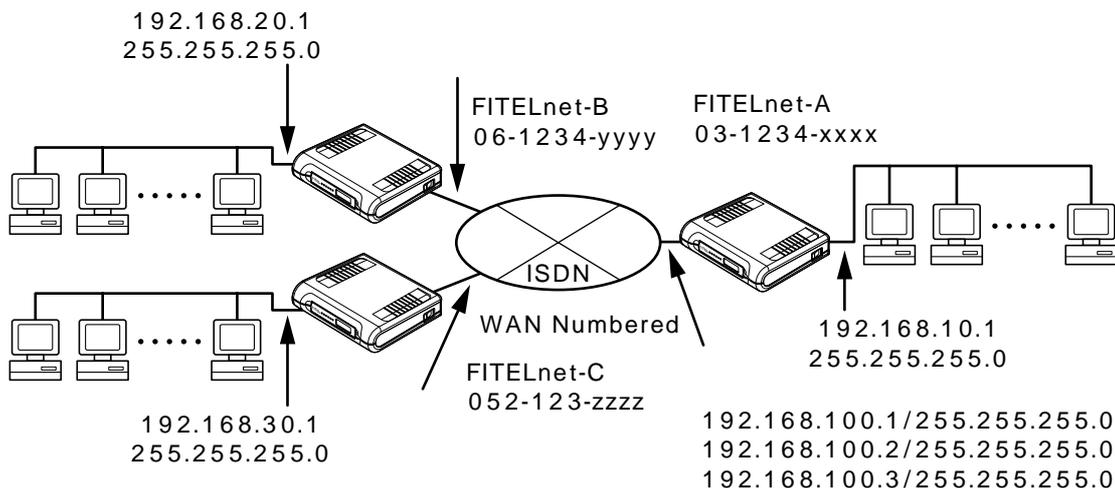
FITELnet-Bも同様の設定を行ってください。

4
ルータ機能
を使う

設定C

ダイヤルアップ複数相手接続

接続相手を複数登録し、データの宛先により自動的に接続相手を選んで接続する設定について説明します。接続相手は20箇所まで登録することができます。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時1箇所接続
		接続方法	自動接続
		自局電話番号	03-1234-xxxx
		自局サブアドレス	なし
		着信時の発信者番号チェック	する
		着信時のPPP認証	しない
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-1234-yyyy
		相手のサブアドレス	なし
		相手認証用のID	osaka
		next gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0
	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	052-123-zzzz
		相手のサブアドレス	なし
		相手認証用のID	nagoya
		next gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1
登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする		0	

次ページへ続く

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.2
			接続相手の指定	osaka
			メトリック	2
	IP RIPスタティック (2件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3
			接続相手の指定	nagoya
			メトリック	2
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタ フェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネット マスク	255.255.255.0
		WAN#1イン タフェース	インタフェースタイプ	ブロードキャスト
			インタフェースアドレス	192.168.100.1
			インタフェースサブネット マスク	255.255.255.0

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 ISDN回線を設定します。
[現在の形態：同時1箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。
トラフィック分散する場合は、[自動MP接続] をクリックします。
接続方法、自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時1箇所接続

他の形態: 自動MP接続・強制MF接続・同時2箇所接続

接続方法: 手動接続 自動接続

自局電話番号:

自局サブアドレス:

契約番号での着信: する しない

発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)

データ受信は無通信とするか: する しない

着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない

着信時、相手をPPP認証: する しない

発呼時、相手をPPP認証: する しない

装置連続接続リミッターは、 利用しない 12時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネル/パケット接続と共通項目のため、Dチャネル/パケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [ダイアルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

5 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順4～5を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 051234yyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID: josaka

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手も区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続000分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:キャンティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

注意: NTT DoCoMo F46の64kデータ通信はキャンティ方式PIAFS 2.0準拠です。DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式PIAFS 2.1準拠です。next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(DCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

コールバック:
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 05123zzzz	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [] 番目の内容を使用する

相手認証用のID: naeoya

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手も区別できる内容を設定して下さい。

新規

登録電話番号を [] 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続000分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:キャンティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

注意: NTT DoCoMo F46の64kデータ通信はキャンティ方式PIAFS 2.0準拠です。DDI POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式PIAFS 2.1準拠です。next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(DCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりとなります。

コールバック:
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

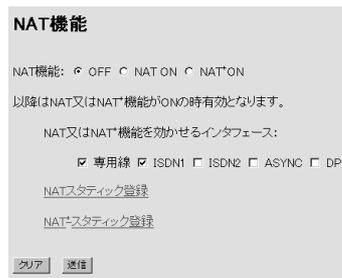
設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

6 ルータの便利な設定から [NAT機能] をクリックします。

次ページへ続く

具体的な設定方法

7 NAT機能をOFFにします。



NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT+ ON

以降はNAT又はNAT+機能がONの時有効となります。

NAT又はNAT+機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT+スタティック登録](#)

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

8 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

9 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス、宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています。



種別	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク 192.168.20.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.2 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1	2	50
2	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク 192.168.20.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.100.2 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 ISDN1	2	50

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

10 ルータの [詳細設定] をクリックします。

11 [インタフェースの設定] をクリックします。

12 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

13 WAN#1を設定します。

[ブロードキャスト]をクリックし、IPアドレス、サブネットマスクパターンを下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含FAX機能)、高速デジタル専用線、フレッツリレーの内、いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。
フレッツリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

⌵ ダウン

Ⓐ ブロードキャスト

インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

Ⓑ ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

14 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

15 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cにも同様の設定を行ってください。

4
使
ル
う
ル
ー
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan isdn」を入力します。

```
conf#wan isdn
```

3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka、nagoya)」、 「接続相手のISDN番号 (06-1234-yyyy、052-123-zzzz)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy  
conf#target add name=nagoya dial=052123zzzz
```

4 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、 「自局のサブアドレス (なし)」、 「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

[target=osaka] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (osaka)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn multimode=on - 1 dial=031234xxxx target=osaka
```

5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線インタフェースの複数相手接続の設定 (interfaceコマンド)

ISDN回線インタフェースの「複数相手接続を使用する (IPアドレス: 192.168.100.1、ネットマスク: 255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

7 接続相手の設定 (iptargetコマンド)

「接続相手の設定 (192.168.100.2、192.168.100.3)」を「iptarget」コマンドで入力します。
入力はターゲット名称ごとに行います。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka  
conf# iptarget add addr=192.168.100.3 name=nagoya
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf# ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス: 192.168.20.0、宛先サブネットマスク: 255.255.255.0、Nexthop: 192.168.100.2))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0  
nexthop=192.168.100.2
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf# ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop  
=192.168.100.3
```

9 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{plus}機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

10 設定を保存します。(P41)

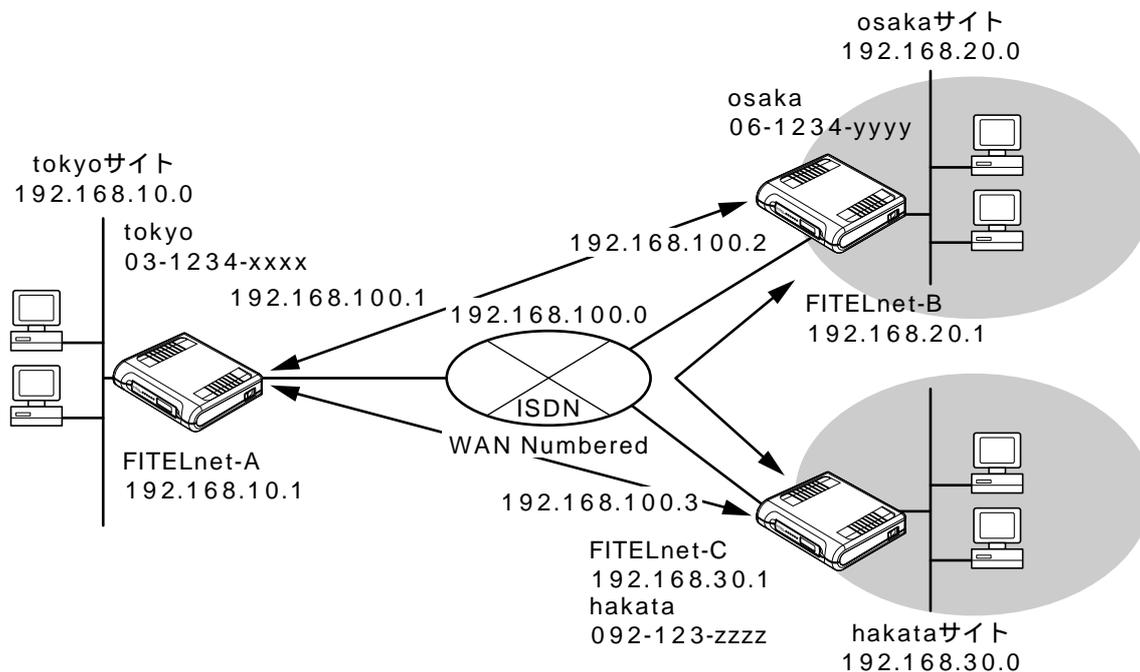
```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様の設定を行ってください。

設定D

ダイヤルアップ複数相手同時2箇所接続

接続相手を複数登録し、同時に2箇所と接続する設定について説明します。接続相手は20箇所まで登録することができます。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時2箇所接続	
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
	B1、B2共通	着信時の発信者番号チェック	する	
		着信時のPPP認証	しない	
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-1234-yyyy	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	092-123-zzzz	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	hakata	
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース	ISDN#1	
		登録電話番号を桁飛ばして着番号チェックする	0	
	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
中継先の指定		IPアドレス	192.168.100.2	
		接続相手の指定	osaka	
		メトリック	2	
		プリファレンス	50	
IP RIPスタティック (2件目の例)		通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
	マスク長		24 (255.255.255.0)	
	中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3	
		接続相手の指定	hakata	
		メトリック	2	
		プリファレンス	50	
	詳細設定	インタフェースの設定	インタフェースアドレス	192.168.10.1
インタフェースサブネットマスク			255.255.255.0	
WAN#1インタフェース			ブロードキャスト	
インタフェースアドレス			192.168.100.1	
インタフェースサブネットマスク			255.255.255.0	

具体的な設定方法

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックします。
- 4 ISDN回線を設定します。

B1・B2回線別に、接続方法、自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
 着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック: する しない
 着信時、相手をPPP認証: する しない
 発呼時、相手をPPP認証: する しない
 装置連続接続リミッター (は、 利用しない 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネル/バケット接続と共通項目のため、Dチャネル/バケット接続時にも影響を及ぼします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

5 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

6 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順5～6を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 061234yyyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [1] 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

ご注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定してください。

新規

登録電話番号を [0] 桁飛ばして着番号チェックする

接続接続状態の監視: しない する (連続600 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k:ギランティ方式) する (64k:ベストエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PH6の64kデータ通信はギランティ方式(PIAFS 2.0 準拠)です。
DOJ POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式(PIAFS 2.1 準拠)です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースはIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりになります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 092123zzzzz	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN]

ダイヤルアップ接続時の認証データは [1] 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

ご注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定してください。

新規

登録電話番号を [0] 桁飛ばして着番号チェックする

接続接続状態の監視: しない する (連続600 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k:ギランティ方式) する (64k:ベストエフォート方式)

※メモ
NTT Docomo PH6の64kデータ通信はギランティ方式(PIAFS 2.0 準拠)です。
DOJ POCKETの64kデータ通信サービス(e-DAT A64)はベストエフォート方式(PIAFS 2.1 準拠)です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースはIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしなくなりになります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

7 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

次ページへ続く

4
使う
ルータ機能を

具体的な設定方法

8 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス、宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています。

IP RIP スタティックの登録

種別	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク <input type="checkbox"/> 192.168.20.0 / 24	G IPアドレス指定 192.168.100.2 国庫がISDN等のダイヤルアップ回線時は、その接続先を指定して下さい: osaka C ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい: ISDN1 C インタフェース指定 ISDN1	<input type="checkbox"/>	50
2	<input type="checkbox"/> 192.168.30.0 / 24	G IPアドレス指定 192.168.100.3 国庫がISDN等のダイヤルアップ回線時は、その接続先を指定して下さい: hakata C ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい: ISDN1 C インタフェース指定 ISDN1	<input type="checkbox"/>	50

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

9 ルータの [詳細設定] をクリックします。

10 [インタフェースの設定] をクリックします。

11 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス: 192.168.10.1
 インタフェースサブネットマスク: 255.255.255.0

12 WAN#1を設定します。

[ブロードキャスト]をクリックし、インタフェースアドレス、インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。WAN#2は「ダウン」を選択します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(金沢MF機)、高速デジタル専用線、フレッツリレーの内、いずれかの回線をご使用になる場合に対象となります。フレッツリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時アドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

13 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

14 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cにもこの設定を行ってください。

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
conf#  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual」を入力します。

```
conf#wan dual
```

- 3 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (osaka、hakata)」、 「接続相手のISDN番号 (061234yyyy、092123zzzz)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy  
conf#target add name=hakata dial=092123zzzz
```

- 4 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、 「自局のサブアドレス (なし)」、 「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[-1]・[-2] は対象のISDN B1・B2回線の指定を意味します。

```
conf#isdn dialcheck=on multimode=on  
conf#isdn -1 dial=031234xxxx  
conf#isdn -2 dial=031234xxxx
```

- 5 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 ISDN回線インタフェースの設定 (interfaceコマンド)

「複数相手接続を使用する (IPアドレス : 192.168.100.1、ネットマスク : 255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[isdn1] はISDN B1回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

7 接続相手の設定 (iptargetコマンド)

「接続相手の設定 (192.168.100.2、192.168.100.3)」を「iptarget」コマンドで入力します。

入力はターゲット名称ごとに行います。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.20.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、Nexthop : 192.168.100.2))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0
nexthop=192.168.100.2
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0
nexthop=192.168.100.3
```

9 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^(plus)機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

4
使
ル
タ
機
能
を
用
い
な
す

次ページへ続く

10 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様の設定を行ってください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031234xxxx
conf#target add name=hakata dial=092123zzzz
conf#isdn dialcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=061234yyyy
conf#isdn -2 dial=061234yyyy
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.2,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

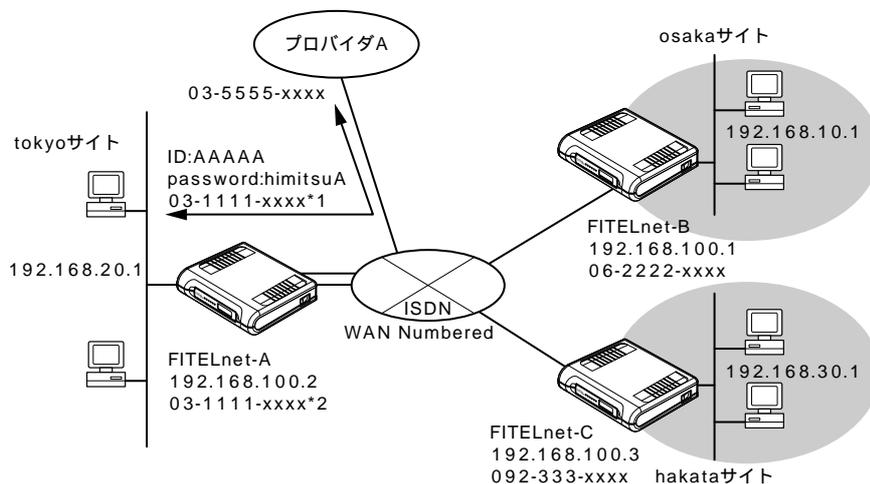
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031234xxxx
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy
conf#isdn dialcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=092123zzzz
conf#isdn -2 dial=092123zzzz
conf#interface lan addr=192.168.30.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.3,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=osaka
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定E

インターネット・複数イントラネット同時接続

2台の本装置をISDNの1チャンネルを使ってイントラネットに接続し、残りの1チャンネルをプロバイダにダイヤルアップ端末型として接続する設定について説明します。イントラネットでは複数の拠点を結びます。この設定例では、ISDN2Bを別々のインタフェースとしてサブアドレスで分けて使用しています。LAN間接続でもPPP認証を行っており、インターネット接続用のID/Passwordを使用しています。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
簡単設定	ISDNダイヤルアップ接続の登録 変更	アクセスポイント	03-5555-xxxx	
		認証(接続)ID	AAAAA	
		認証(接続)パスワード	himitsuA	
		プライマリDNSアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		セカンダリDNSアドレス	yyy.yyy.yyy.yyy	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態	同時2箇所接続	
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1111-xxxx
			自局サブアドレス	1
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1111-xxxx
			自局サブアドレス	2
	B1、B2共通	着信時の発信者番号 チェック	する	
		着信時のPPP認証	する	
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	06-2222-xxxx	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	osaka	
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0	
ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号	092-333-xxxx		
	相手のサブアドレス	なし		
	相手認証用のID	hakata		
	登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする	0		

4
使
ル
タ
機
能
を

具体的な設定方法

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	IP RIPスタティック (1件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.10.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.1
			接続相手の指定	osaka
			メトリック	2
	IP RIPスタティック (2件目の例)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.30.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.3
			接続相手の指定	hakata
			メトリック	2
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.20.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	インタフェースタイプ	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	0.0.0.0
			相手インタフェースサブネットマスク	0.0.0.0
		WAN#2インタフェース	インタフェースタイプ	ブロードキャスト
			インタフェースアドレス	192.168.100.2
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [ISDNダイヤルアップ接続] をクリックします。
- 3 ISDNダイヤルアップ接続の設定をします。
プロバイダにISDN接続するとき使用するアクセスポイント、認証（接続）ID、認証（接続）パスワードを下記のように入力します。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。
ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

ISDNダイヤルアップ接続の登録変更

アクセスポイント:

認証(接続)ID: (最大127文字まで)

認証(接続)パスワード: (最大32文字まで)

プライマリDNSアドレス:

セカンダリDNSアドレス:

4 ルータの [便利な設定] をクリックします。

5 [ISDN回線の接続について] をクリックします。

6 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックしてください。

7 ISDN回線を設定します。

B1・B2回線別に、接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号: [031111xxxx]
自局サブアドレス: []
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号: [031111xxxx]
自局サブアドレス: []
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: [60] 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない
着信時、相手をPPP認証: する しない
発呼時、相手をPPP認証: する しない
装置連続接続リミッターは、 利用しない [12] 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

次ページへ続く

4
使う
ルータ機能
を

具体的な設定方法

8 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。

9 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順8～9を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス

電話番号	サブアドレス
1. 062222xxxx	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース ▼

ダイヤルアップ接続時の認証データ列は 番号の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして番番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続600分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギガランチャ方式) する(64k:ヘブネフォート方式)

※PIAFS
NTT Docomo F16の64kデータ通信はギガランチャ方式PIAFS 2.0 連携です。
DDI POCKETの64kbpsデータ通信サービス(e-DAT 464)はヘブネフォート方式PIAFS 2.1 連携です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(TCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなさいとなります。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス

電話番号	サブアドレス
1. 092333xxxx	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース ▼

ダイヤルアップ接続時の認証データ列は 番号の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして番番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する(連続600分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギガランチャ方式) する(64k:ヘブネフォート方式)

※PIAFS
NTT Docomo F16の64kデータ通信はギガランチャ方式PIAFS 2.0 連携です。
DDI POCKETの64kbpsデータ通信サービス(e-DAT 464)はヘブネフォート方式PIAFS 2.1 連携です。
next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース(TCP)を選択した時は、PIAFS接続の選択はしなさいとなります。

コールバック:

しない

する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする

される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

10 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

11 接続相手とルート情報を設定します。

宛先アドレス・宛先サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。この例では2件登録しています（1件目はインターネットダイヤルアップ接続用にデフォルトルートがあらかじめ設定されています）。

IP RIP スタティックの登録

順	通信先指定 IPアドレスとマスク	中継先指定	ホリク	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> 0.0.0.0 /	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	16	60
2	<input type="checkbox"/> 192.168.10.0 / 24	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 [192] [168] [10] [0] / <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	2	60
3	<input type="checkbox"/> 192.168.80.0 / 24	<input type="radio"/> 静的指定 国境がISDN側のダイヤルアップ接続時は、その通信先を指定して下さい。 [192] [168] [80] [0] / <input type="checkbox"/> ダイヤルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい。 [ISDN #] <input type="checkbox"/> インタフェース指定 [ISDN #]	2	60

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

12 ルータの [詳細設定] をクリックします。

13 [インタフェースの設定] をクリックします。

次ページへ続く

お知らせ

ISDNインターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT+機能がON（ISDN # 1のみ）、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

4
使う
ルータ
機能を

具体的な設定方法

14 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

15 WAN#1・WAN#2を設定します。

WAN#1を [ポイントツーポイント]、WAN#2を [ブロードキャスト] とし、下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN 回線(または専用線)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内いずれかの回線をご使用になる場合に対応となります。
 フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカル側の設定でIPアドレスの設定を行って下さい。

⌵ ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

WAN#2インタフェース:

ISDNを2回線をご使用になる場合の2回線目のインタフェースとして設定します。

⌵ ダウン

ブロードキャスト

インタフェースアドレス:

インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:

相手インタフェースアドレス:

相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

16 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

17 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bにも同様の設定を行ってください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual isdn」を入力します。

```
conf#wan dual isdn
```

3 認証アカウント、認証パスワードの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント (AAAAA)」、「認証パスワード (himitsuA)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1] は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=AAAAA password=himitsuA nameserver  
=xxx.xxx.xxx.xxx.yyy.yyy.yyy.yyy
```

4 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (providerA、osaka、hakata)」、「接続相手のISDN番号 (035555xxxx、062222xxxx、092333xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=providerA dial=035555xxxx host=default  
conf#target add name=osaka dial=062222xxxx  
conf#target add name=hakata dial=092333xxxx
```

次ページへ続く

4
使
ル
う
ル
ー
タ
機
能
を

5 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド・iptargetコマンド)

「自局のISDN番号(031111xxxx)」、「自局のサブアドレス(1)」、「自局の複数相手接続を使用する」を「 isdn 」コマンドで入力します。

[rcvcheck=on] は着信時にPPP認証を行うことを意味します。

[-1]・[-2] は対象のISDN B1・B2回線の指定を意味します。

[target=providerA] は先に登録した「接続相手のターゲット名称 (providerA)」とB1回線を結び付けます。

```
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on rcvcheck=on
conf#isdn -1 dial=031111xxxx * 1 target=providerA
conf#isdn -2 dial=031111xxxx * 2
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
```

6 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.20.1)」、「LANのサブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0
```

7 ISDN回線のIPアドレス、接続先のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

「ISDN B1回線インタフェースのIPアドレス (0.0.0.0)」、「接続先のIPアドレス (0.0.0.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。 [isdn1] はISDN B1回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 addr=0.0.0.0 remote=0.0.0.0
```

8 ISDN回線インタフェースの設定 (interfaceコマンド)

「複数相手接続を使用する (IPアドレス : 192.168.100.2、ネットマスク : 255.255.255.0)」を「 interface 」コマンドで入力します。

[isdn2] はISDN B2回線インタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface isdn2 addr=192.168.100.2,255.255.255.0
```

9 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録 (宛先アドレス : 192.168.10.0、宛先サブネットマスク : 255.255.255.0、NextHop=192.168.100.1))」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
```

同様にFITELnet-Cへのスタティックルートも登録します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0, 255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
```

10 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT⁺ (plus) 機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if =isdn1
```

11 DHCP機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCP機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

12 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様の設定を行ってください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031111xxxx *2
conf#target add name=hakata dial=092333xxxx
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on
conf#isdn -1 dial=062222xxxx
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.1,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=tokyo
conf#iptarget add addr=192.168.100.3 name=hakata
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#ipripstatic add dst=192.168.30.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.3
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

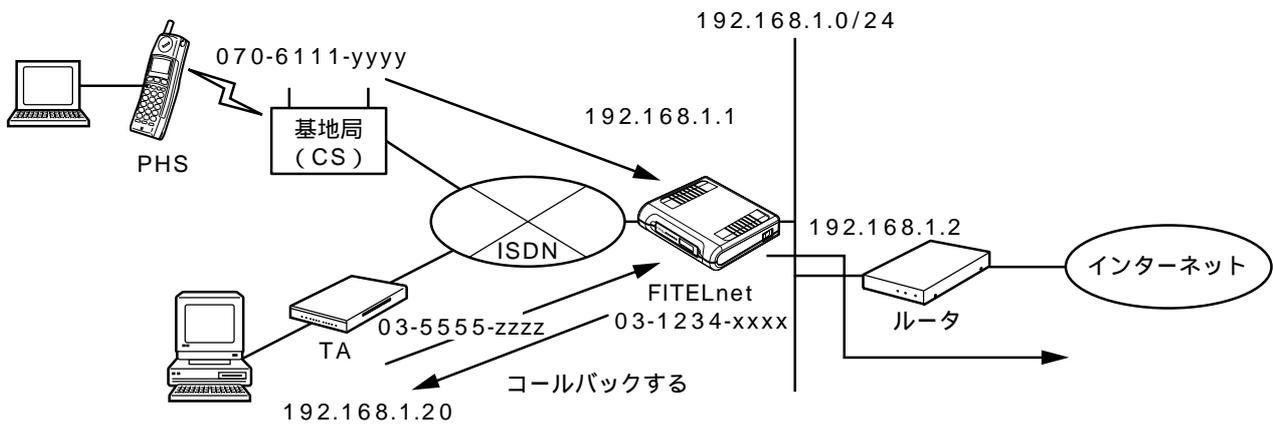
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan isdn
conf#target add name=tokyo dial=031111xxxx *2
conf#target add name=osaka dial=062222xxxx
conf#isdn dialcheck=0 multimode=on
conf#isdn -1 dial=092333xxxx
conf#interface lan addr=192.168.30.1,255.255.255.0
conf#interface isdn1 addr=192.168.100.3,255.255.255.0
conf#iptarget add addr=192.168.100.1 name=osaka
conf#iptarget add addr=192.168.100.2 name=tokyo
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
conf#nat off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定F

PIAFS/TA接続 (アクセスサーバ)

本装置をアクセスサーバとして使用し、遠隔地のTA端末と接続する例について説明します。この例では、1つのTAには本装置からコールバックするようにしています。PHSやTAを20件まで登録することができ、同時に2箇所と接続することができます。本装置のLAN側にある他のルータからインターネットへのアクセスも可能です。



設定データの例

分類	画面名	設定項目	設定例	
便利な設定	ISDN回線の接続について	現在の形態		同時2箇所接続
		B1	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B2	接続方法	自動接続
			自局電話番号	03-1234-xxxx
			自局サブアドレス	なし
		B1、B2共通	着信時の発信者番号チェック	する
	着信時のPPP認証		する	
	ISDN回線接続先の登録 (1件目の例)	相手の電話番号	070-6111-yyyy	
		相手のサブアドレス	なし	
		相手認証用のID	PHS	
相手認証用のパスワード		phs		
next gatewayとして接続する時の回線インタフェース		ISDN#1		
登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする		0		
PIAFS接続		する(64K:ギャランティ方式)		
コールバック	しない			

4
使
ル
タ
機
能
を

次ページへ続く

具体的な設定方法

分類	画面名	設定項目		設定例
便利な設定	ISDN回線接続先の登録 (2件目の例)	相手の電話番号		03-5555-zzzz
		相手のサブアドレス		なし
		相手認証用のID		TA
		相手認証用のパスワード		ta
		next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース		ISDN#1
		登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする		0
		PIAFS接続		しない
		コールバック		する (登録している所へする)
	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	0.0.0.0
			マスク長	0.0.0.0
中継先の指定		IPアドレス	192.168.1.2	
		メトリック	2	
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.1.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
			WAN#1インタフェース	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.1.10
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.255
			WAN#2インタフェース	ポイントツーポイント
			相手インタフェースアドレス	192.168.1.20
			相手インタフェースサブネットマスク	255.255.255.255

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
- 3 [現在の形態] に [同時2箇所接続] が表示されているかどうか確認してください。表示されていない場合は、[他の形態] の中から [同時2箇所接続] をクリックしてください。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。
ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☛P36)

4 ISDN回線を設定します。

B1回線に、接続方法・自局電話番号などを下記のように入力します。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続
他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

B1:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号:
自局サブアドレス:
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B2:
接続方法: 手動接続 自動接続
自局電話番号:
自局サブアドレス:
契約番号での着信: する しない
発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
着信時の発信者番号(相手の電話番号)チェック: する しない
着信時、相手をPPP認証: する しない
発呼時、相手をPPP認証: する しない
装置連続接続リミッターは、 利用しない 時間後に設定する

ご注意: 「着信時の発信者番号チェック」の項目はDチャネルバケット接続と共通項目のため、Dチャネルバケット接続時にも影響を及ぼします。

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

5 ルータの便利な設定から [ダイヤルアップ回線接続先の設定] をクリックします。

次ページへ続く

具体的な設定方法

6 接続先を登録します。

[新規登録] をクリックします。

接続先のISDN電話番号などを下記のように入力します。この例では2件登録しています。2件登録するときは、手順5～6を繰り返してください。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 0706111yyyy	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する (連続 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k: キャラクター方式) する (64k: ベストエフォート方式)

※メモ
 NTT Docomo PHSの64kデータ通信はキャラクタ方式PIAFS 0.0 推奨です。
 DD POCNETの64kデータ通信サービス(e-DATA64)はベストエフォート方式PIAFS 0.1 推奨です。
 next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースにDIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしないとなります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. 0355552222	
2.	
3.	

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース

ダイヤルアップ接続時の認証データは 番目の内容を使用する

相手認証用のID:

パスワード:

注意: 相手認証用のIDは相手毎に違う内容を設定して下さい。また認証を行わない場合でも相手を区別できる内容を設定して下さい。

登録電話番号を 桁飛ばして着番号チェックする

連続接続状態の監視: しない する (連続 分まで接続可能)

PIAFS接続: しない する (32k) する (64k: キャラクター方式) する (64k: ベストエフォート方式)

※メモ
 NTT Docomo PHSの64kデータ通信はキャラクタ方式PIAFS 0.0 推奨です。
 DD POCNETの64kデータ通信サービス(e-DATA64)はベストエフォート方式PIAFS 0.1 推奨です。
 next_gatewayとして接続する時の回線インタフェースにDIPを選択した時は、PIAFS接続の選択はしないとなります。

コールバック:
 しない
 する (無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される (無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

7 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。

8 接続相手とルート情報を設定します。

IPアドレス、サブネットマスクとルート情報を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録			
通信先指定	中継先指定	ホップ	プライオリティ
IPアドレスとサブネットマスク	IPアドレス指定 [192] [168] [1] [0] / [24] 詳細設定画面のダイナミック接続時は、その通信先を指定して下さい。		
1 [0] [0] [0] [0] / [0]	ダイナミック接続先指定 接続先となるインタフェースを指定して下さい。 [0] [0] [0] [0]	2	60
	インタフェース指定 [0] [0] [0] [0]		

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

9 ルータの [詳細設定] をクリックします。

10 [インタフェースの設定] をクリックします。

11 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定	
LANインタフェース: インタフェースアドレス:	[192] [168] [1] [1]
インタフェースサブネットマスク:	[255] [255] [255] [0]

次ページへ続く

4
ルータ機能
を使う

12 WAN#1、WAN#2を設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含EMF機能)、高速デジタル専用線、フレームリレーのいずれかの回線をご利用になる場合に対応します。
フレームリレーご利用時、ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行ってください。

⌵ ダウン

ブロードキャスト
インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント
インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

WAN#2インタフェース:

ISDNを2回線をご利用になる場合の2回線目のインタフェースとして設定します。

⌵ ダウン

ブロードキャスト
インタフェースアドレス:
インタフェースサブネットマスク:

ポイントツーポイント
インタフェースアドレス:
相手インタフェースアドレス:
相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

13 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

14 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

お知らせ

インターネットダイヤルアップ端末型接続では、DHCP機能がON、NAT機能がON、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択 (WANコマンド)

「WAN回線の選択 (ISDN回線)」を設定するため「wan dual」を入力します。

```
conf#wan dual
```

3 認証アカウントの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント (fitelnet)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add1] は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

```
conf#hostname add 1 default=fitelnet
```

4 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド)

「接続相手のターゲット名称 (PHS、TA)」、「接続相手のISDN番号 (0706111yyyy、035555zzzz)」を「target」コマンドで入力します。コールバックについてもここで「target」コマンドで入力します。

[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=PHS dial=0706111yyyy host=default
key=nc,phs cbmode=server cbmethod=none cbdeny=ok speed=piafs64
conf#target add name=TA dial=035555zzzz host=default key=nc,ta
cbmode=server cbmethod=server cbdeny=no
```

5 自局のISDN番号、サブアドレス、複数相手接続の設定 (isdnコマンド)

「自局のISDN番号 (031234xxxx)」、「自局の複数相手接続を使用する」を「isdn」コマンドで入力します。

[rcvcheck=on] は着信時にPPP認証を行うことを意味します。

[-1] は対象のISDN B1回線の指定を意味します。

```
conf#isdn rcvcheck=on multimode=on
conf#isdn -1 dial=031234xxxx
```

4
使
ル
ル
ー
タ
機
能
を

6 IPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「IPアドレス (192.168.1.1)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。
[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

7 IPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN B1回線インタフェースを使うリモート側の「IPアドレス (192.168.1.10)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.255)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn1] はISDN B1回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 remote=192.168.1.10,255.255.255.255
```

8 IPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

ISDN B2回線インタフェースを使うリモート側の「IPアドレス (192.168.1.20)」、「サブネットマスクパターン (255.255.255.255)」を「interface」コマンドで入力します。
[isdn2] はISDN B2回線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn2 remote=192.168.1.20,255.255.255.255
```

9 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します。

```
conf#ipripstatic delete all
```

デフォルトルートを「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add default=192.168.1.2
```

10 アドレス変換の設定 (natコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT⁺(plus) 機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

11 設定を保存します。(←P41)

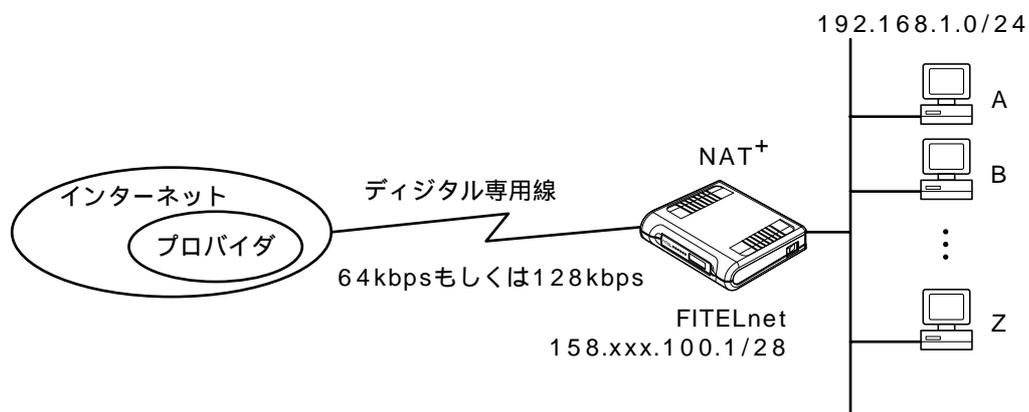
```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

設定G

インターネット専用線接続（OCNエコノミーなど）<NAT on>

専用線を用いてインターネットに接続する例について説明します。この例では、ユーザネットワークアドレスが、158.xxx.100.0/28ですから、端末13台分までのIPアドレスが使用できます。さらにNAT⁺機能を使用することにより、端末13台以上をインターネットに接続することができます。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度	128kbps
		契約IPアドレス	158.xxx.100.0
		契約IPアドレスサブネット長	28 (255.255.255.240)
		LAN側IPアドレス	LAN側は以下のIPアドレスを使用する
		LANインタフェースIPアドレス	192.168.1.1
		LANインタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡	受けていない

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。

3 専用線の回線速度、契約IPアドレスなどを下記のように入力します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: [168] [XXX] [100] [0] / [28]

LAN側とWAN側に同じIPアドレス(契約IPネットワーク番号の再若番)を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する(WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス: [192] [168] [1] [1]
LANインタフェースサブネットマスク: [255] [255] [255] [0]
(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

連絡を受けた接続先IPアドレス: [] [] [] []

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

5 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

4
使う
ルータ
機能を

お知らせ

手順1のあとに、ユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。
ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択(HSD回線)」、「回線速度の設定(128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力し、[Enter]を押します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス(192.168.1.1)」、「サブネットマスク(255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

- 4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

HSD回線の「接続先IPアドレス(158.xxx.100.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。ISDN B1はダウンさせます。

```
conf#interface isdn1 down  
conf#interface hsd addr=158.xxx.100.1 remote=0.0.0.0
```

5 デフォルトルートの設定 (ipripstatic コマンド)

「デフォルトルートの設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。[dst=0.0.0.0,0.0.0.0] [hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=0.0.0.0,0.0.0.0 nextif=hsd
```

6 アドレス変換の設定 (nat コマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「nat natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=hsd
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために、「dhcpserver off」を入力します。

```
conf# dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

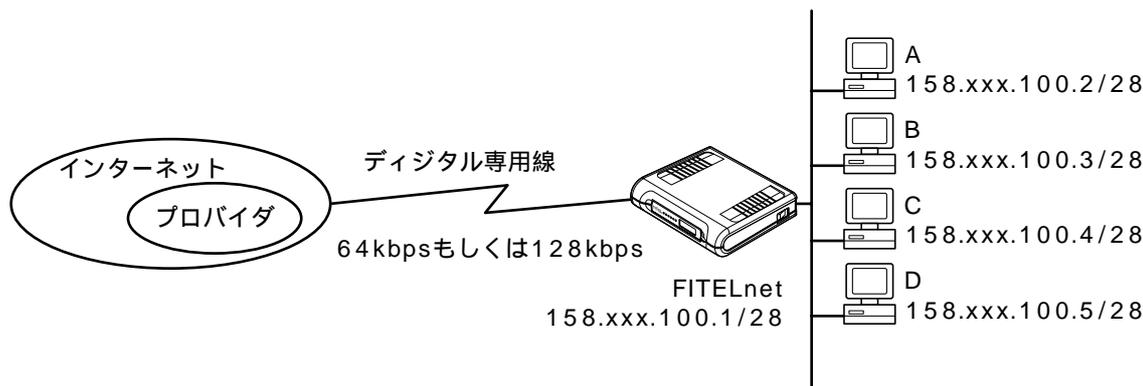
4
ルータ機能を使う

設定H

インターネット専用線接続（OCNエコノミーなど）<NAT off>

専用線を使用してインターネットに接続する例について説明します。この例では、端末の台数分のグローバルIPアドレスを契約し、NAT+機能は使用しません。

Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目	設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度	128kbps
		契約IPアドレス	158.xxx.100.0
		契約IPアドレスサブネット長	28 (255.255.255.240)
		LAN側IPアドレス	LAN側でも契約IPアドレスを使用する
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を	受けていない

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。

ユーザIDとパスワードを入力してください。

(←P36)

3 専用線の回線速度、契約IPアドレスなどを下記のように入力します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: [59] [00] [0] / [8]

LAN側とWAN側に同じIPアドレス (契約IPネットワーク番号の再若番) を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する (WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を
 受けていない
 受けている

連絡を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

4 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

5 [装置をリセットする] をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(☞P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (158.xxx.100.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.240)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。LANインタフェースのIPアドレスは「契約IPアドレス (158.xxx.100.1)」から割り付け可能なIPホストアドレスの内の最も若い番号を割り付けてください。

```
conf#interface lan addr=158.xxx.100.1,255.255.255.240
```

- 4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

HSD回線の「接続先IPアドレス (158.xxx.100.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。ISDN B1はダウンさせます。

```
conf# interface isdn1 down  
conf#interface hsd addr=158.xxx.100.1 remote=0.0.0.0
```

5 デフォルトルートの設定 (ipripstatic コマンド)

「デフォルトルートの設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。[dst=0.0.0.0,0.0.0.0] はデフォルトルート、[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=0.0.0.0,0.0.0.0 nextif=hsd
```

6 アドレス変換の設定 (nat コマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit
Configuration modified. save ok? (y/n):y
please reset#
Do you want to continue (y/n)?:y
```

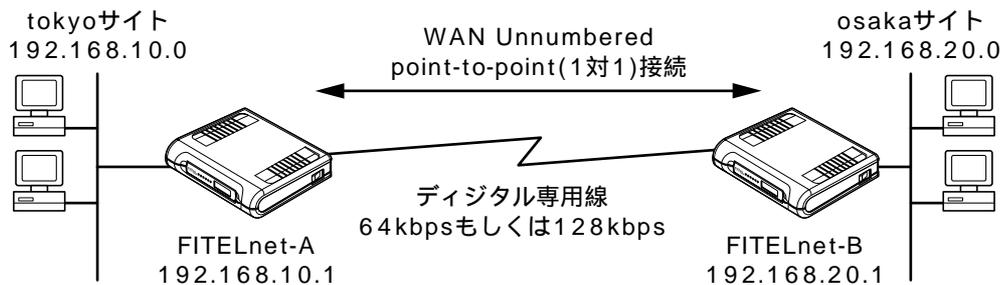
4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

具体的な設定方法

設定 I

専用線対向接続 (WAN Unnumbered)

2台の本装置を専用線を使って1対1 (point-to-point) に接続する例について説明します。この例では、WAN側にアドレスはふりません。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度		128kbps
		契約IPアドレス		192.168.10.0
		契約IPアドレスサブネット長		24 (255.255.255.0)
		LAN側IPアドレス		LAN側でも契約IPアドレスを使用する
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を		受けている
		連絡を受けた接続先IPアドレス		192.168.20.1
便利な設定	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.20.1
			メトリック	2
			プリファレンス	50

<Webブラウザ操作>

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。
- 3 専用線の回線速度を設定します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: /

LAN側とWAN側に同じIPアドレス (契約IPネットワーク番号の再若番) を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する (WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

接続を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。
- 5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

番	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	IPアドレスとマスク長 <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="20"/> <input type="text" value="0"/> / <input type="text" value="24"/>	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 <input type="text" value="192"/> <input type="text" value="168"/> <input type="text" value="20"/> <input type="text" value="1"/> <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 接続先に対するインタフェースを指定して下さい ISDN1 <input type="radio"/> インタフェース指定 ISDN1	<input type="text" value="2"/>	<input type="text" value="50"/>

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

すでに登録されているエントリがある場合は削除してください。

次ページへ続く

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(P36)

LAN側のIPアドレスは契約IPアドレス + 1のアドレスが自動的に割り当てられます。それ以外のアドレスにする場合は、「詳細設定」の「インタフェースの設定」でLANのインタフェースIPアドレスを変更してください。

4
使う
ルータ
機能を

具体的な設定方法

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bも同様に設定してください。

お知らせ

専用線接続では、DHCP機能がOFF、NAT^{*}機能がOFF、接続先がデフォルトルートにあらかじめ設定されています。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

4 HSD回線のIPアドレスの設定 (interfaceコマンド)

「HSD回線のIPアドレス (192.168.10.1)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#interface isdn1 down
conf#interface hsd addr=192.168.10.1 remote=192.168.20.1
```

5 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1] は、FITELnet-Bへのルーティング情報を意味します。

```
conf#ipripstatic delete all
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1
```

4
使
ル
タ
機
能
を

6 NAT⁺機能の設定 (natコマンド)

「NAT⁺機能」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(☞P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様に設定してください。

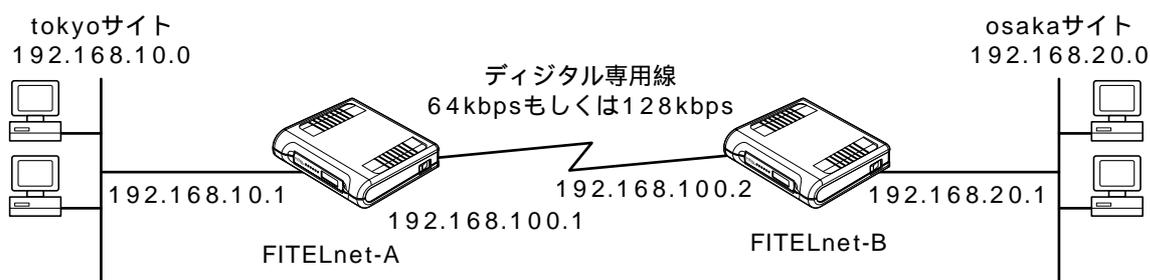
FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan hsd (128kbpsを利用する場合は、wan hsd 128 とする)  
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0  
conf#interface hsd addr=192.168.20.1 remote=192.168.10.1  
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.10.1  
conf#nat off  
conf#dhcpserver off  
conf#exit  
Configuration modified. save OK? (y/n): y  
please reset#reset  
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定J

専用線対向接続 (WAN Numbered)

2台の本装置を専用線を使って接続する例について説明します。この例では、WAN側にアドレスをふっています。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	専用線接続の登録変更	専用線の回線速度		128kbps
		契約IPアドレス		192.168.100.0
		契約IPアドレスサブネット長		24 (255.255.255.0)
		LAN側IPアドレス		LAN側は以下のIPアドレスを使用する
		LANインタフェースIPアドレス		192.168.10.1
		LANインタフェースサブネットマスク		255.255.255.0
		接続先のIPアドレス、サブネットマスクの連絡を		受けていない
便利な設定	IP RIPスタティック	通信先の指定	IPアドレス	192.168.20.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.100.2
			メトリック	2
			プリファレンス	50

4
使う
ルータ機能
を

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [専用線接続] をクリックします。
- 3 専用線の回線速度を設定します。

専用線接続の登録変更

専用線の回線速度: 64kbps 128kbps

契約IPネットワーク番号/サブネット長: /

LAN側とWAN側に同じIPアドレス(契約IPネットワーク番号の再若番)を設定する
 LAN側に以下のIPアドレスを設定する(WAN側は契約IPネットワーク番号の再若番を設定する)

LANインタフェースIPアドレス:

LANインタフェースサブネットマスク:

(未入力時はクラス毎のサブネットマスクを採用します)

接続先のIPアドレス、サブネットマスクの接続を
 受けていない
 受けている

接続を受けた接続先IPアドレス:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

- 4 ルータの便利な設定から [IP RIP スタティック] をクリックします。
- 5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。

IP RIP スタティックの登録

優先度	通信先指定	中継先指定	ホスト名	プロファイル名	
1	<input type="text" value="192.168.20.0"/> / <input type="text" value="24"/>	<input type="text" value="192.168.100.2"/>		2	60

通信先指定: IPアドレス指定

中継先指定: IPアドレス指定 接続先IPアドレスのデフォルトゲートウェイは、その接続先を指定して下さい。

ホスト名: (最大255文字)

プロファイル名: (最大63文字)

優先度: (1-255)

コスト: (1-255)

インタフェース指定:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。(←P36)

LAN側のIPアドレスは契約IPアドレス+1のアドレスが自動的に割り当てられます。それ以外のアドレスにする場合は、「詳細設定」の「インタフェースの設定」でLANのインタフェースIPアドレスを変更してください。

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-Bも同様に設定してください。

4
ルータ機能を
使う

< コマンド操作 >

- 1 コンフィグレーションモードに移行します。
(←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

- 2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (HSD回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan hsd 128」を入力します。

```
conf#wan hsd 128
```

- 3 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス(192.168.10.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

- 4 HSD回線のIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「HSD回線のIPアドレス (192.168.100.1)」、 「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[hsd] は高速デジタル専用線インタフェースを意味します。

```
conf#interface hsd addr=192.168.100.1,255.255.255.0
```

- 5 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

「ルート情報設定 (スタティックルートの登録)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。

[dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2] は、FITELnet-Bへのルーティング情報を意味します。

```
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.2
```

6 NAT⁺機能の設定 (natコマンド)

「NAT⁺機能」を「使用しない」ために「nat off」を入力します。

```
conf#nat off
```

7 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

8 設定を保存します。(←P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-Bも同様に設定してください。

FITELnet-B装置側コマンド設定例

```
conf#wan hsd 128  
conf#interface lan addr=192.168.20.1,255.255.255.0  
conf#interface hsd addr=192.168.100.2,255.255.255.0  
conf#ipripstatic delete all  
conf#ipripstatic add dst=192.168.10.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.100.1  
conf#nat off  
conf#dhcpserver off  
conf#exit  
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y  
please reset#reset  
Do you want to continue (y/n)?: y
```

4
ルータ機能を
使う

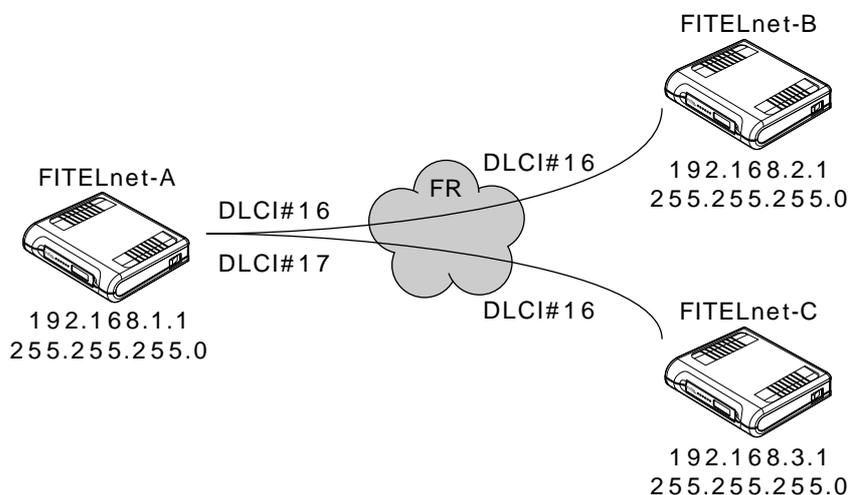
具体的な設定方法

設定K

フレームリレー接続 (WAN Unnumbered、InverseARP使用、スタティックルート)

3台の本装置をフレームリレーを使って接続する例について説明します。FITELnet-Aと、FITELnet-BおよびFITELnet-Cをポイントツーポイント (Unnumbered) で接続します。

ネットワーク間のルーティング情報はスタティックで運用され、インタフェースアドレスは、InverseARPにより、互いに自動的に割り付けられます。各フレームリレー回線の回線速度は128kbps、CIR値は32kbpsとします。ここではFITELnet-Aの設定を例にしています。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	フレームリレー接続の登録変更	設定1	DLCI	16
			PIR	128kbps
			CIR	32kbps
		設定2	DLCI	17
			PIR	128kbps
			CIR	32kbps
	LANインタフェースアドレス	192.168.1.1		
	LANインタフェースサブネットマスク	255.255.255.0		
便利な設定	IP RIPスタティック (設定1)	通信先の指定	IPアドレス	192.168.2.0
			マスク長	24 (255.255.255.0)
		中継先の指定	IPアドレス	192.168.2.1
			メトリック	2
			プリファレンス	50
		IP RIPスタティック (設定2)	通信先の指定	IPアドレス
	マスク長			24 (255.255.255.0)
	中継先の指定		IPアドレス	192.168.3.1
			メトリック	2
		プリファレンス	50	

5 ルート情報を設定します。

通信先や中継先を下記のように入力します。この例では2件登録しています。

IP RIP スタティックの登録

番	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
1	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク長 192.168.2.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.2.1 <input type="checkbox"/> ダイアルアップ接続先指定 接続先に対するインターフェースを指定して下さい: [SDNI]	<input type="checkbox"/>	50
2	<input type="checkbox"/> IPアドレスとマスク長 192.168.3.0 / 24	<input checked="" type="radio"/> IPアドレス指定 192.168.3.1 <input type="checkbox"/> ダイアルアップ接続先指定 接続先に対するインターフェースを指定して下さい: [SDNI]	<input type="checkbox"/>	50

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

6 設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。[リセット]をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

7 [装置をリセットする]をクリックします。

本装置が再起動し、設定内容が有効になります。FITELnet-B、FITELnet-Cも同様に設定してください。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (←P40)

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 WAN回線の選択、回線速度の設定 (wanコマンド)

「WAN回線の選択 (FR回線)」、 「回線速度の設定 (128kbps)」を設定するため「wan fr 128」を入力します。

```
conf#wan fr 128
```

3 データ接続識別子 (DLCI) の設定 (dlciコマンド)

「DLCI (16)」に対して、「転送速度 (128)」、「CIR (32)」を「dlci」コマンドで入力します。

「DLCI (17)」に対しても同様に設定します。

```
conf#dlci 16 pir=128 cir=32  
conf#dlci 17 pir=128 cir=32
```

4 LANインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「LANインタフェースのIPアドレス (192.168.1.1)」、「サブネットマスク (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

[lan] はLANインタフェースの指定を意味します。

```
conf#interface lan addr=192.168.1.1,255.255.255.0
```

5 FR回線インタフェースの設定 (interfaceコマンド)

「FR回線のインタフェース (point-to-point)」を「interface」コマンドで入力します。

[fr] はフレームリレーインタフェースを意味します。

```
conf#interface fr type=pointtopoint
```

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

次ページへ続く

6 ルーティング情報送受信の設定 (rtcontrol コマンド)

「ルーティング情報送受信 (OFF)」を「rtcontrol」コマンドで入力します。

```
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
```

7 ルート情報の設定 (ipripstatic コマンド)

「ルート情報設定」を「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add] は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.2.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.2.1 metric=2  
conf#ipripstatic add dst=192.168.3.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.3.1 metric=2
```

8 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserver コマンド)

「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

9 設定を保存します。(P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-B、FITELnet-Cも同様に設定してください。

FITELnet-Bの設定例

```
conf#wan fr 128
conf#dlci 16 pir=128 cir=32
conf#interface lan addr=192.168.2.1,255.255.255.0
conf#interface fr type=pointtopoint
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
conf#ipripstatic add dst=192.168.1.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=2
conf#ipripstatic add dst=192.168.3.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=3
conf# dhcp off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

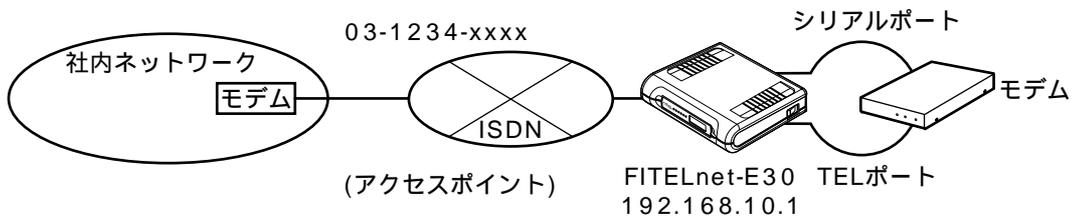
FITELnet-Cの設定例

```
conf#wan fr 128
conf#dlci 16 pir=128 cir=32
conf#interface lan addr=192.168.3.1,255.255.255.0
conf#interface fr type=pointtopoint
conf#rtcontrol fr send=off rcv=off
conf#ipripstatic add dst=192.168.1.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=2
conf#ipripstatic add dst=192.168.2.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.1.1 metric=3
conf#dhcp off
conf#exit
Configuration modified. save OK ? (y/n) : y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

設定L

モデム接続

FITELnet-E30のシリアルポートにモデムを接続し、アナログ回線を利用するときの設定について説明します。Webブラウザからの設定では、簡単設定だけで操作が完了します。本装置のシリアルポートとモデムは、モデムに添付されたケーブルまたはシリアルケーブル（ストレート）で接続します。



< 設定データの例 >

分類	画面名	設定項目		設定例
簡単設定	モデムを使用した接続の登録変更	他の回線との一緒の使用		使用する
		ダイヤル種別		トーン
		回線速度		28800
		モデム初期化コマンド	送信	ATE0V0
			受信	0またはOK
		回線切断コマンド	送信	ATH
			受信	0またはOK
		アクセスポイント		03-1234-xxxx
		認証（接続）ID		marry
		認証（接続）パスワード		xyz-123
		プライマリDNSアドレス		xxx.xxx.xxx.xxx
セカンダリDNSアドレス		yyy.yyy.yyy.yyy		
詳細設定	インタフェースの設定	LANインタフェース	インタフェースアドレス	192.168.10.1
			インタフェースサブネットマスク	255.255.255.0
		WAN#1インタフェース	相手インタフェースアドレス	0.0.0.0
			相手インタフェースサブネットマスク	0.0.0.0

< Webブラウザ操作 >

- 1 ルータの [簡単設定] をクリックします。
- 2 [モデムを利用した接続] をクリックします。

お知らせ

手順1のあとにユーザIDとパスワードの入力画面が表示されることがあります。ユーザIDとパスワードを入力してください。
(☞P36)

3 接続条件を設定します。

他の回線と一緒に使用するかどうか、ダイヤル種別、回線速度を下記のように入力します。

モデムを利用した接続の登録変更

他の回線 (ISDN回線等)と一緒に使用に 使用する、 使用しない

ダイヤル種別: トーン パルス

FITELnetとモデム間の通信速度: 28800

4 モデム初期化コマンドを設定します。

モデムを初期化するためのATコマンドを下記のように入力します。

モデム初期化コマンド(モデム認識時、モデムに対して送信します):

1. 送信	ATE0V0	
受信	OK	又は
	0	
2. 送信		
受信		又は
3. 送信		
受信		又は
4. 送信		
受信		又は

5 回線切断コマンドを設定します。

回線を切断するためのATコマンドを下記のように入力します。

回線切断コマンド(回線切断時、“+++”コマンドに続いてモデムに送信します):

1. 送信	ATH	
受信	OK	又は
	0	

6 接続先の設定をします。

プロバイダに接続するとき使用するアクセスポイントの電話番号、認証(接続)ID、認証(接続)パスワードを下記のように入力します。

アクセスポイント:	031234xxxx
認証(接続)ID:	marr (最大127文字まで)
認証(接続)パスワード:	xyz-123 (最大32文字まで)
プライマリDNSアドレス:	xxx .xxx .xxx .xxx
セカンダリDNSアドレス:	yyy .yyy .yyy .yyy

設定が終わったら、[送信]をクリックします。設定内容がFITELnet-E30に送信され、確認画面が表示されます。[OK]をクリックします。

お知らせ

ATコマンドに関しては、モデムの取扱説明書を参照してください。

次ページへ続く

4
ルータ機能
を使う

具体的な設定方法

7 ルータの [詳細設定] をクリックします。

8 [インタフェースの設定] をクリックします。

9 LANインタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

10 シリアルインタフェースを設定します。

[ポイントツーポイント] をクリックし、相手インタフェースアドレス、相手インタフェースサブネットマスクを下記のように入力します。

シリアルインタフェース:

ダウン
 ブロードキャスト
 インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:
 ポイントツーポイント
 インタフェースアドレス:
 相手インタフェースアドレス:
 相手インタフェースサブネットマスク:

設定が終わったら、[送信] をクリックします。設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。[OK] をクリックします。

11 設定内容を有効にするには、FITELnet-E30のリセットが必要です。[リセット] をクリックします。

「リセット」画面が表示されます。

12 [装置をリセットする] をクリックします。

FITELnet-E30が再起動し、設定内容が有効になります。

<コマンド操作>

1 コンフィグレーションモードに移行します。 (←P40)

```
#conf
Configuration password:
conf#
```

2 モデムの回線速度の選択 (asyncコマンド)

「モデムの回線速度」を設定するため「async speed=28800」を入力します。

```
conf#async speed=28800
```

3 モデムの初期設定 (modemコマンド)

「ダイヤル種別」を、「modem」コマンドで入力します。

```
conf#modem dial=tone
```

また、モデムの初期化、切断に関するATコマンドを「modem」コマンドで登録します。

なお、装置導入時には、

初期化コマンド：送信 (ATE0V0)、受信 (0またはOK)

切断コマンド：送信 (ATH)、受信 (0またはOK)

が登録されています。

4 認証アカウント、認証パスワードの設定 (hostnameコマンド)

「認証アカウント(marry)」、「認証パスワード(password=xyz-123)」を「hostname」コマンドで入力します。

[add 1]は、設定項目を1エントリー目へ登録することを意味します。

この入力により「PPP認証 (使用する)」も登録されます。

```
conf#hostname add 1 default=marry password=xyz-123
```

5 接続相手のターゲット名称、ISDN番号の設定 (targetコマンド・targetinterfaceコマンド)

「ターゲット名称 (async-easysetting)」、「ISDN番号 (031234xxxx)」を「target」コマンドで入力します。

[add]は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#target add name=async-easysetting dial=031234xxxx
conf#targetinterface add name=async-easysetting interface=async
```

4
使
ル
タ
機
能
を

6 LANのIPアドレス、サブネットマスクパターンの設定 (interfaceコマンド)

「LANのIPアドレス (192.168.10.1)」、 「サブネットマスクパターン (255.255.255.0)」を「interface」コマンドで入力します。

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

7 モデムインタフェースのIPアドレス、サブネットマスクの設定 (interfaceコマンド)

「モデム側のIPアドレス」、 「サブネットマスク」を「interface」コマンドで入力します。

```
conf#interface async remote=0.0.0.0
```

8 ルート情報の設定 (ipripstaticコマンド)

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリーを削除します。

```
conf#ipripstatic delete all
```

「ルート情報設定 (default=async-easysetting)」を「ipripstatic」コマンドで入力します。
[add]は、設定項目を登録することを意味します。

```
conf#ipripstatic add default=async-easysetting
```

9 アドレス変換の設定 (natpコマンド)

「アドレス変換設定 (NAT^{+(plus)}機能)」を「使用する」ために「natp」を入力します。

```
conf#nat natp if=async
```

10 DHCPサーバ機能の設定 (dhcpserverコマンド)

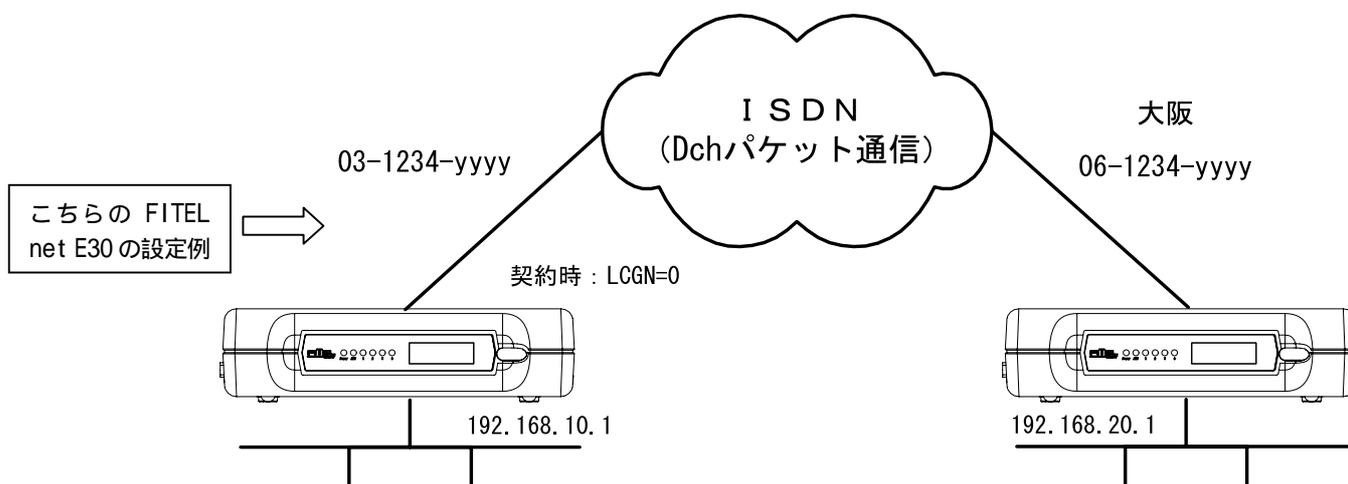
「DHCPサーバ機能」を「使用しない」ために「dhcpserver off」を入力します。

```
conf#dhcpserver off
```

11 設定を保存します。(P41)

```
conf#exit  
Configuration modified. save ok? (y/n):y  
please reset#  
Do you want to continue (y/n)?:y
```

FITELnet-E30 Dch パケット通信の設定



1 . コンフィグレーションモードに移行します .

```
#conf  
Configuration password:  
conf#
```

2 . WAN 回線の選択 (WAN コマンド)

WAN 回線に ISDN を指定するために , "wan isdn" を入力します .

```
conf#wan isdn
```

3 . 接続相手のターゲット名称 , ISDN 番号 , 着信認証番号 (target コマンド)

接続相手のターゲット名称等を , target コマンドで入力します . D チャネルパケット通信を行う相手の場合には , "speed=dp" を指定します .

```
conf#target add name=osaka dial=061234yyyy speed=dp
```

接続相手が DDX-P の場合、加入者番号の前に 14401 をつけてください .

```
conf#target add name=osaka dial=14401061234yyyy speed=dp
```

4 . 自局の ISDN 番号の設定 (isdn コマンド)

自局の ISDN 番号を , isdn コマンドで入力します .

```
conf#isdn -dp dial=031234xxxx
```

5 . LAN の IP アドレス , サブネットマスクパターンの設定 (interface コマンド)

LAN の IP アドレス / サブネットマスクパターンを , interface コマンドで入力します .

```
conf#interface lan addr=192.168.10.1,255.255.255.0
```

6 . D チャネル回線の IP アドレス , サブネットマスクパターンの設定 (interface コマンド)

ISDN 回線の IP アドレス / サブネットマスクパターンを , interface コマンドで入力します .

```
conf#interface dp remote=192.168.20.1,255.255.255.0
```

7 . ルート情報の設定

設定する前にいったんスタティックテーブルの全エントリを削除します .

```
conf#ipripstatic delete all
```

ルート情報設定 (宛先アドレス : 192.168.20.0 / NextHop : 192.168.20.1) .

```
conf#ipripstatic add dst=192.168.20.0,255.255.255.0 nexthop=192.168.20.1
```

8 . LCGN の設定

契約した LCGN 値を設定します .

```
conf#dchpacket lcgcn=0
```

フロー制御パラメータネゴシエーションの契約を行った場合は , パケット長 / ウィンドウサイズのパラメータを設定します . パケット長パラメータは "packetlen=" , ウィンドウサイズパラメータは "windows=" で指定します . パラメータの指定方法は , コマンドリファレンスを参照してください .

```
conf#dchpacket lcgcn=0 packetlen=128 windows=on
```

9 . 設定を保存し再起動します .

```
conf#exit
configuration modified. save OK ? (y/n): y
please reset#reset
Do you want to continue (y/n)?: y
```

ISDN回線の接続について

使用するWAN回線と回線速度および運用形態を設定します。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続について] をクリックします。
[ISDN回線の接続について] 画面が表示されます。
- 3 ISDN回線の2回線あるBチャネルの利用方法を説明します。

4種類のISDN接続形態の中から、設定する接続形態をクリックします。

ISDN回線の接続について

現在の形態: 同時2箇所接続

他の形態: 同時1箇所接続・自動MP接続・強制MP接続

接続形態	説明
同時1箇所接続	ISDN#1だけを通常回線として使用します。
自動MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断はトラフィック量に応じて自動的に行います。
強制MP接続	ISDN#1を通常回線、ISDN#2をトラフィック分散回線として使用します。トラフィック分散回線の接続/切断は、通常回線の接続/切断に連動します。
同時2箇所接続	ISDN#1およびISDN#2を通常回線としてそれぞれ別の相手と接続します。

次ページへ続く

ルータの便利な設定

4 運用形態を設定します。

B1:
 接続方法: 手動接続 自動接続
 自局電話番号:
 自局サブアドレス:
 契約番号での着信: する しない
 発呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 着呼接続時の無通信時間: 秒 (但し、値が0の時は無通信監視を行いません)
 データ受信は無通信とするか: する しない

B1、B2共通:
 着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック: する しない
 着信時、相手をPPP認証: する しない
 発呼時、相手をPPP認証: する しない
 装置連続接続リミッターは、 利用しない 時間後に設定する

- [接続方法]
手動接続するか自動接続するかを選択します。
- [自局電話番号]
自局のISDN番号を入力します。
- [自局サブアドレス]
自局のISDNサブアドレスを入力します。
- [契約番号での着信]
グローバル着信を受け付けるかどうかを設定します。
- [発呼接続時の無通信時間]
ISDN発呼時、ここで設定した時間、通信がなければISDNを切断します。
- [着呼接続時の無通信時間]
ISDN着呼時、ここで設定した時間、通信がなければISDNを切断します。
- [データ受信は無通信とするか]
データ受信を通信とは判断するかどうかを選択します。無通信とした場合、データ受信だけが続けても無通信時間に設定した時間が経過した場合は、ISDNを切断します。
- [着信時の発信者番号 (相手の電話番号) チェック]
登録した相手以外からの着信を受け付けるかどうかを選択します。
- [着信時、相手をPPP認証]
着信時に相手のPPP認証を行うかどうかを選択します。PPP認証を行う場合は相手ごとにID・パスワードを設定します。(➡P227)
- [発呼時、相手をPPP認証]
発呼時に相手のPPP認証を行うかどうかを選択します。PPP認証を行う場合は相手ごとにID・パスワードを設定します。
- [装置連続接続リミッター -]
発呼・着呼にかかわらず、連続でISDNがつながりっぱなしになった場合、異常と判断し装置を使用できない状態になってしまうかどうか、および許容時間を設定します。使用できない状態になった場合、リセットしないと復旧できません。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

ダイヤルアップ接続するときに使用する認証IDとパスワードを合計4つまで設定することができます。4つのうち1つは簡単設定で設定した認証IDとパスワードが設定済みになっています。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録] をクリックします。

3 認証IDとパスワードを設定します。

ダイヤルアップ接続用認証データの複数登録

認証ID	パスワード
1. kantansetteidesetteishitaID	kantansetteidesetteishitapassword
2. <input type="text"/>	<input type="text"/>
3. <input type="text"/>	<input type="text"/>
4. <input type="text"/>	<input type="text"/>

• [認証ID]

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザID (ホスト名称) を入力します。半角英数字127文字以内で入力してください。ルータの簡単設定の中の [ISDNダイヤルアップ接続] で設定したユーザID (ホスト名) がデフォルトとなります。

• [パスワード]

CHAP認証またはPAP認証機能を使用する場合の応答用パスワードを入力します。

プロバイダを使用する場合は、プロバイダから指定されたユーザパスワードを入力します。半角英数字32文字以内で入力してください。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ回線接続先の登録

ダイヤルアップ接続を行うときは、接続先の相手を最大20件まで登録できます。ISDN回線のリモートターゲットとリモートターゲットのISDN番号、発着信認証モードとパスワードなどの設定を行います。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ダイヤルアップ回線接続先の登録] をクリックします。
- 3 登録先を追加またはレコードを選択します。
新規または追加でISDN回線接続先を登録するときは、[新規登録] をクリックします。
- 4 相手の電話番号、サブアドレスと認証データを設定します。

ダイヤルアップ回線接続先の登録

相手の電話番号とサブアドレス	
電話番号	サブアドレス
1. <input type="text"/>	<input type="text"/>
2. <input type="text"/>	<input type="text"/>
3. <input type="text"/>	<input type="text"/>

next_gatewayとして接続する時の回線インタフェース [ISDN1 ▼]
 ダイヤルアップ接続時の認証データは [1 ▼] 番目の内容を使用する

- [相手の電話番号]
宛先のISDN番号を市外局番から入力します。
3桁～32桁で入力してください。
- [相手のサブアドレス]
サブアドレスを使用するときは半角英数字19文字以内で入力してください。
- [next_gatewayとして接続するときの回線インタフェース]
接続する際に使用するインタフェースを選択します。
- [ダイヤルアップ接続時の認証データ]
ダイヤルアップで接続するときに使用する認証データのグループ番号を選択します。グループ番号は「ダイヤルアップ接続用認証データ複数登録」で設定します。

ワンポイント

登録済みのISDN回線接続先を修正または削除するときは

手順3で、修正または削除するレコード番号をクリックしてください。レコード内容が表示されたら、内容の修正または削除をクリックして選択します。

以降の操作は新規登録時と同じ操作です。

5 着信時の認証方法などを設定します。

- [着信時の相手認証用ID]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信IDを入力します。また回線を接続する際、相手の名称としてこのIDを指定します。(☞P253)
- [着信時の相手認証用パスワード]
外部からアクセスがあったときに、認証に使用する着信パスワードを入力します。
- [着番号読み飛ばし桁数]
着番号読み飛ばし桁数を0～31の範囲で入力します。

6 PIAFS接続の有無を設定します。

PIAFSを使った接続を利用するときは、[する] をクリックしてください。PIAFS接続をする場合は、64K (ギャランティ方式、ベストエフォート方式)、32Kのどちらかを選択してください。

PIAFS接続: しない する(32k) する(64k:ギャランティ方式) する(64k:ベストエフォート方式)

7 コールバック受付の設定をします。

接続先から本装置に対し電話をかけ直すように要求があった場合に、かけ直しをするかどうかを設定します。コールバックを受付るときは、[する(無課金)] [通知された所へする] [登録している所へする] の中から選択します。

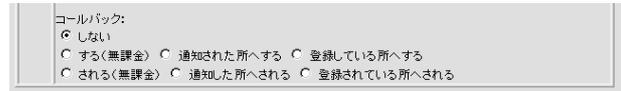
コールバック:
 しない
 する(無課金) 通知された所へする 登録している所へする
 される(無課金) 通知した所へされる 登録されている所へされる

次ページへ続く

4
使う
ルータ機能
を

8 コールバック要求の設定をします。

本装置から接続先に電話をかけて、接続は行わずに本装置の電話番号だけを接続先に通知し、接続先から本装置に電話をかけ直して接続することができます。コールバック要求を行うときは、[される(無課金)] [通知した所へされる] [登録されている所へされる]の中から選択します。



9 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

10 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(P41)

DHCPサーバ機能

本装置に接続している端末に対して、自動的にIPアドレスを割り付けるかどうかを設定します。自動的にIPアドレスを割り付けない場合は、各端末それぞれに手動でIPアドレスを割り付けてください。

DHCPサーバ機能が「on」の時、DHCPアロケート開始アドレス（配布先端末の指定で指定されたIPアドレス）から始まり、DHCPアロケート数（割り付け可能なIPアドレスの個数）分のIPホストアドレスを割り付けます。DHCPアロケートアドレスが 0.0.0.0 の場合は、LANインタフェースに設定されたIPアドレスが属するネットワーク番号内の最初のホストアドレスからDHCPアロケート数で示される分のIPホストアドレスを割り付けます。

「IPアドレス」が割り付け可能かどうかはARPによりチェックします。（ARPの応答がタイムアウトした内容を配信可能アドレスとします。）

1 ルータの[便利な設定]をクリックします。

2 [DHCPサーバ機能]をクリックします。

3 本装置のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[ON]をクリックします。

DHCPサーバ機能

DHCPサーバ機能: OFF ON

次ページへ続く

4
ルータ機能
を使う

4 DHCPサーバの動作と配信データの設定をします。

以降はDHCPサーバ機能がONの時有効となります。

配信IPアドレスの開始値:

LANインタフェースIPアドレスの次から開始する
 [][][][] の値から開始する

デフォルトゲートウェイの通知: しない する

ドメイン名称の通知: しない する
 通知するドメイン名称: [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

DNSアドレスの通知: しない する

DNSプライマリアドレス: [][][][]
 DNSセカンダリアドレス: [][][][]

WINSアドレスの通知: しない する

WINSプライマリアドレス: [][][][]
 WINSセカンダリアドレス: [][][][]

- [配信IPアドレスの開始値]
 配信IPアドレスの開始値を、LANインタフェースのIPアドレスの次から開始するのか、または指定したIPアドレスから開始するのかを選択します。指定したIPアドレスから開始するときは、IPアドレスを入力してください。
- [デフォルトゲートウェイの通知]
 DHCPサーバを利用する時、LANインタフェースのアドレスをデフォルトゲートウェイとして通知するかどうかを選択します。
- [ドメイン名称の通知]
 ドメイン名称を通知するかどうかを選択します。通知するときは、ドメイン名称を半角英数字40文字以内で入力してください。
- [DNSアドレスの通知]
 DNSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、DNSサーバ(ネームサーバ)のIPアドレスを入力してください。セカンダリまで設定できます。
- [WINSアドレスの通知]
 WINSアドレスを通知するかどうかを選択します。通知するときは、NetBIOSサーバのIPアドレスを入力します。最大2件まで登録できます。

お知らせ

DHCPサーバを使用するにはサーバからIPアドレスを取得する設定が、クライアント側に必要です。

5 DHCPスタティック登録をします。

最大16件まで登録することができます。

配付アドレスのスタティック登録:

	配付先端末の指定 MACアドレス						配付するIPアドレス								
1.	<input type="text"/>														
2.	<input type="text"/>														
3.	<input type="text"/>														
4.	<input type="text"/>														
5.	<input type="text"/>														
6.	<input type="text"/>														
7.	<input type="text"/>														
8.	<input type="text"/>														
9.	<input type="text"/>														
10.	<input type="text"/>														
11.	<input type="text"/>														
12.	<input type="text"/>														
13.	<input type="text"/>														
14.	<input type="text"/>														
15.	<input type="text"/>														
16.	<input type="text"/>														

- [配付先端末の指定]
配付先の端末を指定するためにMACアドレスを入力します。
- [配付するIPアドレス]
端末に対して割り付けるIPアドレスを入力します。

6 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

7 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 41)

NAT⁺機能

アドレス変換とアドレス変換スタティックを設定することができます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [NAT⁺機能] をクリックします。
- 3 本装置のNAT⁺機能を使用する場合は、[ON] をクリックします。

NAT機能

NAT機能: OFF NAT ON NAT⁺ON

- 4 NAT⁺機能を有効にするインタフェースをクリックします。

以降はNAT又はNAT⁺機能がONの時有効となります。

NAT又はNAT⁺機能を効かせるインタフェース:

専用線 ISDN1 ISDN2 ASYNC DP

[NATスタティック登録](#)

[NAT⁺スタティック登録](#)

- 5 NATスタティック登録とNAT⁺スタティック登録を行います。

NATスタティック登録 (← P 233)

NAT⁺スタティック登録 (← P 234)

- 6 [送信] ボタンをクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 7 [OK] ボタンをクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

NATスタティック登録

LAN側のIPアドレス(ローカルアドレス)とWAN側のIPアドレス(グローバルアドレス)の変換を固定的に設定することができます。16件まで登録できます。この機能はNAT機能がONのときに有効です。

1 NAT機能画面 (← P 232) で、[NATスタティック登録] をクリックします。

2 LAN側アドレスとWAN側アドレスを設定します。

LAN側アドレスとWAN側アドレスの間でIPアドレス変換が行われるようにデータを登録します。

	LAN上の端末指定 IPアドレス	外部に見えるIPアドレス
1.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
3.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
4.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
5.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
6.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
7.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
8.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
9.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
10.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
11.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
12.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
13.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
14.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
15.	<input type="text"/>	<input type="text"/>
16.	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- [LAN上の端末指定]
NATで変換するときのLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [外部に見えるIPアドレス]
NATで変換後のIPアドレスを入力します。

3 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(← P 41)

ルータの便利な設定

NAT⁺スタティック登録

IPの宛先ポートにより、変換するローカルアドレスを指定することができます。
 例えば、ポート5000番宛ての通信はローカル端末Aのポート200番宛てに変換し、ポート5001番宛ての通信はローカル端末Bのポート300番宛てに変換することができます。
 NAT⁺を利用すると、ダイヤルアップ端末型で契約した場合でも、外部からローカル端末にアクセスすることができます。設定には、ローカル端末のIPアドレス・ポート番号・グローバルアドレスを設定します。32件まで登録できます。この機能はNAT⁺機能がONのときに有効です。

- 1 NAT機能画面（←P232）で、[NAT⁺スタティック登録] をクリックします。
- 2 ポート番号まで含めたアドレス変換スタティックを設定します。

NAT⁺スタティック登録

この登録はNAT⁺機能がONの時有効となります。

削除	LAN上の端末指定		外部に見えるIPアドレスとポート番号	
	IPアドレス	ポート番号	接続先より配布されるアドレスを	ポート番号範囲
1. <input type="checkbox"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="radio"/> 使用する	<input type="radio"/> 使用しない <input type="text"/> ~ <input type="text"/>

- [LAN上端末のIPアドレス]
NAT⁺で変換するときのLAN側端末のIPアドレスを入力します。
- [LAN上端末のポート番号]
LAN側端末のポート番号を0～65535の範囲で入力します。
- [外部に見えるIPアドレス]
接続先から割り付けられる値を使用するかしないかを選択します。使用しない場合は、NAT⁺変換後のIPアドレスを入力します。
- [外部に見えるポート番号]
外部用に割り付けるポート番号を0～65535の範囲で入力します。

- 3 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 4 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。（←P41）

ワンポイント

登録済みのアドレス変換スタティックを削除するときは
 手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

syslogの送信

Syslogを指定先に送信するかどうかを設定します。Syslogサーバと送信するログの種類も設定することができます。

1 ルータの [便利な設定] をクリックします。

2 [syslogの送信] をクリックします。

3 syslogの送信設定をします。

 しない する', a note '以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。', 'syslogを受け取る端末のIPアドレス: 0 | 0 | 0 | 0', 'tlog(errレベル)で送信: しない する', 'elog(warningレベル)で送信: しない する', 'llog(infoレベル)で送信: しない する', 'alog(infoレベル)で送信: しない する', and 'vlog(infoレベル)で送信: しない する'."/>

syslogの送信

syslogの送信: しない する

以降はsyslogの送信を行う時に有効となります。

syslogを受け取る端末のIPアドレス: 0 | 0 | 0 | 0

tlog(errレベル)で送信: しない する

elog(warningレベル)で送信: しない する

llog(infoレベル)で送信: しない する

alog(infoレベル)で送信: しない する

vlog(infoレベル)で送信: しない する

- [syslogの送信]
syslogを送信するかどうかを選択します。
- [syslogを受け取る端末のIPアドレス]
本装置が送信するsyslogを受信するsyslogサーバのIPアドレスを設定します。
- [tlog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、errレベルでtlogを送信するかどうかを選択します。
- [elog(warningレベル)で送信]
syslog機能を使用して、warningレベルでelog(エラーログ)を送信するかどうかを選択します。
- [llog(infoレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでllog(LAN・WAN回線の状況)を送信するかどうかを選択します。
- [alog(errレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでalog(接続要因パケットログ)を送信するかどうかを選択します。
- [vlog(infoレベル)で送信]
syslog機能を使用して、infoレベルでvlog(イベントログ)を送信するかどうかを選択します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

4
使う
ルータ
機能
を

ルータの便利な設定

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

登録してあるパケットだけにISDN回線の接続が許可されます。登録されているパケットがないときは、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。4件まで登録できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [ISDN回線の接続が可能なパケットの指定] をクリックします。
- 3 パケットを指定します。

ISDN回線の接続が可能なパケットの指定

ここへ登録されているパケットが何も無い場合は、すべてのパケットに対してISDN回線の接続が許可されます。

削除	パケット送信元指定				パケット受信先指定				プロトコル	
	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲	IPアドレスとマスク長	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	tcp/udp								
2	<input type="checkbox"/>	tcp/udp								
3	<input type="checkbox"/>	tcp/udp								
4	<input type="checkbox"/>	tcp/udp								

- [パケット送信元指定]
ISDNの発信を許可するパケットの発行元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [パケット受信先指定]
ISDNの発信を許可するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力してください。
- [プロトコル]
ISDNの発信を許可するパケットのプロトコルを全て、tcp/udp、icmp、tcp、udp、任意の中から選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

ワンポイント

登録済みのパケットを削除するときは手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

IPパケットフィルタリング

中継用・遮断用それぞれに、宛先IPアドレス、送信元IPアドレス、プロトコルを指定して、その条件に合ったデータを中継または遮断するように設定することができます。中継用は32件、遮断用は16件まで設定できます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [IPパケットフィルタリング] をクリックします。
- 3 IPパケットフィルタリング機能を使うときは、 [ON] をクリックします。

IPパケットフィルタリング

IPパケットフィルタリング機能: OFF ON

- 4 中継するIPパケットまたは遮断するIPパケットを登録します。

中継するIPパケットの登録を行う (← P 238)

上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う

(← P 239)

以降はIPパケットフィルタリング機能がONの時有効となります。

中継するIPパケットの登録を行う

上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う

特定のIPパケットを中継したくない場合は、中継するIPパケットとして「全て」を登録してから、中継したくないIPパケットの登録に特定のIPパケットを登録して下さい。

- 5 中継または遮断するIPパケットの登録が終わったら、 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。

(← P 41)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

お知らせ

本装置では、自動でUDPのポート番号137～139発/宛のパケットを切断するエントリが追加されます。

中継するIPパケットの登録

中継するIPパケットを登録します。32件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。特定のIPパケットだけを遮断するときは、ここではすべてのIPパケットを中継するように登録し、中継したくないIPパケットだけを別途登録してください。(☞P239)

1 IPパケットフィルタリング画面(☞P237)で、[中継するIPパケットの登録を行う]をクリックします。

2 中継するIPパケットを設定します。

中継するIPパケットの登録

ここへ登録されているIPパケットだけが中継の対象となります。

順 除	パケット送信元指定			パケット受信先指定			プロトコル	インタフェース指定
	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	送信: 受信: established						

- [パケット送信元指定]
中継するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [パケット受信先指定]
中継するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [プロトコル]
中継する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。
- [インタフェース指定:受信]
中継する受信インタフェースを選択します。
- [インタフェース指定:送信]
中継する送信インタフェースを選択します。

3 [送信]をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK]をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(☞P41)

ワンポイント

登録済みの中継するIPパケットを削除するときは
手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして[送信]を押します。

中継しないIPパケットの登録

中継の対象となっているIPパケットのうちで遮断するIPパケットを登録します。16件まで登録できます。この機能はIPパケットフィルタリング機能がONのときに有効です。

1 IPパケットフィルタリング画面(←P237)で、
[上記登録中から中継したくないIPパケットの登録を行う]をクリックします。

2 遮断するIPパケットを設定します。

中継しないIPパケットの登録

中継の対象となったIPパケットの内、遮断したいIPパケットを指定します。

IPパケット送信元指定			IPパケット受信先指定			プロトコル	インタフェース指定
IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲	IPアドレス	IPアドレスマスク	ポート番号範囲		
1	<input type="checkbox"/>	eth0	受信: [OK] 送信: [OK]				
						established	

- [パケット送信元指定]
遮断するパケットの送信元のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [パケット受信先指定]
遮断するパケットの宛先のIPアドレス、IPアドレスマスク、ポート番号を入力します。
- [プロトコル]
遮断する指定プロトコルを選択します。任意を選択したときは、0～255の範囲でプロトコルを指定してください。
- [インタフェース指定:受信]
遮断する受信インタフェースを選択します。
- [インタフェース指定:送信]
遮断する送信インタフェースを選択します。

3 [送信]をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

4 [OK]をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

ワンポイント

登録済みの中継しないIPパケットを削除するときは
手順2で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして[送信]を押します。

4
使う
ルータ
機能を

IP RIPスタティック

ご利用になるLAN環境に複数のネットワークがあるときは、経路情報を設定することができます。WAN側またはLAN側で中継したいパケットを受け取った場合、そのパケットを送り出す先の情報を設定することができます。32件まで登録できます。中継先にはIPアドレス指定の他に、インタフェース指定ができます。

- 1 ルータの [便利な設定] をクリックします。
- 2 [IP RIPスタティック] をクリックします。
- 3 IP RIPスタティックのルート情報を設定します。

IP RIP スタティックの登録

登録	通信先指定	中継先指定	ホリック	プリファレンス
	IPアドレスとマスク長	<input type="radio"/> IPアドレス指定 <input type="radio"/> ダイアルアップ接続先指定 <input type="radio"/> インタフェース指定	ISDN ISDN	
1	0.0.0.0 / 0	0.0.0.0 / 0 ISDN	10	50

- [通信先指定]
スタティックルーティングの宛先のIPアドレスとマスク長を入力します。
- [中継先指定]
スタティックルーティングの中継先を指定します。IPアドレス、ISDN接続先指定、インタフェースの指定の中から選択します。
 - ・ IPアドレス指定 IPアドレスを入力することにより、中継先を指定します。使用する回線が高速デジタル専用線、フレームリレー以外のときは、登録済みの接続相手を入力します。
 - ・ ダイアルアップ接続先指定 登録済みの接続相手を入力することにより、中継先を指定します。
 - ・ インタフェース指定 インタフェースを選択することにより、中継先を指定します。
- [メトリック]
宛先へのメトリック値を設定します。
- [プリファレンス]
RIP との優先順位を設定します。プリファレンス値の小さい方が優先順位が高くなります。RIPは100です。

ワンポイント

登録済みのIP RIPスタティックを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

5 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

6 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

インタフェースの設定

IPルーティングの使用の有無および使用する場合のインタフェースに関する設定を行います。インターネットサービスプロバイダとISDNダイヤルアップ接続を行う場合は「インタフェースアドレス」と「リモートアドレス」とともに「0.0.0.0」を設定してください。「ブロードキャストアドレス」の設定は必要ありません。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [インタフェースの設定] をクリックします。
- 3 LANインタフェース、WAN#1インタフェース・WAN#2インタフェースを設定します。

インタフェースの設定

LANインタフェース: インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

WAN#1インタフェース:

ISDN1回線(含むMF接続)、高速デジタル専用線、フレームリレーの内、いずれかの回線をご利用になる場合に対象となります。
 フレームリレーご利用時: ポイントツーポイント選択時はアドレス値の入力は必要ありません。ブロードキャスト選択時は、ローカルDLCIの設定でIPアドレスの設定を行って下さい。

• ダウン

○ ブロードキャスト

インタフェースアドレス:
 インタフェースサブネットマスク:

○ ポイントツーポイント

インタフェースアドレス:
 相手インタフェースアドレス:
 相手インタフェースサブネットマスク:

• [LANインタフェース]

インタフェースIPアドレス、サブネットマスクを入力します。

• [WAN#1・WAN#2]

- ダウン 指定インタフェースのルーティングをOFFにします。
- ブロードキャスト インタフェースタイプがブロードキャストの時に選択します。

選択した場合は、WAN回線側のブロードキャストアドレスを入力します。

インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。インタフェースタイプがブロードキャストの場合、新規登録時に設定が省略されると、インタフェースアドレスがクラスAでは255.0.0.0、クラスBでは255.255.0.0、クラスCでは255.255.255.0が設定されます。

- ポイントツーポイント 相手インタフェースアドレスには、相手先のインタフェースアドレスを指定します。省略ができません。

相手インタフェースサブネットマスクには、インタフェースアドレスに対するサブネットマスクを設定します。

- 4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(P41)

お知らせ

装置リセット後、有効となった内容は「ルーティングインタフェースの表示」画面(ipinterfaceコマンド)で確認できます。

ProxyARPの設定

IPルーティングを使用する場合のProxyARP動作モードに関する設定を行います。

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [ProxyARPの設定] をクリックします。

3 ProxyARPの動作モードを選択します。

ProxyARPの設定

- しない
- 中継すべきアドレスのARPに答える
- 全てのアドレスのARPに答える

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

RIPの制御

IPルーティングを使用する場合のRIPの動作モードに関する設定を行います。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [RIPの設定] をクリックします。
- 3 RIPを設定します。

RIPの制御

ルーティング方法:
 ルーティングは
 スタティックのみ
 スタティックとRIPを併用する

RIPフィルタリング属性:
 受信RIPフィルタリングに設定されているエントリーに
 一致しないRIP情報を有効にする
 一致したRIP情報を有効にする
 送信RIPフィルタリングに設定されているエントリーに
 一致しないRIP情報を有効にする
 一致したRIP情報を有効にする

RIP送受信制御:

インタフェース	RIPの受信	RIPの送信	定期送信	RIPエージェント	ネットワーク
LAN	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [30] 秒毎に送信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [30] 秒で制御	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ISDN1	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒毎に送信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒で制御	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ISDN2	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒毎に送信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒で制御	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ASYNC	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒毎に送信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する [] 秒で制御	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

- [ルーティング方法]
RIPを利用したルーティング (ダイナミックルーティング) の動作を選択します。
- [受信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]
受信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。
受信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。
(☞P245)
- [送信RIPフィルタリングに設定されているエントリー]
送信RIPフィルタリング機能の動作モードを設定します。
送信RIPフィルタリングテーブルを設定してください。
(☞P246)
- [RIP送受信制御]
インタフェース毎にRIPを送信する / しない、受信する / しない、定期送信する / しない、送信間隔等を設定します。

お知らせ

ISDN、ASYNCポートにRIPを定期送信すると回線がつながりっぱなしになり思わぬ課金を請求されることがあります。ISDN、ASYNCポートにはRIPを定期送信しないようにしてください。

- 4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(☞P41)

受信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット受信時に有効にする情報を受信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。事前にRIPの制御の設定が必要です。(←P244)

1 ルータの [詳細設定] をクリックします。

2 [受信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。

3 受信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

削除	RIPの宛先IPアドレスとマスク長	受信インタフェース
<input type="checkbox"/>	□□□□□□□□ / □□□□	ISDN1

- [RIPの宛先IPアドレス]
受信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [マスク長]
宛先IPアドレスに対するマスク長を入力します。
- [受信インタフェース]
受信インタフェースを選択します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。(←P41)

4
ルータ機能
を使う

ワンポイント

登録済みの受信フィルタリングテーブルを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

送信RIPフィルタリングテーブル

RIPフィルタリング機能のフィルタリングテーブルを設定します。RIPパケット送信時に有効にする情報を送信インタフェースごとに限定することができます。40件まで設定できます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [送信RIPフィルタリングテーブル] をクリックします。
- 3 送信RIPフィルタリングテーブルを設定します。

削除	RIPの宛先IPアドレスとマスク長	送信インタフェース
<input checked="" type="checkbox"/>	1. [] [] [] [] / []	ISDN1

- [RIPの宛先IPアドレス]
送信ルーティング情報のフィルタリングの対象とする宛先IPアドレスを入力します。
- [マスク長]
宛先IPアドレスに対するマスク長を入力します。
- [送信インタフェース]
送信インタフェースを選択します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ワンポイント

登録済みの送信フィルタリングテーブルを削除するときは
手順3で、削除するレコードのチェックボックスをチェックして [送信] を押します。

ルート情報提供ルータの指定

有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ルート情報提供ルータの指定] をクリックします。
- 3 有効なルーティング情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを登録または削除します。

装置導入時は未設定です。



- [該当ルータのIPアドレス]
有効な情報を提供してくれるゲートウェイのIPアドレスを入力します。

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

4
使う
ルータ機能
を

ブリッジングの設定 (FITElnet-E30のみ)

FITElnet-E30では、TCP/IP以外のデータをブリッジングすることができます。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [ブリッジングの設定] をクリックします。
- 3 ブリッジングを利用するかどうかを選択します。

ブリッジングの設定

- 利用しない
- 利用する

- 4 [送信] をクリックします。
設定内容がFITElnet-E30に送信され、確認画面が表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。
設定内容を有効にするには、FITElnet-E30のリセットが必要です。(← P 37)

データリンクの設定

BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

- 1 ルータの [詳細設定] をクリックします。
- 2 [データリンクの設定] をクリックします。
- 3 BACPの動作モードとデータリンクに関する項目を設定します。

データリンクの設定

BACP:

利用しない
 利用する

BACPを利用する場合、そのプロトコルは

新版を利用する
 旧版を利用する

回線毎の設定

	フラグ同期監視	データ圧縮	圧縮方法	TCP/IPヘッダ圧縮	ダイヤルアップ回線手動接続運用時のインタフェースモード
HSD	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> 接続相手に合わせる <input type="radio"/> 接続相手に構わずする	手順: <input checked="" type="radio"/> RFCに準拠する <input type="radio"/> 独自手順を利用する プロトコルフィールド: <input type="radio"/> 含む <input checked="" type="radio"/> 含まない	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> β1セッションを対象とする	---

次ページへ続く

4
使
う
ル
ー
タ
機
能
を

- [フラグ同期監視]
WAN回線上のフラグ同期監視モードを指定します。
- [BACP]
R-BODを実現するための手順です。ここでは、BACPを利用するかどうかを選択します。利用する場合は、新版と旧版のどちらのプロトコルを利用するか選択してください。
- [データ圧縮]
データ圧縮の方法を選択します。
 - ・しない データの圧縮動作を行いません。
 - ・接続相手に合わせる 接続相手と圧縮アルゴリズムのネゴシエーションを行います。ネゴシエーションが完了すれば圧縮データの送受信を行い、完了できなければ圧縮データの送受信は行いません。
 - ・する ネゴシエーションを行い、その結果にかかわらず圧縮データの送受信を行います。データ圧縮の方法は、接続相手と同じものを選択してください。[データ圧縮する場合]を設定してください。
- [データ圧縮する場合]
< データ圧縮指定 >
 - ・RFCに準拠する RFC1974準拠に従った圧縮が行われます。
 - ・独自手順を利用する RFC1974に準拠していない一部の圧縮に対応します。
 < データ圧縮プロトコルフィールド圧縮指定 >
 - ・プロトコルフィールドを含む PPPプロトコルフィールドの圧縮を行います。
 - ・プロトコルフィールドを含まない PPPプロトコルフィールドの圧縮を行いません。
- [TCP/IPヘッダ圧縮]
TCP/IPヘッダ圧縮をするかどうか選択します。ヘッダ圧縮を行う場合は、対象とするコネクションの数を入力してください。
- [ダイヤルアップ回線手動接続運用時のインタフェースモード]
ISDNが切断されている場合に、ISDNの先の情報を有効にするかどうかを指定します。

4 [送信] をクリックします。

設定内容が本装置に送信され、確認画面が表示されます。

5 [OK] をクリックします。

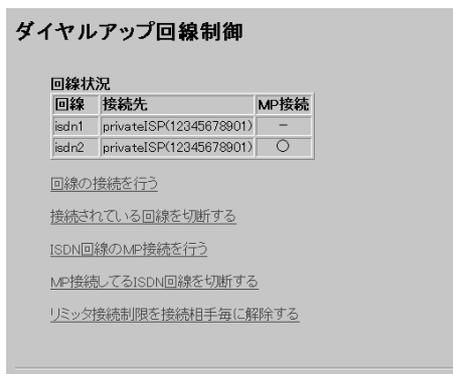
設定内容を有効にするには、本装置のリセットが必要です。
(← P 41)

ダイヤルアップ回線制御

回線の接続と切断などダイヤルアップ接続時に使用する機能が [ダイヤルアップ回線制御] にまとめられています。[ダイヤルアップ回線制御] 画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

ダイヤルアップ回線制御画面を表示する

- 1 [ダイヤルアップ回線制御] をクリックします。[ダイヤルアップ回線制御] 画面が表示されます。



FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信) の情報も表示されます。

- 2 制御したい項目をクリックします。

- 回線の接続を行う (☞P252)
- 接続されている回線を切断する (☞P254)
- ISDN回線のMP接続を行う (☞P256)
- MP接続しているISDN回線を切断する (☞P257)
- リミッタ接続制限を接続相手ごとに解除する (☞P258)

ISDN回線を接続する(connectコマンド)

ISDNの接続は、通常はLANからの送信データを受け自動的に行われます。ここでは、手動でISDNを接続する方法を説明します。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[回線の接続を行う]をクリックします。

[回線の接続を行う]画面が表示されます。

2 接続する回線や接続先を設定します。

回線の接続を行う

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

接続する回線: ISDN1 接続先: remotetarget100

無通信監視時間: 60 秒 (0は無制限、最大3600まで有効)

FITELnet-E30ではmodem回線、dp(Dチャンネルパケット通信)の制御も行うことができます。

• [接続する回線]

ISDN1チャンネルとISDN2チャンネルのうち、接続に使用する回線を選びます。

• [接続先]

接続するアクセスポイントなどのISDNリモートターゲットを選びます。

• [無通信監視時間]

通信相手とデータのやりとりがないときに、通信を切断することができます。監視する場合は、監視時間を秒単位で設定します。最大3600秒まで設定できます。無通信監視を設定しない場合は、0を設定してください。

3 [送信]をクリックします。

回線が接続されます。

<コマンド操作>

- 1 「connect」に続いて、接続したいチャンネルと接続相手の名前を入力します。接続相手の名前は、P225で設定します。

データがなくなってからISDNを切断するまでの時間(秒)を指定することができます。

(例) B1チャンネルで、tokyoに接続する。30秒間データがなかったら、ISDNを切断する。

```
#connect -1 Tokyo -i 30
```

- 2 回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#connect -1 Tokyo  
(Tokyo)  
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

接続に失敗した場合は、P287をご覧ください。

4
使う
ルータ機能

お知らせ

[-i] を省略した場合は、発呼時に無通信監視時間を監視して回線を切る時間の設定に従います。

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線を切断する（disconnectコマンド）

ISDNの切断は、中継データがなくなったことにより自動的に行われます*。ここでは、手動でISDNを切断する方法を説明します。

*本装置は、中継データを監視し、60秒間中継データがない場合にISDNを切断します。

< Webブラウザ操作 >

1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[接続されている回線を切断する]をクリックします。

[接続されている回線を切断する]画面が表示されます。

2 [切断する回線]の中から、切断したい回線を選びます。

接続されている回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

切断する回線:

FITELnet-E30ではmodem回線、dp（Dチャンネルパケット通信）の制御も行うことができます。

・ [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

・ [切断する回線]

切断する回線を選びます。

3 [送信]をクリックします。

回線が切断されます。

<コマンド操作>

1 「disconnect」と入力します。

```
#disconnect
```

2 切断したい相手を選択します。

「both」は両方のBチャンネルを切断します。接続している回線が1回線の場合は、この問い合わせはありません。
(例) Tokyo、Osakaと接続していて、両方を切断する場合

```
#disconnect  
Select line (1.Tokyo 2.Osaka 3.both) 3
```

3 回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx)] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P287をご覧ください。

4
ルータ機能
を使う

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、本装置の電源をOFFにし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。
回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

ISDN回線のMP接続を行う (Isplitコマンド)

トラフィックを分散するための回線接続は、ISDN回線の負荷により自動的に行われます。ここでは、手動でトラフィック分散回線を接続する方法を説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[ISDN回線のMP接続を行う]をクリックします。

[ISDN回線のMP接続を行う]画面が表示されます。

- 2 [送信]をクリックします。

通常回線の接続先にMP接続が行われます。

ISDN回線のMP接続を行う

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

通常回線接続先に対してMP接続を行う

FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信)の情報も表示されます。

- [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit on」と入力します。

```
#Isplit on
```

- 2 トラフィック分散回線を接続し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

接続に失敗した場合は [***Command error.(errcode=xxxx).]と表示されます。

接続に失敗した場合は、P287をご覧ください。

お知らせ

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

注意

トラフィック分散を行うと、ISDN回線を2チャンネル接続することになり、ISDNの料金は2倍かかります。

MP接続しているISDN回線を切断する（Isplitコマンド）

MP接続を手動で解除する方法について説明します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[MP接続しているISDN回線を切断する]をクリックします。

[MP接続しているISDN回線を切断する]画面が表示されます。

- 2 [送信]をクリックします。

MP接続が切断されます。

MP接続してるISDN回線を切断する

回線状況

回線	接続先	MP接続
isdn1	privateISP(12345678901)	—
isdn2	privateISP(12345678901)	○

MP接続を解除する

FITELnet-E30ではmodem回線、dp（Dチャンネルパケット通信）の情報も表示されます。

- [回線状況]

現在使われている回線状況が表示されます。

4
ルータ機能
を使う

< コマンド操作 >

- 1 「Isplit off」と入力します。

```
#Isplit off
```

- 2 トラフィック分散回線を切断し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

切断に失敗した場合は [***Command error. (errcode=xxxx).] と表示されます。

切断に失敗した場合は、P287をご覧ください。

お知らせ

コマンドを実行しても切断できない場合は、本装置の電源をOFFし、ご使用のネットワーク環境をご確認ください。

回線の接続状況は、lineisコマンドで知ることができます。

リミッタを解除する (unlockコマンド)

接続相手ごとのリミッタ状況を表示します。リミッタが働いていて接続不可能になっている接続先のリミッタが解除できます。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [ダイヤルアップ回線制御]画面で、[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する]をクリックします。

[リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する]画面が表示されます。

- 2 [リミッタ接続制限を解除する接続先]の中から、リミッタを解除する接続先を選びます。

リミッタ接続制限を接続相手毎に解除する

接続制限状況	
接続先	状況
	連続 連続回数
Tokyo	- -
Osaka	○ -

-:リミッタ監視対象外
○:リミッタ監視中
×:リミッタ接続制限中

リミッタ接続制限を解除する接続先: Tokyo

•[接続制限状況]

接続先ごとに接続制限状況が表示されます。

接続形態	説明
-	リミッタの監視対象外の接続先です。
○	リミッタが監視中の接続先です。
×	リミッタが働いていて、接続が不可能な接続先です。

- 3 [送信]をクリックします。

リミッタが解除され、接続できるようになります。

< コマンド操作 >

- 1 すべての接続先のリミッタを解除するには、「unlock all」と入力します。

(例) すべての接続先のリミッタを解除する

```
#unlock all
```

- 2 接続先のリミッタを解除し、コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

お知らせ

targetisコマンドで表示されるlimiterStatusの項目で、接続先ごとのリミッタの状況を知ることができます。

インフォメーション

通信ログなど本装置の運用やメンテナンスに必要な情報をインフォメーションで表示することができます。[インフォメーション]画面を表示し、メニューの中から使用する機能を選択してください。

インフォメーション画面を表示する

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]をクリックします。
[インフォメーション]画面が表示されます。

2 表示したい項目をクリックします。

インフォメーション

[装置について](#)
[ダイヤルアップ接続先情報の表示](#)
[通信状態の表示](#)
[統計情報の表示](#)
[ルーティングインタフェースの表示](#)
[ルーティング状態の表示](#)
[DHCPの状態表示](#)
[NAT+の状態表示](#)
[エラーログの表示](#)
[回線ログの表示](#)
[接続要因パケットログの表示](#)
[イベントログの表示](#)

- 装置に付いて (☞P260)
- ダイヤルアップ接続先情報の表示 (☞P261)
- 通信状態の表示 (☞P263)
- 統計情報の表示 (☞P265)
- ルーティングインタフェースの表示 (☞P269)
- ルーティング状態の表示 (☞P271)
- DHCPの状態表示 (☞P272)
- NAT+の状態表示 (☞P274)
- エラーログの表示 (☞P275)
- 回線ログの表示 (☞P276)
- 接続要因パケットログの表示 (☞P278)
- イベントログの表示: 装置にログインされた情報を表示します。

装置情報を表示する (hereis コマンド、 uptime コマンド、 date コマンド)

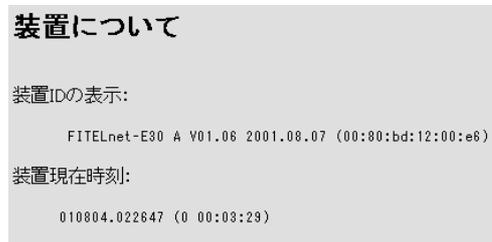
本装置のID、システムアップ時間、現在時刻を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、 [装置について] をクリックします。

[装置について] 画面が表示されます。

ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。



画面のみかた

項目	説明
装置IDの表示	装置を識別する内容として次を表示します。 装置名/装置版数/ファームウェア版数と作成日/装置のMACアドレス
装置現在時刻	現在時刻として、年月日時分秒を設定 / 表示します。

< コマンド操作 >

項目	説明
装置IDの表示	hereis
装置現在時刻	date

1 「 hereis 」, 「 date 」 のいずれかを入力します。

(例) 本装置のIDを表示する。

```
#hereis
```

2 本装置のIDが以下のように表示されます。

```
#hereis :  
description : FITEInet-E30 A V01.06 2001.08.07 ( 00:80:bd:12:00:e6 )  
node :  
manager :
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ダイヤルアップ接続先情報を表示する (targetis コマンド)

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[ダイヤルアップ接続先情報の表示] をクリックします。

ダイヤルアップの接続先に関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。同一のISDN番号に対して複数のターゲット名が登録されている場合 (トラヒック分散を用いる場合等)、複数のターゲットに対する課金リミッタの情報は、最初に登録されたターゲットが対象となります。

ダイヤルアップ接続先情報の表示

```
<Tokyo>  
contlimiterStatus:off  
maxPeriod:8000(sec) currentPeriod:0(sec) previousPeriod:0(sec)  
calllimiterStatus:off  
maxCalling:40(times) currentCalling:0(times) previousCalling:0(times)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:  
dialcheckMask:0  
<Osaka>  
contlimiterStatus:normal  
maxPeriod:8000(sec) currentPeriod:0(sec) previousPeriod:0(sec)  
calllimiterStatus:off  
maxCalling:40(times) currentCalling:0(times) previousCalling:0(times)  
connectSpeed:64(Kbps)  
hostName:  
dialcheckMask:0
```

< 表示内容 >

- ターゲット名称
- ターゲットISDN番号とISDNサブアドレス
- 課金リミッタの状態 (off,normal,which is bombarded)
- リミッタ機能停止
- 連続接続最大時間
- 現在または最新の連続接続時間
- 接続回線速度
- 自ホスト名称
- 読み飛ばす桁数

4
使
ル
う
タ
機
能
を

< コマンド操作 >

1 「targetis」と入力します。

```
#targetis
```

2 ダイヤルアップの接続先情報が表示されます。

```
<aite>
03xxxxxxx limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<aite-ls>
03yyyyyyy limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:default
<test>
06zzzzzzz limiterStatus:off
connectMax:0 ( sec ) connectCurrent:0 ( sec )
connectSpeed:64 ( Kbps )
hostName:
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

通信状態を表示する (chargeコマンド、 lineisコマンド)

通信状態の表示では、ISDNを使用した課金情報と回線情報を表示することができます。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[通信状態の表示] をクリックします。

課金情報と回線情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

通信状態の表示

課金情報:

```
ISDN1 routing total charge(yen):      0
ISDN2 routing total charge(yen):      0
TEL1 charge(yen):          0 total charge(yen):      0
TEL2 charge(yen):          30 total charge(yen):      0
```

課金情報のみかた

上記の例では、B1チャンネルでのルーティング (ISDN1 routing total charge (yen)) に0円、B2チャンネルでのルーティング (ISDN2 routing total charge (yen)) に0円かかっていることがわかります。

TEL1 charge (yen) は、最新のTEL1ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL1ポートの課金情報を表示します。TEL2 charge (yen) は、最新のTEL2ポートの課金情報を、total charge (yen) は、TEL2ポートの課金情報を表示します。

回線情報:

```
<LAN>
interface:ISDN802-3
<HSD>
speed: 0 (kba)
operationStatus:clear layer1Status:other
<I>
0469251672*1234567
operationStatus:clear layer1Status:up connectStatus:notconnected
Usage:normal
Target:Test(#1234)
maxRetryCalling:1 times idleStatustimer:60(sec) congestionTimer:1(sec)
continuousConnectionCurrentTime:0(minutes)
```

回線情報のみかた

接続形態	説明
LAN回線	<ul style="list-style-type: none"> 回線インタフェース名 (interface)
HSD	<ul style="list-style-type: none"> 回線速度 (speed) 回線使用状態 (operationStatus) HSD回線の状態 (layer1Status)
ISDN	<ul style="list-style-type: none"> 回線使用状態 (operationStatus) ISDN回線の状態 (layer1Status) チャンネルの状態 (connectStatus) 回線運用状態 (Usage) 接続相手 (target) 発呼最大リトライ回数 (maxRetryCalling) 無通信監視タイマ (idleStatustimer) 輻輳監視タイマ (congestionTimer) 連続接続時間 (continuousConnectionCurrentTime) フレックスホン契約状況

<コマンド操作>

- 1 課金情報を表示するには「charge」、回線情報を表示するには「lineis」と入力します。

(例) 課金情報を表示する。

```
#charge
```

- 2 本装置の持つ課金情報が、以下のように表示されます。

```
ISDN1 routing total charge (yen) :      0
ISDN2 routing total charge (yen) :      0
TEL1 charge (yen) :      0 total charge (yen) :      0
TEL2 charge (yen) :      30 total charge (yen) :      0
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

統計情報を表示する (stchannelコマンド、 stipコマンド)

統計情報の表示では、回線統計情報とルーティング統計情報を表示することができます。
回線統計情報として、現在、ルーティングで使用しているチャンネルの統計を表示します。
IPルーティングの統計情報では次の項目を表示します。

- IPパケット統計情報
- ICMPパケット統計情報
- UDPパケット統計情報
- TCPパケット統計情報
- RIPパケット統計情報

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[統計情報の表示] をクリックします。

回線統計情報とルーティング統計情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

```

統計情報の表示

回線統計情報:

<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames           :  0
collision count             :  6
</lan>
<hsd>
congestion count           :  0
HSD error count            :  0
</hsd>
<1>
congestion count           :  0
load split count           :  0 load split error count:  0
total time(sec)            :  0 total charge(yen):  0
call setup count           :  0 call error count   :  0
call busy count            :  0
</1>
<2>
congestion count           :  0
total time(sec)            :  0 total charge(yen):  0
call setup count           :  0 call error count   :  0
call busy count            :  0

ルーティング統計情報:

<IP>
in packet                   : 10846 in discard packet : 4506
in header error packet      :  0 in address error packet:  0
out request packet          :  880 out discard packet :  0
forward packet              :  0 no route packet      :  0
</IP>
in message packet           :  19 in error packet    :  0
out message packet         :  3 out error packet    :  0
</UDP>
in datagram packet          : 8186 in error packet    :  867
no port packet              :  0 out datagram packet: 764
</TCP>
in segment packet           : 235 out segment packet: 163
in error packet             :  0 passive open count:  4
</RIP>
in packet                   : 5189 sent packet        : 756
out request packet          :  1 in reply packet    : 5178
flash update packet        :  0 send error packet  :  0
bad receive packet         :  0
    
```

LAN

項目	意味
alignment error frames	フレーム長がオクテット整数でなく、FCSチェックにもエラーした受信フレームの総数
FCS error frames	フレーム長はオクテット整数だがFCSエラーで廃棄された受信フレーム総数
collision count	コリジョン発生回数

HSD

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
HSD error count	通常回線障害発生回数

4
使う
ルータ機能
を

ISDN

項目	意味
congestion count	輻輳発生回数
load split count	トラヒック分散回線の接続回数
load split error	トラヒック分散回線の障害発生回数
total time	ISDNの接続時間の合計（秒）
total charge	ISDNの使用料金の合計（円）
call setup count	ISDNを接続した回数
call error count	ISDNを接続した際エラーで解放された回数
call busy count	ISDNを接続した際相手ビジーで解放された回数

ルーティング統計情報のみかた

IP

項目	意味
in packet	総入力IPパケット数
in discard packet	廃棄された入力パケット数
in header errors packet	IPヘッダエラー受信パケット数
in address error packet	IPアドレスエラー受信パケット数
out request packet	送信要求パケット数
out discard packet	内部資源不足のため廃棄された送信要求パケット数
forward packet	フォワーディングの必要のある受信パケット数
no route packet	送信経路がないため廃棄された送信要求パケット数

ICMP

項目	意味
in message packet	受信ICMPパケット数（エラー含む）
in error packet	受信ICMPエラーパケット数
out message packet	送信ICMPパケット数（エラー含む）
out error packet	送信ICMPエラーパケット数

UDP

項目	意味
in datagram packet	受信UDPデータグラム数
in error packet	受信エラーUDPデータグラム数（チェックサムエラー等）
no port packet	受信エラーUDPデータグラム数（不正宛先ポート）
out datagram packet	送信UDPデータグラム数

TCP

項目	意味
in segment packet	受信TCPセグメント数
out segment packet	送信TCPセグメント数
in error packet	受信エラーTCPセグメント数（チェックサムエラー等）
passive open count	受動オープンした回数

RIP

項目	意味
in packet	受信RIPパケット数
sent packet	送信RIPパケット数
out request packet	送信RIP要求パケット数
in reply packet	受信RIPリプライパケット数
flash update packet	「triggered update」した回数
send error packet	送信エラーパケット数
bad receive packet	受信エラーパケット数

<コマンド操作>

- 1 回線の統計情報を表示するには「stchannel」、ルーティングの統計情報を表示するには「stip」と入力します。

(例) 回線の統計情報を表示する。

```
#stchannel
```

- 2 回線の統計情報が以下のように表示されます。

```
<lan>
alignment error frames:      0
FCS error frames   :      0
collision count    :      6
<hsd>
congestion count:      0
HSD error count :      0
<1>
congestion count:      0
load split count:      0 load split error count:      0
total time (sec) :      0 total charge (yen) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0
<2>
congestion count:      0
total time (sec) :      0 total charge (yen) :      0
call setup count:      0 call error count :      0
call busy count :      0a
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ルーティングインタフェースを表示する (ipinterface コマンド)

IPインタフェースの情報として次の内容をインタフェースごとに表示します。ただし、ダウンしているインタフェースに対しては表示を行いません。

- インタフェースのステータス
- インタフェースタイプ
- インタフェースアドレス
- インタフェースのIPアドレスサブネットマスク
- ブロードキャストアドレス
- リモートアドレス
- リモートサブネットマスク

NAT⁺を利用しているとき、ISDN回線のインタフェースアドレスが「0.0.0.0」と表示される場合があります。これは一度も接続が行われていないことを表します。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション] 画面で、[ルーティングインタフェースの表示] をクリックします。

ルーティングインタフェースに関する情報が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティングインタフェースの表示

```
<LAN>
up broadcast
address:192.52.128.122 subnet:255.255.255.0 broadcast:192.52.128.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.52.128.122 remote:192.168.168.102 remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

FITELnet-E30ではmodem回線、dp (Dチャンネルパケット通信) の情報も表示されます。

4
使う
ルー
タ機
能を

<コマンド操作>

1 「ipinterface」と入力します。

```
#ipinterface
```

2 ルーティングインタフェースが以下のように表示されます。

```
<LAN>
up broadcast
address:192.168.1.1 subnet:255.255.255.0
broadcast:192.168.1.255
<HSD>
down broadcast
<ISDN1>
up pointToPoint
address:192.168.1.1 remote:192.168.168.102
remotesubnet:255.255.255.255
<ISDN2>
down broadcast
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

ルーティング状態を表示する (iprouteコマンド)

IPルーティングテーブルとして次の内容を表示します。

- ルーティング情報を得た手段
- 宛先IPアドレスIPアドレスマスク
- 宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス
- 経由するインタフェース経路タイプ

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[ルーティング状態の表示]をクリックします。

ルーティング状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

ルーティング状態の表示

```
rip 0.0.0.0 0.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 1.0.0.0 255.0.0.0 192.52.128.1 lan indirect
other 127.0.0.1 255.255.255.255 127.0.0.1 lan direct
rip 158.202.0.0 255.255.0.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.52.121.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
other 192.52.128.0 255.255.255.0 192.52.128.122 lan direct
rip 192.52.144.0 255.255.255.0 192.52.128.1 lan indirect
rip 192.168.29.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.30.0 255.255.255.0 192.52.128.22 lan indirect
rip 192.168.32.0 255.255.255.0 192.52.128.210 lan indirect
rip 192.168.55.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.55.1 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.128.45 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
rip 192.168.128.0 255.255.255.0 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.128.200 255.255.255.255 192.52.128.200 lan indirect
rip 192.168.131.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.131.81 255.255.255.255 192.52.128.97 lan indirect
local 192.168.168.0 255.255.255.0 aite isdn1 indirect
other 192.168.168.102 255.255.255.255 192.52.128.122 isdn1 direct
local 192.168.168.103 255.255.255.255 aite isdn1 indirect
rip 192.168.202.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.209.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.234.0 255.255.255.0 192.52.128.97 lan indirect
rip 192.168.234.59 255.255.255.255 192.52.128.9 lan indirect
```

ルーティング状態のみかた

画面例では、以下の情報がわかります。

- 192.168.254.0ネットワークへは、LAN側の192.168.128.1ゲートウェイを通過して通信を行うことができる。
- この情報はRIPにより受信した。

項目		意味
ルーティング情報を得た手段	local	スタティック登録
	rip	RIPで学習
	other	localとrip以外
宛先IPアドレスIPアドレスマスク		—
宛先に到達するために送信するゲートウェイのIPアドレス		—
経由するインタフェース経路タイプ	direct	直接ルート等の自装置内の経路
経由するインタフェース経路タイプ	indirect	自装置以外の経路

次ページへ続く

< コマンド操作 >

1 「iproute」と入力します。

```
#iproute
```

2 ルーティング状態が以下のように表示されます。

```
rip 192.168.254.0 255.255.255.0 192.168.128.1 lan indirect
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

DHCPの状態を表示する (dhcpstatコマンド)

DHCPサーバ機能がARPにより認識した(すでに利用済みの)IPアドレス、IP端末からのIPアドレス取得要求に対してDHCPサーバ機能が自動配付したIPアドレス、設定 (hosttableコマンド)により割り付けが決められているIPアドレスを表示します。

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[DHCPの状態表示]をクリックします。

DHCPの状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

DHCPの状態表示

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.52.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.52.128.8
a 00:80:bd:f0:06:6b 192.52.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.52.128.13
a 00:80:bd:f0:04:3a 192.52.128.22
a 00:80:bd:f0:06:77 192.52.128.97
a 00:80:bd:f0:01:33 192.52.128.200
```

DHCPの状態表示のみかた

表示はIP端末とのペアで表示し、IP端末はIPアドレスで表わします。「割り付けが決められているIPアドレス(S)」に関しては、前もって設定により決められた内容となりますので実際に使用されているかどうかの判断にはなりません。

内部的に「割り付けが決められているIPアドレス(S)」が「ARPにより認識した(既に利用済みの)IPアドレス(a)」とぶつかった場合は、現況優先により「ARPにより認識した(既に利用済みの)IPアドレス(a)」の内容を表示します。

これにより「割り付けが決められているIPアドレス(S)」があるにも関わらず、表示されない場合は、既にそのIPアドレスは使用されていると判断できます。

<コマンド操作>

1 「dhcpstat」と入力します。

```
# dhcpstat
```

2 DHCPの状態が以下のように表示されます。

```
a 08:00:20:0f:83:54 192.168.128.1
a 00:80:bd:f0:06:f4 192.168.128.8
a 00:80:bd:f0:06:6b 192.168.128.9
a 08:00:20:7b:4d:3a 192.168.128.13
a 00:80:bd:f0:04:9a 192.168.128.22
a 00:80:bd:f0:05:77 192.168.128.97
a 00:80:bd:f0:01:33 192.168.128.200
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

NAT⁺の状態を表示する (natinfoコマンド)

アドレス変換状況を取得して、NAT⁺の状態を表示します。

- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組
- LAN側の送信元IPアドレスとWAN側の変換後IPアドレスの組に対応する宛先IPアドレス
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組
- LAN側の送信元ポートとWAN側の変換後ポートの組に対応する宛先ポートを表示します。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [インフォメーション]画面で、[NAT⁺の状態表示]をクリックします。

NAT⁺の状態が表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

NAT⁺の状態表示

```
10.10.10.10(210.170.178.31)->202.216.224.66 32768(32768)->53  
10.10.10.10(210.170.178.31)->210.155.3.205 2049(2049)->23  
210.170.178.31(210.170.178.31)->210.155.3.205 12094(12094)->12094
```

表示フォーマット

- LAN側送信元IPアドレス (WAN側変換後IPアドレス) 宛先IPアドレス
- LAN側送信元ポート (WAN側変換後ポート) 宛先ポート

< コマンド操作 >

- 1 「natinfo」と入力します。

```
# natinfo
```

- 2 NAT⁺の状態が以下のように表示されます。

```
10.10.10.10 (210.170.178.31)->202.216.224.66 32768 (32768)->53  
10.10.10.10 (210.170.178.31)->210.155.3.205 2049 (2049)->23  
210.170.178.31 (210.170.178.31)->210.155.3.205 12094 (12094)->12094
```

- 3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

エラーログを表示する (elogコマンド)

エラーに関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番号
- ログID
- ロギング時刻
- エラーコード
- タスクID
- ログメッセージ

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[エラーログ表示]をクリックします。

エラーログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

エラーログの表示

```
seq uptime      date                tid logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
975 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 20:55:43  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-082598]
976 0000:00:08.54 98/05/20 (wed) 20:56:51 10 0a003015 00000000
```

< コマンド操作 >

1 「elog」と入力します。

```
# elog
```

2 エラーログが以下のように表示されます。

```
seq uptime      date                tid logid  ecode
-----
968 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-062598]
969 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:33:33  0 00000000 00000000
#Reset[V24.30-062598]
970 0002:12:15.44 98/05/20 (wed) 16:45:48 10 0a003016 00000009
telnet login fail from 192.52.128.1
971 0002:13:01.27 98/05/20 (wed) 16:46:34 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
972 0002:27:56.10 98/05/20 (wed) 17:01:29 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
973 0005:50:33.92 98/05/20 (wed) 20:24:06 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
974 0006:21:05.19 98/05/20 (wed) 20:54:38 10 0a003015 00000000
telnet login success from 192.52.128.1
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

回線ログを表示する (llogコマンド)

回線に関するロギングとして次の項目を表示します。

- 通し番号
- ロギング時刻
- 回線種別
- エラーコード
- ログメッセージ

切断時や接続が失敗した時などは網からその原因が通知されます。その内容は切断時のログ (ログメッセージが「Disconnected」) や接続失敗時のログ (ログメッセージが「Connect fail」) の「エラーコード」に16進値で記録されています。PPPでの認証失敗時やデータリンクレベルでの接続失敗時の原因も記録されます。

< Webブラウザ操作 >

- 1 [インフォメーション] 画面で、[回線ログ表示] をクリックします。

回線ログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

回線ログの表示

LAN:

```
seq uptime      date                channel  ecode
-----
061 0000:00:00.00 98/05/20 (wed) 14:31:48 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
062 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 14:33:38 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
063 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:55:43 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
064 0000:00:00.01 98/05/20 (wed) 20:57:28 LAN    00000000
      #Reset[Y24.30-062598]
```

回線ログのみかた

項目名	意味
seq	シーケンス番号
uptime	操作が起動してからの時間 (時間・分・秒)
channel	選択した回線
ecode	回線の状況

<コマンド操作>

1 「llog」と入力します。

LAN、WAN回線個別の状況を確認する場合は、「llog」のあとに以下のオプションをつけてください。

回線種別	オプション	説明
LAN	-l	
高速デジタル専用線	-h	
ISDN#1	-1	ISDNのB1チャンネル側
ISDN#2	-2	ISDNのB2チャンネル側

(例) LANの状況を確認する。

```
#llog -l
```

2 表示された内容により、LAN、WAN回線の状況を確認します。

```
#llog -l
seq  uptime                channel  ecode
-----
000  0000:00:00.00  LAN      00000000
                                     #P_ON[V00.00-012097]
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

お知らせ

ラインログの最大ログ件数は回線ごとに20件です。20件以上のログは、最も古いログから上書きしていきます。

接続要因パケットログを表示する (alogコマンド)

ISDN回線を接続する原因となったデータのログを表示します。次の3種類のログを採取しています。

- 発呼した時間と回線
- 発呼した相手の電話番号
- 発呼の原因となったデータ (パケット) の内容

< Webブラウザ操作 >

1 [インフォメーション]画面で、[接続要因パケットログの表示]をクリックします。

接続要因パケットログが表示されます。ブラウザで再読み込み操作を行うと、最新の状態が表示されます。

接続要因パケットログの表示

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554(0))
#Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c8c70(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 8c 70 00 3c 8c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00 .<Ip.<Ip.>...
00 04 80 00 00 10 80 31 00 00 00 00 00 04 00 04 .....!.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00 .....TE..T...
fd 01 12 ce c0 34 80 e8 c0 a8 a3 65 08 00 4e 50 .....4.....f..NP
df 55 00 00 01 df 55 00 00 00 08 09 0a 0b ..U.....U.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....!*#
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23

2: 1998/01/01 (thu) 18:29:11 (00658c85:00000000 0x003c8548(104))
ISDN#1 Calling 0463251374.
00 3c 85 48 00 3c 85 48 00 3e f5 00 20 00 00 00 .<H.<H.>...
00 04 80 00 00 65 8c 84 00 00 00 00 00 04 00 04 .....e.....
80 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 04 88 00 00 .....TE..T...
fd 01 0f ba c0 34 80 6f c0 a8 a8 19 00 00 cd 01 .....4.o.....
01 ac 00 36 35 e2 43 0f 00 05 cd 22 08 09 0a 0b ...65.C.....
0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b .....!*#
1c 1d 1e 1f 20 21 22 23
```

回線ログのみかた

項目名	説明
*1	発呼した時刻
*2	発呼した回線と電話番号
*3	プロトコル識別
*4	発呼したパケットの内容の一部(PPPのヘッダーを除いた先頭から64バイト分)

<コマンド操作>

1 「alog」と入力します。

```
#alog
```

2 ログが以下のように表示されます。

```
0: 1998/01/01 (thu) 00:00:00 (00000000:00000000 0x00303554 (0))
  #Reset [V24.30-062598]

1: 1998/01/01 (thu) 02:58:52 (00106031:00000000 0x003c6c70 (104))
  ISDN#1 Calling 0463251374.
  00 3c 6c 70 00 3c 6c 70 00 3e c2 00 20 00 00 00  .<lp.<lp.>.. ...
  00 04 80 00 00 10 60 31 00 00 00 00 00 04 00 04  .....1.....
  80 00 00 00 00 00 00 54 45 00 00 54 00 af 00 00  .....TE..T...
  fd 01 12 ce c0 34 80 e8 c0 a8 a8 66 08 00 4e 50  ....4....f.NP
  df 55 00 00 00 01 df 55 00 00 00 00 08 09 0a 0b  .U....U.....
  0c 0d 0e 0f 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 1a 1b  .....
  1c 1d 1e 1f 20 21 22 23  ....!#
```

3 コマンド入力待ち状態になります。

```
#
```

4
ルータ機能を
使う

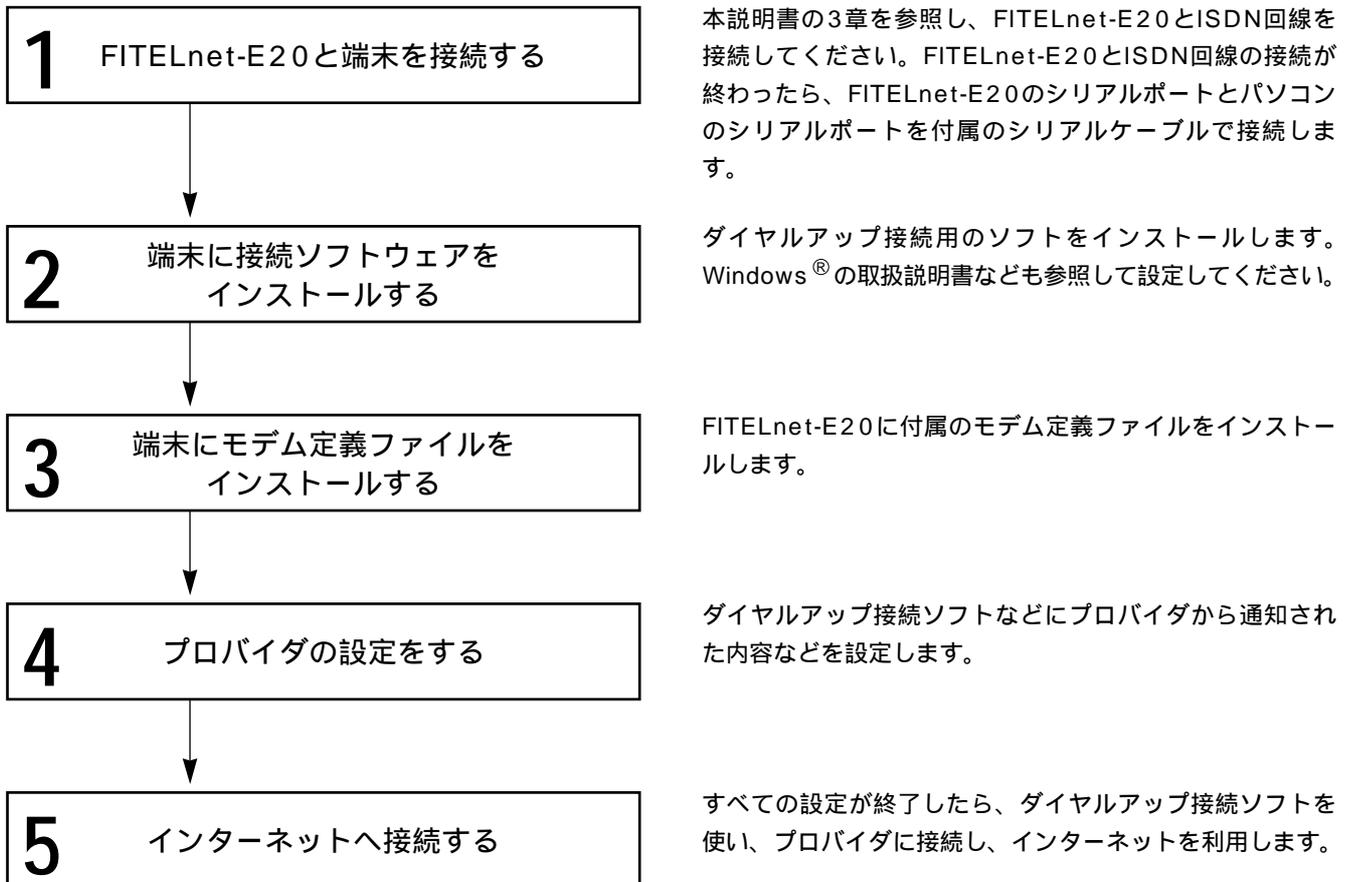
機能概要

FITELnet-E20はTA機能をサポートしています。LANボードを持たない端末でも、端末のシリアルポートとFITELnet-E20を使いインターネットに接続することができます。

Windows[®]でインターネットに接続するには、次のソフトウェアが必要です。

ソフト名	備考
接続ソフト (ダイヤルアップネットワーク)	Windows [®] に付属
モデム定義ファイル	FITELnet-E20に付属

インターネットに接続するまでの作業の流れを次に示します。



お知らせ

TA機能とルータ機能を同時にご利用になる場合は、以下の注意が必要です。

- WANをISDN2回線使用する形態にする。
- ルーティング機能で使用するIPインタフェースは1つにする。

具体的な設定方法は、以下のようになります。

WANをISDN2回線使用する形態にする。
 コンフィグレーションモードにて、"wan isdn dual"コマンドを入力します。

```
conf# wan isdn dual
```

ルーティング機能で使用するIPインタフェースは1つにする。
 コンフィグレーションモードの"interface"コマンドで、" isdn2"の設定を"down"に指定します。

例)

```
conf#interface isdn1 remote=192.168.20.1,255.255.255.0
      ISDN1のインタフェースを設定する
conf#interface isdn2 down
      ISDN2のインタフェースは"down"を指定する
```

接続ソフトをインストールするには

Windows[®] 98にはダイヤルアップネットワーク用の接続ソフトが付属しています。Windows[®] 98でダイヤルアップ接続ソフトを使用するための設定方法は次の通りです。すでにダイヤルアップネットワークをインストールしているときは、この章の操作は不要です。

- 1 [スタート]から[設定]を経て、[コントロールパネル]を選択します。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ内の [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 [Windowsファイル] タブを選択します。

- 4 「ファイルの種類」の中から [通信] をダブルクリックします。

「通信」が表示されます。

- 5 「ファイルの種類」の中から [ダイヤルアップネットワーク] をクリックしてチェックします。

ダイヤルアップネットワークのインストールが開始します。インストール中の操作は画面の指示にしたがってください。Windows[®] 98のインストールCDが必要な場合があります。インストール終了後は、パソコンを再起動してください。

お知らせ

OSのバージョンによって操作が若干違うことがあります。Windows[®] 98の説明書も参考にしてください。

モデム定義ファイルをインストールするには

FITELnet-E20に付属しているモデム定義ファイルをインストールします。

- 1 [スタート]から[設定]を経て、[コントロールパネル]を選択します。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ内の[モデム]をダブルクリックします。
いままでにモデムを接続していない場合は、「モデムウィザード」が起動します。
- 3 [モデムを一覧から選択するので検出しない]をクリックしてチェックします。
[次へ]ボタンをクリックします。画面が切り替わります。
- 4 [ディスク使用]をクリックします。
「ディスクからインストール」ウィンドウが表示されます。
- 5 [配布ファイルのコピー元]に、FITELnet-E20に添付しているCD-ROMを挿入したドライブのディレクトリ名を指定し、[OK]ボタンをクリックします。
- 6 利用する通信モードに応じたモデム定義ファイルを選択します。

各ファイルの内容は下記の通りです。

モデム定義ファイル名	内容
FITELnet-E (PIAFS32k)	32kbpsPIAFS通信用
FITELnet-E (PIAFS64k)	64kbpsPIAFS (2.0) 通信用
FITELnet-E (PIAFS64kB)	64kbpsPIAFS (2.1) 通信用
FITELnet-E (PPP)	64kbps同期通信用

モデム定義ファイルを選択したら、[次へ]ボタンをクリックします。画面が切り替わります。

- 7 [モデムを接続するポート]で、FITELnet-E20を接続しているポートを選択します。
[次へ]ボタンをクリックします。モデム定義ファイルのインストール・セットアップが開始します。
- 8 インストール・セットアップが終了したら、[完了]ボタンをクリックしてください。

お知らせ

手順2では、すでに何らかのモデムを設定している場合は、「モデムのプロパティ」が表示されます。[追加]をクリックすると、モデムウィザードが起動します。PCMCIAソケット対応(PCカード)のパソコンでは、「モデムのプロパティ」からモデムウィザードを起動する前に、もう一つウィンドウが表示されます。[開く]をクリックしてください。モデムウィザードが起動します。

プロバイダの設定

インターネットサービスプロバイダと接続するための設定操作を行います。

- 1 「マイコンピュータ」ウィンドウ内の [ダイヤルアップネットワーク] をダブルクリックします。
「ダイヤルアップネットワーク」ウィンドウが表示されます。
- 2 [新しい接続] をダブルクリックします。
「新しい接続」ウィンドウが表示されます。
- 3 [接続名] に接続先のプロバイダ名を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 4 [市外局番] [電話番号] に接続先プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。
- 5 [完了] ボタンをクリックします。
接続先プロバイダ名のダイヤルアップ接続アイコンが作成されます。
- 6 作成した接続先プロバイダのアイコンをクリックして、選択された状態 (アクティブ) にします。
- 7 [ファイル] メニューから [プロパティ] を選びます。
- 8 [サーバの種類] をクリックします。
「サーバの種類」ウィンドウが表示されます。
- 9 [使用できるネットワークプロトコル] 内の [TCP/IP] をクリックしてチェックします。TCP/IP以外のチェックはすべてはずしてください。
- 10 [TCP/IP] をクリックします。
「TCP/IP設定」ウィンドウが表示されます。
- 11 TCP/IPの設定をします。
[サーバが割り当てたIPアドレス] をクリックしてチェックします。すでにチェックされている場合、操作は要りません。
[ネームサーバアドレスを指定] をクリックしてチェックします。
[プライマリDNS] にプロバイダから通知されたDNS (ドメインネームサーバ) のアドレスを入力します。入力が終わったら、[OK] ボタンをクリックします。

お知らせ

[サーバの種類] タブの場合と [サーバの種類] ボタン場合があります。

プロバイダへの接続

設定操作が終了したら、プロバイダへ接続してみましょう。

- 1 プロバイダの名前のついたダイヤルアップ接続アイコンをダブルクリックします。

「接続」ウィンドウが表示されます。

- 2 [ユーザー名] [パスワード]にプロバイダから通知されたユーザー名とパスワードを入力し、[接続] ボタンをクリックします。

ダイヤルが開始し、プロバイダへの接続を開始します。

こんなとき	確認してください	参照ページ
電源ケーブルを接続してもPOWERランプがつかない	電源スイッチがONになっていますか。	—
POWERランプがついているが、装置が起動しない	液晶ディスプレイの表示を参照してください。 「Startup error」「Selftest error」「Boot error」 の場合は、装置異常です。弊社サポートデスクにご 連絡ください。	←P24
10BASE-Tポートに端末、HUBを接続しているのにLANのランプがつかない	接続しているポートはありますか？ ・端末の場合は1番～4番ポート ・HUBの場合は“UPLINK”と書かれたポート ケーブルの接続を確認してください。	—
回線のケーブルをつないでいるのにACTランプがつかない	ラインログを確認してください。 ケーブルの接続を確認してください。 設定や回線を調査してください。 DSUスイッチを逆にしてみてください。 極性設定スイッチを逆にしてみてください。 ISDNの場合は、通話中しか点灯しません。	—

ラインログのみかた

llogコマンドで、ラインログを参照することができます。

ラインログのecodeの下2桁で、回線理由コードが確認できます。回線理由コードはP288を参照してください。

(例) ecodeが08000210の場合

下2桁(10) 正常切断

本装置をご利用中にエラーが生じたとき、エラーメッセージを表示して原因を確認することができます。

エラーメッセージ表示方法とみかた

次の方法で、エラーメッセージ、エラーコード (ecode) を表示できます。

Webブラウザの「インフォメーション」画面 (☞P259) で、以下をクリックする

エラーログの表示 (☞P275)

回線ログの表示 (☞P276)

接続要因パケットログの表示 (☞P278)

(例) 回線ログ

ISDN1:					
seq	uptime	date	channel	ecode	
052	0000:01:27.51	98/05/20 (wed)	14:29:55 ISDN-1	080501b2	0805 (上位4桁) : 内部情報 0162 (下位4桁) : ecode
			Connect fail 10Yen		
053	0000:00:00.00	98/05/20 (wed)	14:31:48 ISDN-1	00000000	
			#Reset [V24.30-062598]		
054	0000:00:19.00	98/05/20 (wed)	14:32:07 ISDN-1	08050110	
			Connect fail 10Yen		
055	0000:00:00.01	98/05/20 (wed)	14:33:33 ISDN-1	00000000	
			#Reset [V24.30-062598]		
056	0000:00:00.01	98/05/20 (wed)	20:55:43 ISDN-1	00000000	
			#Reset [V24.30-062598]		
057	0000:00:00.01	98/05/20 (wed)	20:57:28 ISDN-1	00000000	
			#Reset [V24.30-062598]		

以下のコマンドを実行する

elogコマンド (軽重 / 中度のエラーログの表示) (☞P275)

llogコマンド (回線ログの表示) (☞P276)

tlogコマンド (重度のエラーログの表示)

alogコマンド (接続要因パケットログの表示) (☞P278)

vlogコマンド (イベントログの表示)

connectコマンドを実行時にエラーが生じたときも、ecodeを表示します。(☞P287)

(例) 回線ログ

```
####Command error.(errcode=01b2)
```

データ通信時のエラーメッセージ

ISDNの接続に失敗した場合のエラーコードについて、以下に記述します。下表でlogコマンドからエラーを探す場合は、ecodeの下4桁にて検索してください。

ecode	原因	確認してください
xx10	【正常切断】 本装置に設定してある宛先ISDN番号が、相手側ルータのISDN番号と違う可能性があります。このメッセージは、装置の異常ではなく設定ミスによるものと思われます。	接続相手装置のISDN番号を確認後、本装置の宛先ISDN番号の設定を行ってください。また、接続相手装置のサブアドレスの有無も確認してください。(☞P226)
0111	【着ユーザビジー】 本装置より相手装置に接続要求を出したが、相手装置がすでに他の装置と接続中のため、接続要求が拒否されたものと思われます。	しばらくしてから再度接続し直すか、接続相手装置が接続待ちであることを確認後、再度接続を行ってください。
0112	【着ユーザレスポンス無し】 本装置より相手装置に接続要求を出したが、相手装置から応答がないため接続要求が拒否されたものと思われます。	接続相手装置のISDN番号を確認のうえ、もう一度本装置の宛先ISDN番号の設定を行ってください。また、接続相手装置のサブアドレスの有無も確認してください。(☞P226)
011b	【相手端末故障中】 接続相手装置の電源がOFFになっているか、装置が正常運用できない状態のときに起こるものです。	接続相手装置が運用可能状態であることを確認後、もう一度接続してください。
0122	【利用可回線チャンネル無し】 本装置に設定してある運用回線が既に使用されているため、利用可能な空き回線がなく接続できない状態です。また、回線切断後すぐ接続要求をした時も起こることがあります。	現在使用している回線を切断後、再度接続を行ってください。または、しばらくしてから再度接続を行ってください。
xx26	【網障害】 回線側で何らかの障害が起きていると考えられます。このメッセージは回線側の障害、または本装置のコネクタよりISDNケーブルが外れていることが考えられます。	DSU 本装置間の、ISDNケーブルが確実に接続されていることを確認してください。また、ISDNケーブルの接続に異常がない場合は、契約している通信事業者へ回線状態の調査を依頼してください。
xx58	【端末属性不一致】 ISDN回線の接続相手が不正（電話機等）である可能性があります。	接続相手装置を確認してください。また、接続相手装置のISDN番号、サブアドレスの設定を見直してください。(☞P226)
xxb2 xxb3	【認証エラー】 PAP/CHAPの認証に失敗していると考えられます。	接続相手（プロバイダ）に指定されたアカウント・パスワードが設定されているかどうか確認してください。

回線理由コード一覧

回線へ接続できなかったときや回線を切断したときなどに、以下の回線理由コードが表示されます。コードは16進法で表示されます。

ISDN網から通知される回線理由コード

内容について詳しくは、NTTにお問い合わせください。

正常イベントクラス

値	意味等
01	欠番
02	指定中継網へのルートなし
03	相手へのルートなし
06	チャンネル利用不可
07	呼が設定済のチャンネルへ着呼
10	正常切断（接続相手側での認証（発信者番号やPPPの認証）に失敗している場合が考えられます）
11	着ユーザビジー
12	着ユーザレスポンスなし
13	着ユーザ呼出中 / 応答なし
15	通信拒否
16	相手加入者端末番号変更
1a	選択されなかったユーザの切断復旧
1b	相手端末故障中
1c	無効番号フォーマット（不完全番号）
1d	ファシリティ拒否
1e	状態問い合わせへの応答
1f	その他の正常クラス

リソース使用不可クラス

値	意味等
22	利用可回線 / チャンネルなし
26	網障害
29	一時的障害
2a	交換機輻輳
2b	アクセス情報廃棄
2c	要求回線 / チャンネル利用不可
2f	その他のリソース使用不可クラス

サービス利用不可クラス

値	意味等
31	QOS利用不可
32	要求ファシリティ未契約
39	伝達能力不許可
3a	現在利用不可伝達能力
3f	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス

サービス未提供クラス

値	意味等
41	未提供伝達能力指定
42	未提供チャンネル種別指定
45	未提供ファシリティ要求
46	制限デジタル情報伝達能力
4f	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス

無効メッセージクラス

値	意味等
51	無効呼番号使用
52	無効チャンネル番号使用
53	指定された中断呼識別番号未使用
54	中断呼識別番号使用中
55	中断呼なし
56	指定中断呼切断復旧済
58	端末属性不一致
5b	無効中継網選択
5f	その他の無効メッセージクラス

インタワーキングクラス

値	意味等
7f	その他のインタワーキングクラス

手順誤りクラス

値	意味等
60	必須情報要素不足
61	メッセージ種別未定義または未提供
62	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義
63	情報要素未定義
64	情報要素内容無効
65	呼状態とメッセージ不一致
66	タイム満了による回復
6f	その他の手順誤りクラス

回線理由コード一覧

ISDN網以外（専用線を含む）から通知される回線理由コード

次の値については、接続相手側のPPP接続手続きが動作していない、あるいはうまく動作していないと思われます。本装置に設定した認証アカウントと認証パスワードの内容を見直すか、接続相手側のPPPサーバ（RAS）を確認してください。

値	意味等	値	意味等
b0	PPP: not connected	b4	PPP: TR send retry over
b1	PPP: CR send retry over	b8	PPP: Code-Rej, Protocol-Rej receive
b2	PPP: loop timeout	b9	PPP: not exist NCP connect req
b3	PPP: TR receive		

次の値は、接続相手側や、自局側のLINE Uポートにおける極性の不一致や、回線の取り回し、機器の接続ミスに不具合が見られる場合などによくある原因です。個々の原因に対して個別の対策等のヒントが記述されていない場合は、次の対策を実施してみてください。

値	意味等	値	意味等
80	SD: start reject	a1	ISDN: incom timeout
81	SD: stop reject	a2	ISDN: clear timeout
82	SD: start timeout	e0	SD/ISDN: config error
83	SD: stop timeout	e1	SD/ISDN: all channels busy
84	ISDN: start reject	e2	SD/ISDN: channel not ready (LINE UポートやS/T点が抜けているか、LINE U 点の極性が合っていない可能性があります)
85	ISDN: stop reject		
86	ISDN: connect reject		
87	ISDN: clear reject	e3	SD: state error
88	ISDN: incoming call reject	e4	SD: stop request receive
89	ISDN: start timeout	e5	ISDN: state error
8a	ISDN: stop timeout	e6	ISDN: stop request received
90	SD/ISDN: detected INFO0 or INF02	e7	ISDN: incoming call fail after conflict
91	SD/ISDN: DL no sync (フラグ同期監視の必要がないにも関わらず、監視 するよう設定 (datalinkコマンドのwatching) さ れている場合は、その設定を解除してください)	ff	invalid port number
		fe	invalid primitive number
		fd	invalid option
		fc	phase error (すでに接続している可能性があります)
a0	ISDN: call timeout (接続相手側に着呼を同時に受け付けてしまう機器 が複数存在する可能性があります。接続相手側の着 呼条件を見直してください)	fb	bad configuration
		f6	接続相手はリミッタ動作中 (接続相手をunlockし ない限り接続できません)
		0a	ignored

対策

極性設定スイッチを切り替えてみる。

S/T点での接続が確実に行われているか確認する。

NTTに連絡し、網側からDSU折り返しのループバックテストを実施してもらい、網への接続を確認する。

接続相手側で接続の対象となる機器の状態が正しい状態にあるか確認する。

接続相手側で複数の機器がバス接続している場合、複数の機器が同時着信していないか確認する。

コマンドによるping実行時のエラーメッセージ

エラーメッセージ	原因	確認してください
[1011]Network is unreachable.	ネットワークに対するルート情報が見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • 入力を確認してください。 • ルーティング状態を確認してください。(☞P271) • LANまたはWANのケーブルが抜けていることが考えられます。ケーブルを見直してください。
[101d]No route to host.	ホストに対するルート情報が見つからない。	<ul style="list-style-type: none"> • 入力を確認してください。 • ルーティング状態を確認してください。(☞P271) • LANまたはWANのケーブルが抜けていることが考えられます。ケーブルを見直してください。
[1010]Network is down.	インタフェースがダウンしている。	<ul style="list-style-type: none"> • LANまたはWANのケーブルが抜けていることが考えられます。ケーブルを見直してください。
Ping Time Out.	相手からの応答がない。	<ul style="list-style-type: none"> • 相手端末が存在しないか、電源がOFFになっている可能性があります。

その他のエラーメッセージ

その他コマンド入力時に表示されるエラーメッセージとその意味、対応方法を以下に記述します。

エラーメッセージ	意味	対応方法等
*** someone already login	多重ログインエラー	すでにログインされている装置にログインすることはできません。先のログインがログアウトされるのをお待ちください。あるいは、ログアウトしてもらってください。
*** permission denied	コマンドの実行レベルが違います。	コマンドには、ログイン状態（ログインモード）でしか実行できないもの、コンフィグレーションモードでしか実行できないものがそれぞれ存在します。コマンドが実行できるモードに変更してください。
*** illegal strings	入力された文字列はデータとして不正です。	正しい文字列を入力してください。
*** illegal password	入力したパスワードは登録されているパスワードあるいは登録しようとしているパスワードと違います。	正しいパスワードを入力してください。
*** illegal parameter <値等>	<値等>で示される入力はパラメータとして受け付けられません。	パラメータとして正しい内容を入力してください。
*** password too long	入力したパスワードが長すぎます。	パスワードは15文字以内で設定してください。

回線理由コード一覧

エラーメッセージ	意味	対応方法等
*** not yet password	コンフィグレーションパスワードの設定が行われていませんので、コンフィグレーションモードには移れません。	コンフィグレーションパスワードの設定を行ってください。
*** parameter too long	入力したパラメータのデータは、長すぎて設定できません。	パラメータとして正しい内容を入力してください。
*** illegal address <アドレス値>	入力した<アドレス値>はアドレス値として不正です。	パラメータとして正しいアドレス値を入力してください。
*** parameter combination error	入力したパラメータの組み合わせが不正です。	正しい組み合わせで入力し直してください。
*** range error <値>	入力した<値>は設定できる範囲外にあります。	パラメータとして正しい範囲内の値を入力してください。
*** duplicate error	登録しようとしている内容は既に登録されています。	登録内容を見直すか、登録されている内容を削除してから登録してください。
*** registration overflow	登録できる件数を超過しました。	登録済みの内容を見直して不要な登録を削除してから、登録し直してください。
*** no entry	登録されているデータはありません。	必要ならばデータを登録してください。
*** no name	入力した名称は登録されていません。	登録されている名称を入力してください。
*** configuration busy	多重コンフィグレーションモードエラー	先に入っているコンフィグレーションモードが終了するのを待ってからコンフィグレーションモードに入ってください。FTPでログインされていたり、displayコマンドの表示がMOREで途中で止まっている場合でも同じ状態になります。
*** illegal socket <ソケット番号>	入力した<ソケット番号>が不正です。	正しいソケット番号を入力してください。
*** no entry <名称等>	入力した<名称等>は実行できるコマンドとして登録されていません。	コマンド名を見直すか、アナログ設定モードに移動してからコマンドを入力してください。telnetにより非表示文字が入力された場合はその内容を16進値で<名称等>に表示します。

回線ロガー一覧

ここでは、LAN、WAN回線の状況の一覧と、その場合の対処方法について説明します。
LAN、WAN回線の状況の確認方法は、P276を参照してください。

LANのログ

ecode (メッセージ)	状況	確認してください
08050200 (Ethernet Tx error)	LANの送信が失敗しました。	10BASE-Tケーブルの接続を確認してください。

高速デジタル専用線ログ

ecode (メッセージ)	状況	確認してください
08050a00 (Connected)	高速デジタル専用線が接続しました。	—
002x0000 (Line error) 00300000 (Send error) 0031NNNN (Receive error)	高速デジタル専用線が切断されました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイストペアケーブルの接続を確認してください。 ・接続相手装置の状態を確認してください。 ・終端抵抗を確認してください。 ・網 - DSU間の通信を確認してください (通信事業者に依頼)。

ISDN回線ログ

ecode (メッセージ)	状況	確認してください
08050a00 (Calling Called YYYYYY.YYYY) YYは相手番号が入る	ISDN回線が接続しました。 (Callingは発信・Calledは着信)	—
080501XX (Connect fail)	ISDNの接続に失敗しました。	P264を参照してください。
080502XX (Disconnected)	接続しているISDN回線が切断されました。	P264を参照してください。
002X0000 (Line error) 00300000 (Send error) 0031NNNN (Receive error)	ISDNが切断された、もしくは接続できません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイストペアケーブルの接続を確認してください。 ・接続相手装置の状態を確認してください。 ・終端抵抗を確認してください。 ・網 - DSU間の通信を確認してください (通信事業者に依頼)。

数字

10BASE-Tポート	26
3人でお話する	75

アルファベット

ACTランプ	19
alogコマンド	278
BACPを設定する	143
bacpコマンド	143
charge callbackコマンド	140
chargeコマンド	138,263
connectコマンド	252
dateコマンド	260
DHCP	
DHCPサーバ機能	229
DHCPの状態を表示する	272
disconnectコマンド	254
displayコマンド	144
DSUスイッチ	26
dhcpstatコマンド	272
elogコマンド	275
FAXの接続	31
FAXの発信	64
FAX無鳴動着信を設定する	114
FG端子	26
HUBの接続	31
hereisコマンド	260
INSなりわけサービスを利用する	80
INSナンバー・ディスプレイを設定する	115
INSボイスワープを利用する	79
IP RIPスタティック	240
ipinterfaceコマンド	269
iprouteコマンド	271
IPアドレスを設定する	122
IPアドレス設定用暗証番号を設定する	121
IPパケットフィルタリング	237
中継するIPパケットの登録	238
中継しないIPパケットの登録	239
ISDN	
ISDN回線の接続	223
ISDN回線の接続が可能なパケットの指定	236
ISDN回線を接続する	252
ISDN回線を切断する	254
ISDN回線のMP接続を行う	256
LANランプ	19

LINE U ポート	26
lineisコマンド	137,263
llogコマンド	276
lsplitコマンド	256,257
NATスタティック登録	233
MP接続しているISDN回線を切断する	257
NAT ⁺	
NAT ⁺ 機能	232
NAT ⁺ スタティック登録	234
NAT ⁺ の状態を表示する	274
natinfoコマンド	274
PIAFS/TA接続 (アクセスサーバ)	185
POWERランプ	19
ProxyARPの設定	243
RIP	
RIPの制御	244
受信RIPフィルタリングテーブル	245
送信RIPフィルタリングテーブル	246
rbodコマンド	142
S/T点終端スイッチ	26
showコマンド	144
stchannelコマンド	265
stipコマンド	265
syslogの送信	235
TA機能	280
TELポートのHLC設定	104
targetisコマンド	261
unlockコマンド	258
uptimeコマンド	260
Webブラウザを利用した設定	125

五十音

【ア行】

アースの接続	31
アドレス	64
アナログ機能を設定する	82
アナログ機能の設定を表示する	144
アナログ通信機器ジャック	26
アナログポートの設定をする	131
暗証番号	
IPアドレス設定用暗証番号を設定する	121
着信転送解除用暗証番号の登録	92
着信転送設定用暗証番号の登録	91
インターネット専用線接続	
インターネット専用線接続<NAT off>	198
インターネット専用線接続<NAT on>	194
インターネットサービスプロバイダとの契約	17
インターネットダイヤルアップ端末型接続	148

転送トーンを設定する	90		
ナンバー・ディスプレイについて	95		
フリー転送を設定する	93		
呼出ベル回数を設定する	89		
中継許可指定			
設定する	78,129		
利用する	78		
追加呼出遅延を設定する	108		
通信状態を表示する	263		
通信中機器移動	81		
通信中転送	74		
通信中に電話機を移動する	81		
通話中の電話を転送する	74		
停電	28		
電話を受ける	68		
電話をかける	63		
3人でお話する	75		
同じ相手にかけ直す	66		
サブアドレスを追加して発信する	64		
短縮ダイヤルで電話をかける	65		
電話を取りつく	69		
電話機を利用した設定	84		
電話機能の設定	125		
デジタル通信機器			
デジタル通信機器の接続	31		
デジタル通信機器ポート(S/T点)	26		
ディスプレイ			
ディスプレイに表示されるメッセージ	20		
ランプ表示	25		
データリンクの設定	249		
電源			
電源コード	26		
電源スイッチ	27		
電源との接続	31		
電源プラグ	26		
電話機の接続	31		
統計情報を表示する	265		
動作環境	34		
特殊ダイヤル発信	64		
【ナ行】			
内線通話	67		
内線転送	69		
内線呼出ベルを設定する	111		
ナンバー・ディスプレイ	95		
認証データの複数登録(ダイヤルアップ 接続用)	225		
【ハ行】			
パスワード			
コンフィグレーションパスワードを登録・ 変更する	52		
ログインパスワードを登録・変更する	50		
バックライトを設定する	120		
発信	63		
発信者番号通知を行う	97		
発信者番号優先着信を設定する	119		
品名シール	27		
ファームウェア	55		
ファイル転送			
電話機能	59		
ルータ機能	57		
フッキング	110		
付属品	18		
ブリッジングの設定	248		
フレームリレー接続	212		
フレックスホン契約状況を表示する	137		
フレックスホンサービス	83		
ベル回数を設定する	108		
ベル周波数を設定する	118		
保存	41		
ボリュームを調整する	107		
本体	18		
【マ行】			
モードの移行	40		
TELモードに移行する	40		
コンフィグレーションモードに移行する	40		
モデム接続	218		
モデムの発信	64		
モデム定義ファイル	282		
【ラ行】			
リセット	37,41		
リセットスイッチ	26		
リミッタを解除する	258		
利用ケース	146		
利用ケースの切り分け	147		
ルータ機能概要	145		
ルーティングインタフェースを表示する	269		
ルーティング状態を表示する	271		
ルート情報提供ルータの指定	247		
ログインパスワード	50		

項目		FITELnet-E20	FITELnet-E30
回線インタフェース	U点	1ポート	1ポート
	U点極性切替		
	DSUスイッチ		
	S/T点	1ポート	1ポート
	S/T点終端スイッチ		
LAN	10BASE-T	4ポート (+ 1カスケードポート)	4ポート (+ 1カスケードポート)
WAN	ISDN (INS-C)		
	ISDN (INS-P Dchパケット)	-	
	専用線 (64/128kbps)		
	32kPIAFS、64kPIAFS(2.0/2.1)		
	フレームリレー (64/128kbps)	-	
	AsyncPPP	-	
アナログポート		2ポート	2ポート
装置インタフェース	シリアルポート	DTE	DTE
	液晶ディスプレイ	12文字×2行	12文字×2行
電源	電源	内蔵	内蔵
	停電時バックアップ	(単三アルカリ乾電池6本必要)	(単三アルカリ乾電池6本必要)
ISDN	接続対地	20箇所	60箇所
	I・ナンバー (3番号)		
TA機能			-
サポートプロトコル		IP	IP
ブリッジング		-	
IPルーティングプロトコル	スタティック		
	RIP		
フィルタリング		アドレス、プロトコル、ポート番号、インタフェース	アドレス、プロトコル、ポート番号、インタフェース
DHCPサーバ			
データ圧縮 (StackerLZS)			
ヘッダ圧縮 (VJ Compress)			
アドレス変換		NAT, NAT ^{+(plus)} , NATスタティック, NAT ^{+(plus)} スタティック	NAT, NAT ^{+(plus)} , NATスタティック, NAT ^{+(plus)} スタティック
セキュリティ	発信者番号認証		
	PAP/CHAP		
トラフィック分散	MP		
ISDN課金監視機能 ¹			
コールバック	無課金		
	CBCP		
冗長構成	ホットスタンバイ	-	
	Layer3監視	-	
	ルータグループ化	-	
データ別優先制御		-	
Proxy DNS			
SNMPエージェント		-	
SYSLOG通知			
RADIUS		-	
フレッツISDN対応			
設定、運用		コマンド、WEB、設定ダイヤル	コマンド、WEB、設定ダイヤル
外形寸法、重量		205(W)×178(D)×54(H)mm 約1.0kg	

1 ISDN課金監視機能

ISDNの接続時間を制限する機能です。

装置導入時は、ISDNが連続12時間接続したままの状態が続くと、装置が停止します。

-
- 本書は改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
 - 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権その他の権利の侵害については、弊社はその責を負いません。
 - 無断転載を禁じます。

発行責任：古河電気工業株式会社

Printed in Japan